

年間授業計画（シラバス）

平成23（2011）年度

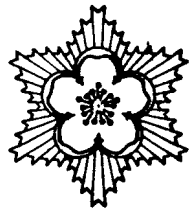
東京都立城東高等学校

進路指導部

年間授業計画（シラバス）

東京都立城東高等学校
進路指導部 編
(株) 太陽美術 印刷

発行 平成23年4月



年間授業計画（シラバス）

平成23（2011）年度

東京都立城東高等学校 進路指導部

平成 23 年度年間授業計画（シラバス）によせて
（城東高校で夢を見つけ、夢を実現しよう！）

校長 小峯健治

平成 21 年 3 月に告示された新高等学校学習指導要領では、①教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、知識基盤社会においてますます重要となる「生きる力」の育成 ②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視 ③道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成することが改訂のポイントであり、平成 24 年度に数学・理科の先行実施、25 年度に本格実施することとなっております。

東京都においては「学力向上開拓推進事業」「進学指導重点校等における進学対策の取組」など学力の向上や進学指導の充実に向けて新たな段階を迎えております。本校は「進学指導推進校（平成 22 年度～ 24 年度）」及び「平成 22 年度進学指導診断実施校」の指定を受けるとともに、平成 22 年度「スポーツ教育推進校」「東京アスリート育成推進校」「国体強化部活動候補校」の指定も受け「学習活動と部活動との両立」を教育の柱にその実現目指して取り組んでおります。「平成 22 年度進学指導診断実施校」として「進学実績向上のための経営戦略」「進学指導体制」「教科指導力」の診断を受けました。こうした診断結果も参考にして、進学指導の改善・充実を図り、基礎学力の充実、将来の職業選択を見据えた大学・学部を選択能力の育成、大学進学希望を実現できる学力伸長などを目指します。また、部活動を通して心と体を鍛え、挨拶など礼儀作法を身に付けたり、忍耐力や集中力、協調性を養うことなどを目指します。「城東高校で夢を見つけ、夢を実現しよう！」とは、まさに本校において、学習活動や部活動、学校行事など様々な教育活動に全力を尽くすことにより、例えば部活動での夢を実現したり、大学進学など進路希望を実現したり、より豊かな心や健やかな体を獲得したりして、将来、国際社会で活躍できる人材となることです。

本校の教育活動の最も重要な活動である「学習活動」の設計図が、このシラバスです。シラバスは年間授業計画だけでなく、各教科・科目の授業のねらい（目標）や進め方、学習する上での留意点や参考となる資料等の情報、そして評価の視点などが書かれております。いわば、授業担当の先生と生徒・保護者との進行計画確認書となるものです。「学習活動」で成果を上げるためには、毎日・毎時間の「授業」を大切にすることです。そのためには、予習・復習が必要不可欠であり、家庭学習・早朝学習など自学・自習が重要です。各教科・科目の特性などもありますので、本冊子を十分読み込んで学習計画を立てるようお願いします。

なお、各学年別になっておりますので、当該の学年だけでなく、先の学年も読んでいただければ次年度の講座選択の参考になるかと存じます。第一進路希望の実現に向けて、進路の手引きと併せてご覧くださるようお願いします。

目 次

【巻 頭 言】	校 長 -----	1
【1】 シラバスについて	進路指導部 -----	4
【2】 年間授業計画（シラバス）の活用について	進路指導部 -----	5
【3】 教育課程	-----	6
【4】 第1学年		
1 国語	国語総合 -----	10
2 地理歴史	地理A -----	16
3 公民	現代社会 -----	18
4 数学	数学Ⅰ -----	20
	数学A -----	22
5 理科	理科総合A -----	24
	生物Ⅰ -----	26
6 保健体育	体育 -----	28
	保健 -----	30
7 芸術	音楽Ⅰ -----	34
	美術Ⅰ -----	36
	書道Ⅰ -----	38
8 外国語	オーラル・コミュニケーションⅠ -----	40
	英語Ⅰ【英R】 -----	42
	英語Ⅰ【英SR】 -----	44
9 総合的な学習の時間	-----	46
【5】 第2学年		
1 国語	現代文 -----	52
	古典【古文・漢文】 -----	54
2 地理歴史	世界史B -----	58
	日本史B -----	60
	地理B -----	62
3 数学	数学Ⅱ -----	64
	数学B -----	66
4 理科	物理Ⅰ -----	68
	化学Ⅰ -----	70
	生物Ⅰ -----	72
5 外国語	英語Ⅱ【英R】 -----	74
	英語Ⅱ【英SR】 -----	76
	ライティング【英W】 -----	78
6 家庭	家庭基礎 -----	80
【6】 第3学年		
1 国語	現代文 -----	84
	古典【古文・漢文】 -----	86
	古典購読（自選） -----	88
	国語表現Ⅰ（自選） -----	90
2 地理歴史	世界史B（文必選） -----	92
	世界史B（自選） -----	94
	日本史B（文必選） -----	96
	日本史B（自選） -----	98
	地理B（自選） -----	100

3	公民	政治・経済（文系必修）-----	102
		政治・経済（文理自選）-----	104
4	数学	数学Ⅲ（理必修）-----	106
		数学C（理必修）-----	108
		数学B（理必修）-----	110
		数学Ⅱ+数学B（理必修）-----	112
		数学Ⅰ（センター）・数学Ⅱ（センター）数学Ⅱ（記述）（文自選）-----	114
5	理科	物理Ⅱ（理系）-----	116
		物理Ⅰ【演習】（理系自選）-----	118
		化学Ⅱ（理系）-----	120
		化学Ⅰ【演習】（理系自選）-----	122
		化学Ⅰ【センター】（文理自選）-----	124
		生物Ⅱ（理系）-----	126
		生物Ⅰ【演習】（文理自選）-----	128
		生物Ⅰ【演習】（理自選）-----	130
6	芸術	美術Ⅱ-----	132
7	外国語	リーディング【英R】-----	134
		リーディング【英SR】-----	136
		ライティング【英W】-----	138
		リーディング【英語中級】-----	140
		リーディング【英語上級】-----	142
8	情報	情報B-----	144

※第2，3学年の「保健体育」「総合的な学習の時間」、及び3年の「体育」（自選）は1年の項に記されています。

【1】シラバスについて

城東高校では、平成 13(2001)年 3 月、その年 4 月に入学してくる新入生(24 期生)のために、最初のシラバスが発行されました。白い再生紙に両面印刷されステープラーで綴じられた B 5 版の 60 頁弱の小冊子です。形式も整っていない、中身も不十分なものですが、教職員が自分たちでつくったものです。これが城東高校のシラバスの原点でした。

城東高校のシラバスはどの都立高校よりも早く、教職員の自発的な取り組みの中から作成されたものです。では、当時の城東高校でなぜ教職員の中からシラバスをつくらうという声が上がってきたのでしょうか。なぜ、城東高校では他の都立高校にさきがけてシラバスを作ったのでしょうか。

当時も、城東高校の教職員たちは、生徒たちの力をいかにして伸ばし目標を達成させることができるか考え努力していました。生徒たちもがんばって学習を進めていました。しかし闇雲に学習するだけではだめなのではないか、もっと確かな方法はないのだろうか、そう考えていたときに、ある教員がシラバスの存在を教えてくれたのです。

「シラバス」= syllabus、英和辞典には「授業・講義などの概要、授業 [講義] 予定表」「アメリカの大学では syllabus は最初の授業で各科目の担当者によって配られることが多く、何月何日にはどういう内容を授業で扱うか、試験や発表はいつかなどが細かく書かれているので、学生はこれに従って予習や準備をする」とあります。現在では日本でもほとんどの大学で、また高等学校でも多くの学校が「シラバス」を作成し、授業をより有効に行えるよう工夫が進められてきています。

つまりシラバスは各教科・科目が 1 年間どう授業を行うかを示す案内であり、各教科・科目が示すメニュー・契約書・説明責任とも言うべきものです。「城東高校の各教科・科目はこういう授業をやります。これを学習すれば力がつきます。」と、学校として皆さんに約束しているわけです。

この「シラバス」には、城東高校で、具体的にどのような学習を行っていくのかが示されています。いうなれば、内容のついた学習カレンダーです。生徒はもちろんのこと、保護者の皆様にも、今、城東高校で生徒諸君がどのような授業を受けているか、次にどのような段階や内容に進んでいくのか、ご理解いただけるようになっています。

教育活動にはなによりも「見通し」が大切です。学習は系統的・計画的に行われて初めて成果が上がるものです。高等学校で「学ぶ」ためには、筋道を立てて勉強する態度が必要です。「筋道を立てる」とは、何が目的でこのような勉強をしているのか、どこに自分の抱えている問題点があるか、を常に考えるということです。

各教科・科目の「年間授業計画」をもとに、各自で自分の学習計画を作りましょう。希望進路を実現するためには、学習の積み重ねが必要です。家庭学習を充実し、自主的・自発的な学習態度を養ってほしいところです。シラバスをおりにふれて確認し、学校の進度と自己の学習状況を確認して行ってください。

しっかりとした勉強習慣を身につけて、夢の実現にむけて力強く歩みだしてください。

平成 23 年 3 月

東京都立城東高等学校 進路指導部

【2】年間授業計画（シラバス＝syllabus）の活用について

1 シラバス(syllabus)の役割

授業は教師と生徒がともに積極的に参加して成立するものです。しかし、実際には、教師によって与えられたものをただひたすら覚え込むものになりがちです。授業計画を読むことにより、積極的に授業に参加し、かつ限られた時間の中で自分の能力を発揮することができるようになるものです。

2 学習のヒント

- ・日々の授業を、「自分の世界」を通して捉えよう。授業で学んだものを「自分の世界」に取り込まないことには学習は進みません。学ぶということは、あくまでも自分で捉えることなのです。これによって認識が明確になり、視野が広がり、豊かな精神世界が開けます。
- ・単元の基本となるものは何かを考えよう。基本と思われることは、それがいくらあろうとも、まず背負い込んで自分のものにしてしまいましょう。単元の本質的な狙い、趣旨を念頭に置いて学習してください。
- ・自分の力を深めよう。学習が進むと練習問題・提出物・実技（演技）が用意されています。全力をあげて挑戦することが大切です。テストや模擬試験は点数や順位だけでなく、自分の弱点や盲点を確認する、とてもよいチャンスなのです。学習や勉強は自分を高め、一生役に立つということを忘れずに励んでください。
- ・質問や話し合いを大切にしよう。学習で苦しんでいることについては、どんどん教員に質問すると良いでしょう。しかし、掘り下げた深い学習を行っていないと、質問にまで至らないのも事実です。また、友人との話し合いは互いに強く影響を与え合うものです。その結果、「あんなことを友人は考えていたんだ、すごい（変だ）」「友人と一緒に考えたから、これが分かったんだ（考え方が変わってきた）」「自分はこんなことに興味を持てる（持てない）人間だということが分かった」など、友人との関係で自分に変化や発展が生まれるのです。

3 シラバス利用上の注意点

授業計画には学期毎、月毎にどの単元をどのような着眼点をもって学習するかが記されています。次はどの単元を学習するかも分かりますので、積極的に予習に生かしてください。副教材・参考書の利用例が上げられていますから、自分で学習する場合の参考にしてください。各講座の評価の視点、考査（小テスト）、課題についてはよく読んでください。とても大切なことです。

【3】教育課程 第1学年（34期）

教科・科目	標準 単位	第1学年		第2学年		第3学年				備考	
		必 修	選 択 必 修	必 修	選 択 必 修	必 履 修	文 系 選 択 必 修	理 系 1 選 択 必 修	理 系 2 選 択 必 修		自 由 選 択
国 語	国語総合	4	5								▲印から1科 目選択 ○印から1科 目選択 △印から1科 目選択
	現代文	4			2	2					
	古典	4			3		4				
	古典講読	2								2	
	国語表現I	2								2	
地 歴	世界史B	4			3		◎4			2	◎印から1科 目選択
	日本史B	4			△3		◎4			2	
	地理A	2	2								
	地理B	4			△3					2	
公 民	現代社会	2	2							2	□印から1～ 2科目選択 ◆印から1～ 2科目選択
	倫理	2								2	
	政治・経済	2					2			2	
数 学	数学I	3	3							4	第3学年自由選択科目 ※文系選択科目 数学I 数学II その他は文理共に 講座を設定
	数学II	4			3				4	4	
	数学III	3						4			
	数学A	2	3								
	数学B	2			2			2	3		
理 科	理科総合A	2	3								その他は文理共に 講座を設定
	理科総合B	2									
	物理I	3				○2				2	
	物理II	3						□4	◆4		
	化学I	3			3					2	
	化学II	3						□4	◆4		
	生物I	3	2			○2				2	
生物II	3						□4	◆4			
保 体	体育	7～8	3		2		3			2	
	保健	2	1		1						
芸 術	音I・美I・書I	2		▲2							
	音II・美II・書II	2								2	
	音III・美III・書III	2									
英 語	オールコミュニケーションI	2	2								
	英語I	3	4								
	英語II	4			4						
	リーディング [※]	4				4				2	
	ライティング [※]	4			2	2					
家庭 情報	家庭基礎	2			2					2	
情報B	2				2						
総 合（奉仕）	LHR	3	1		1	1					
合計			34		34	15	25～33 必修含む	26～34 必修含む	26～34 必修含む		

第3学年自由選択科目は、文系は8単位、理系1は6単位、理系2は8単位まで自由選択科目受講が可能

必修：必修科目および学校必修科目

選択必修：学校必修科目から選択

教育課程 第2学年(33期)

教科・科目	標準 単位	第1学年		第2学年		第3学年				備考	
		必修	選択 必修	必修	選択 必修	必修修	文系 選択必修	理系1 選択必修	理系2 選択必修		自由選 択
国 語	国語総合	4	5								▲印から1科目選択 ○印から1科目選択 △印から1科目選択
	現代文	4			2	2					
	古典	4			3		4				
	古典講読	2								2	
	国語表現I	2								2	
地 歴	世界史B	4			3		◎4			2	◎印から1科目選択 □印から1～2科目選択
	日本史B	4			△3		◎4			2	
	地理A	2	2								
	地理B	4			△3					2	
公 民	現代社会	2	2							2	◆印から1～2科目選択
	倫理	2								2	
	政治・経済	2					2			2	
数 学	数学I	3	3							4	第3学年自由選択科目 ※文系選択科目 数学I 数学II その他は文理共に 講座を設定
	数学II	4			3				4	4	
	数学III	3						4			
	数学A	2	3								
	数学B	2			2			2	3		
理 科	理科総合A	2	3								
	理科総合B	2									
	物理I	3				○2				2	
	物理II	3						□4	◆4		
	化学I	3			3					2	
	化学II	3						□4	◆4		
	生物I	3	2			○2				2	
生物II	3						□4	◆4			
保 体	体育	7~8	3		2	3				2	
	保健	2	1		1						
芸 術	音I・美I・書I	2		▲2							
	音II・美II・書II	2								2	
	音III・美III・書III	2									
英 語	オールコミュニケーションI	2	2								
	英語I	3	4								
	英語II	4			4						
	リーディング [※]	4				4				2	
	ライティング [※]	4			2	2					
家庭 情報	家庭基礎	2			2					2	
情報B	2				2						
総合(奉仕)	3	1		1	1						
LHR	3	1		1	1						
合計			34		34	15	25~33 必修修含む	26~34 必修修含む	26~34 必修修含む		

第3学年自由選択科目は、文系は8単位、理系1は6単位、理系2は8単位まで自由選択科目受講が可能

必修：必修修科目および学校必修修科目

選択必修：学校必修修科目から選択

教育課程 第3学年（32期）

教科・科目	標準 単位	第1学年		第2学年		第3学年					備考	
		必 修	選択 必修	必 修	選択 必修	必履修	文系	理系1	理系2	自由選 択		
							選択必修	選択必修	選択必修			
国 語	国語総合	4	5									▲印から1科目選択 ○印から1科目選択
	現代文	4			2	2						
	古典	4			3		4					
	古典講読	2								2		
	国語表現I	2								2		
地 歴	世界史B	4			3		◎4			2	△印から1科目選択 ◎印から1科目選択	
	日本史B	4			△3		◎4			2		
	地理A	2	2									
	地理B	4			△3					2		
公 民	現代社会	2	2							2	□印から1～2科目選択 ◆印から1～2科目選択	
	倫理	2								2		
	政治・経済	2					2			2		
数 学	数学I	3	3							4	●印から1～2科目選択	
	数学II	4	1		●3 ●2 ●1				4	4		
	数学III	3						4				
	数学A	2	2									
	数学B	2			2			2	3			
	数学C	2						3				
理 科	理科総合A	2	3								第3学年自由選択科目 ※文系選択科目 数学I 数学II その他は文理共に 講座を設定 ※未開講科目 現代社会 倫理 音楽II 書道II 家庭基礎	
	理科総合B	2										
	物理I	3			○2					2		
	物理II	3						□4	◆4			
	化学I	3			3					2		
	化学II	3						□4	◆4			
	生物I	3	2			○2				2		
生物II	3						□4	◆4				
保 体	体育	7~8	3		2	3				2		
	保健	2	1		1							
芸 術	音I・美I・書I	2		▲2								
	音II・美II・書II	2								2		
	音III・美III・書III	2										
英 語	オーラルコミュニケーションI	2	2									
	英語I	3	4									
	英語II	4			4							
	リーディング [※] ライティング [※]	4				4				2		
家庭 情報	家庭基礎	2			2					2		
情報	情報B	2				2						
総 合	総合(奉仕)	3	1		1	1						
	LHR	3	1		1	1						
合 計			34		34	15	25~33 必履修含む	26~34 必履修含む	26~34 必履修含む			

第3学年自由選択科目は、文系は8単位、理系1は6単位、理系2は8単位まで自由選択科目受講が可能
必修：必履修科目および学校必履修科目 選択必修：学校必履修科目から選択

第 1 学 年

1 国 語

国 語 総 合

単位数	5
担当者	高井 秀実 加藤 洋章
教科書	国語総合 (大修館書店・分冊) 現代文編・古典編

1 講座のねらい

国語総合の目標は、「国語を適切に表現し的確に理解する能力の育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力の向上を図る態度を育てる。」と学習指導要領に明記されています。具体的には「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、また、漢字や語句の意味、言葉のきまりなどの「言語事項」を総合的に身につけることを目指しています。自己の考え・思いを伝え、相手の言うことを理解し、頭の中を整理することは全て「ことば」を用いて行われます。従って『国語』はあらゆる教科の基礎となるものです。

最近では、大学生などの若者達の間で、相手に自分を理解させ、相手のことを理解することを苦手とする人が増えているという指摘があります。社会に出ても、実際の職場での相互理解の重要さは年々増えています。現代を充実して生きていくためには、伝統文化を承継して、「故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る」教養が不可欠なので、多くの書物を読み、体験を積み、人間や歴史性、時代状況に思いを寄せ、自分で考え、世界観を構築し、自己を確立していくことが大切です。

現在をより良く生きるためには、生活の中に読書を取り入れ、人の考え・経験を追体験することを通して自己の考えを作っていくことが大切です。歴史や自然科学的なもの、思想書・哲学書など何でもよいので、人の感じたことを味わいながら自分の感受性を磨いていくようにしましょう。一方で、自己の考え・思いをきちんと相手に伝える表現力が、一段と重要になってきています。この教科は、他教科理解の基盤をなす大切なものを含んでいるので、自国語だからとなおざりにせず、しっかりと身につけてほしいものです。高校の授業は中学校のそれと比べてはるかに広範囲になり、内容も難しくなりますが、着実に学ぶことで大学受験にも対応できる学力を身につけることができます。高校三年間で、多くの文章に触れ、慣れるとともに意識的な読み方の基礎を身につけましょう。

2 授業の内容と進め方

「国語総合」では「現代文」の分野と「古典」の分野を別々の教員が担当します。

(一) 「現代文」(2単位)

明治時代以降の近代・現代の作品を学びます。「評論」「小説」「詩歌」などを読み解き、鑑賞していきます。多方面の内容で多岐の論点を含んでいますので、新鮮な興味や関心を引くものと思われれます。

(二) 古文(2単位)

古文・漢文ともに本文を繰り返し音読することで、古典のリズムを経験的につかむことができます。正確かつ深い読解に至るためには、「古典文法の習熟が不可欠」です。

「前期」・品詞・動詞・形容詞・形容動詞（この三つを「用言」という）・助動詞（一部）

「後期」・助動詞（大部）・助詞・敬語

○助動詞の活用は殆どが用言の活用と同じなので、「大基本」です。まずはここから。

(三) 漢文(1単位)

中国の古典は、わが国の文章に訳しながら読む「訓読」によって、自国の文化の一部になっています。これは古代からわが国の文化・思想に多大な貢献と寄与を果たしてきました。漢字は現在の日常生活に至るまで、深く根強い影響を与えています。返り点、再読文字・返読文字・置字など漢文独特なものがありますが、読み方・書き下し方は「古典文法」に則っており、述語・目的語・補語などの語順や構造は「英語の文型」に近いものです。

3 学習する上での留意点

① 予習がもっとも大切

「現代文」は事前に本文を読んでおき、意味のわからない語句を辞書で調べ、内容の理解できない箇所をチェックし、授業での解説の際、留意するとともに、なおわからなければ質問する心構えが大切です。

「古典」では、古文・漢文とも同様に、必ず「音読」した上、教科書の原文をノートに書き写し、語句の意味を調べ、口語訳をつけておく。「古文」では原文の右の行に文法的事項を書き込むための1行と、原文の左に口語訳の1行が最低必要です。授業での板書の事項を書き込むためのスペースもとっておくこと。「漢文」では原文の左の行に、「書き下し文」と「口語訳」のための2行が必要です。板書を書き込むスペースは古文と同じです。あとで読みやすく、見やすいように記述してください。

② 辞書を引く

「国語辞典」・「古語辞典」・「漢和辞典」が必要です。これは入学後に推薦辞書を提示します。「漢和辞典」は高校での「漢文」学習用のもので、「歴史的仮名遣い」で「韻目」が示されているものなので、中学校までの辞典とは違います。これらを常時引いて調べることが、本質的な国語力の養成に大いに役立ちます。

③ ノートを自分流に取る

板書は見出しやメモ程度のものでしかなく、教員が述べたことをそのまま書くのでは、自分の理解につながりません。自分が理解した内容を、口頭でのものも含めて、自分の言葉で書いておくことが大切です。自分の言葉でいかに捉え直していくかが本当の勉強です。よく整理された分かりやすいノートは定期考査や大学受験に大きな力を発揮します。

④ 読書をする

私たちの体験は限られたものです。しかし書物の中には古今東西の多くの人達の様々な思考、体験、感動、研究が語られているのです。それを通して自分の世界を豊かにできます。

4 副教材・参考書

新修 古典文法 (京都書房)	・古典学習の際、常に手元に置いて活用し、古典文法の習熟・完成を図る。3年間使用。
必携 新明説漢文 (尚文出版)	・古典文法演習用。文法の体系的な学習や、実践力・応用力の養成を図る。3年間使用。
必携 新明説漢文ノート (尚文出版)	・句形演習用。漢文の基本を身につける。3年間使用。
新総合 国語図説 (東京書籍)	・国語学習全般に関わる資料集。授業から入試まで総合的に活用する。3年間使用。
改訂版 パーフェクト常用漢字 (第一学習社)	・定期考査や小テストで漢字力を養成する。漢字検定にも対応している。2年間使用。
1+ 新装版 基礎現代文 (尚文出版)	・実戦的な補充問題集。長期休業中の宿題用。
1+ 新装版 基礎古文 (尚文出版)	・同上
1+ 新装版 基礎漢文 (尚文出版)	・同上
現代文学名作選 (明治書院)	・高校で触れておきたい名作を読むために使用する。朝学習に使用。

5 課題・補習について

各授業の前に、次の範囲に関する課題や宿題などが出ます。予習としてきちんとやっておいてください。授業進度より遅れたもの、進んでいるものについては、長期休業などを活用して適宜補習を設定します。

6 評価の視点・考査について

基本的には、年5回の定期考査、宿題テスト、小テストなどによって評価します。これが評価の中心となりますが、日頃の授業態度・学習意欲、提出物の提出状況なども加味します。評価基準に達しない場合には、その都度補習や追試などによって手当てをします。

学年末評定は、これらの評価を基に総合的に判定します。

授業計画：国語総合【現代文】

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4	評論一	水の東西－山崎正和 「美しさの発見」について－高階秀爾	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評論読解の基礎固め。 ・ 要旨をつかみ、新しい分野に関心をもつ。 ・ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、評論文を読み味わう。
	5	小説一 定期考査	羅生門－芥川龍之介	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小説に親しみ、筋の展開や主題を読み解く。 ・ 登場人物の心情や場面を理解する。
	6	評論二	メディアとしての顔－原島博 「しきり」の文化論－柏木博	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者のものの見方や考え方を読み取り、自分の考えを深める。 ・ 論理的な文章の構成を理解し、文章の内容を叙述に即して的確に読み取る。
期	7	小説一 定期考査	良識派－安部公房	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寓話的な内容をとらえ、ものの見方や考え方を広げたり深めたりする。
	8	夏季休業		
	9	評論三	知識の扉－港千尋 自然と人間の関係をと おして考える－内山節	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理の展開に即して内容を正確に読み取り、自分の意見を持つ。 ・ 論理の展開を理解し、環境問題に対する筆者を読み取る。
期	10	小説二 定期考査 評論四 評論五	鏡－村上春樹 言葉についての新しい 認識－池上嘉彦 恐怖とは何か－岸田秀	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小説に親しみ、場面や心情の変化を表現に即して読み味わう。 ・ 日本語の特性に対する関心や理解を深め、言語文化に関する認識を深める。 ・ 論理的な文章の構成を理解し、筆者の考えをもとに自分の意見をもつ。自我について考える。
	11	小説三 定期考査	とんかつ－三浦哲郎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の心理や性格を理解し、現代の短編小説の魅力を楽しむ。
	12	冬季休業		
	1	評論六	ゆらぐ科学のリアリテ ィー－黒崎政男 人間の中にあるヒト－ 中村桂子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理の展開に即して内容を正確に読み取り、ものの見方や考え方を深める。 ・ 論理的な文章の構成を理解し、現代社会についての考えを深める。
	2	小説四	城の崎にて－志賀直哉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の構成・展開を正しくとらえ、生き生きとした描写を味わい、人間や生と死について考えを深める。
	3	定期考査 まとめ 春季休業	一年間の総復習と反省	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業評価アンケート

授業計画：国語総合【古文】

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	古文入門 説 話	ガイドランス 宇治拾遺物語「児のそ ら寝」「絵仏師良秀」	・古文と現代文の違いを理解し、古文読解の基 礎を学ぶ。 ・古文の世界に親しむ。
	5	定期考査	今昔物語集「阿蘇の史、 盗人にあひてのがるる こと」	・古典文法を学び、文語の規則を理解する。
	6	随 筆	徒然草「これも仁和寺 の法師」「奥山に猫ま たといふもの」「ある 人、弓射ることを習ふ に」 枕草子「春はあけぼの」 「はしたなきもの」	・自然や人間に対する作者の見方、感じ方、考 え方を理解する。 ・随筆の文章表現の特色について理解する。 ・古典の文法の基礎について理解を深める。
	7	定期考査		・授業評価アンケート
	8	夏季休業		
	9	物 語 日 記	竹取物語「なよ竹のか ぐや姫」 伊勢物語「芥川」「あ づま下り」	・助動詞の意味、活用、接続を習得する。 ・登場人物の性格や心理の動きを読み取る。 ・日記文学の表現の特 色や国風文化について 理解を深める。
後 期	10	定期考査	土佐日記「門出」「帰 京」	・文章中の和歌の役割について理解する。 ・古人の旅についての理解と認識を深める。
	11	軍記物語 定期考査	平家物語「祇園精舎」 「木曾の最期」	・軍記物語固有の表現や、当時の人々の考え 方を理解し、味わう。
	12	冬季休業		
	1	和 歌	万葉集 古今和歌集	・後世に多大な影響を与えた三大和歌集を味わ い、特徴的な表現や修辞技巧について理解を 深める。 ・助詞の意味、用法を習得する。
	2	俳 諧	新古今和歌集 奥の細道「旅立ち」「平 泉」「立石寺」	・俳諧の理念と「蕉風」について理解する。 ・連歌との関係も含め、我が国の伝統的詩型を 学ぶ。 ・季語、切れ字について考察する。
3	定期考査 まとめ 春季休業	一年間の総復習と反省	・授業評価アンケート	

授業計画：国語総合【漢文】

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	漢文入門 故 事	ガイドランス 訓読入門 「五十歩百歩」「矛盾」 「朝三暮四」「蛇足」	・漢文の特徴や訓読のきまりを学ぶ。 ・現代に生きる故事成語の意味や用法について理解を深める。
	5	史 話 定期考査	「先従隗始」	・様々な人物像を通して、人間の生き方について考えを深める。
	6	史 話 唐 詩	「臥薪嘗胆」 「絶句」「静夜思」 「江雪」「春夜洛城聞 笛」「送元二使安西」	・唐詩の詩型、押韻の仕方、対句などのきまりを理解しつつ、詩情を味わい、鑑賞力を高める。
	7	定期考査		
	8	夏季休業		
	9	唐 詩	「涼洲詞」「山行」 「春望」	・当時の時代背景を念頭に置き、詩に歌われた情景や心理を味わう。
後 期	10	定期考査	「香炉峰下、新卜山居、 草堂初成、偶題東壁」 「代悲白頭翁」	
	11	文 章 孔子と孟子の思想	「雑説」 「学問」	・「雑説」における文章表現の特色と論の展開の仕方について理解する。 ・我が国の思想や文化に多大な影響を与えた儒家思想に触れ、自分の生き方や人生の参考にする。
	12	定期考査 冬季休業		
	1	孔子と孟子の思想	「政治」	・孔子や孟子の政治や為政者に対する考えを知り、理想的な政治についての考えを深める。
	2	唐代の物語	「人面桃花」	・日本にも影響を与えた中国唐代の物語を読み、そこに描かれた生き生きとした人物の姿を読み取る。
	3	定期考査 まとめ 春季休業	一年間の総復習と反省	授業評価アンケート

2 地理歴史

地理A

単位数	2
担当者	岩本 一美 武田 英和 神前 佳代子
教科書	よくわかる地理A

1 講座のねらい

国際化社会といわれる世の中。世界をグローバルに見る方法を地理では学ぶことができます。身近な諸問題から世界の人々の様々な文化や慣習を知り、それに触れることで視野は広がります。高校の社会科入門として地理Aを学んでいきます。

2 授業の内容と進め方

世界の地誌を中心に現代の社会が直面する諸問題に触れていきます。移り変わる現代世界の動向に常に注目し、授業に反映させるようにしていきます。

3 学習する上での留意点

ノート整理は常に授業中行うこと。また、地図帳を活用し、知らない地名はチェックをしよう。資料集は授業の内容を説明できる写真が多用されているので、それを見てイメージを湧かせるようにしてください。

4 副教材・参考書

新詳高等地図 初訂版
フォトグラフィア地理図説 2011

5 課題・補習について

必要に応じて補習等を行います。

6 評価の視点・考査について

年間の定期考査・小テスト・提出物など総合的な評価を行います。

授業計画：地理A

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	地球的課題と私たち ・人口問題	教科書 地図帳 資料集	先進国や途上国で起きている諸問題を理解し、それぞれに因果関係があることに注目。
	5	・食糧問題 ・居住、都市問題 定期考査	同 上	同 上
	6	・地球環境問題 ・エネルギー問題	同 上	同 上
	7	世界の諸地域 定期考査		世界をいくつかの地域分けし、それぞれの特徴を理解。また、おもな国々の文化・生活様式などに触れ日本との違いを認識します。
	8	夏季休業		
	9	・東アジア地誌 ・東南アジア地誌 ・南アジア地誌	同 上	同 上
後 期	10	・中東地誌 ・アフリカ地誌 定期考査	同 上	同 上
	11	・ヨーロッパ地誌 ・アングロアメリカ地誌	同 上	同 上
	12	定期考査 冬季休業		
	1	・ラテンアメリカ地誌	同 上	同 上
	2	・オセアニア地誌 地図の学習	同 上	身近に存在する地図の利用を理解し、地域の再発見に目を向けます。
	3	定期考査 春季休業		

3 公民

現代社会

単位数	2
担当者	渡邊 純規
教科書	実教出版「高校現代社会」

1 講座のねらい

高校での社会科には、地歴科の「地理」「日本史」「世界史」、公民科の「現代社会」「倫理」「政治・経済」の6科目があります。これらの科目は本来密接な関連があり、すべて最終的には、私たちが現在生きている「社会」についての理解を深めることを目的としています。「現代社会」は、これらの科目相互の関連性を考慮した総合的な性格ももっています。すべての科目は「現代社会」に始まり、さまざまな分野の学習を経て、再び「現代社会」に戻ってくるといってもいいでしょう。

そのようなことも鑑みながら、この「現代社会」では、社会のさまざまなことに目を向け、幅広く考え、「社会において生きる人間」「社会をつくる人間」として学び育っていくサポートをすることを目的とします。

2 授業の内容と進め方

授業では教科書・資料集の内容に準拠しつつ、必要に応じて適宜配布するワークシートやプリント資料を使いながら、「現代社会」を学んでいきます。グループでの討論や、自分の考えを書くこと、発表することなど君たちが主体的に参加する授業も適宜行います。

3 学習する上での留意点

- ・科目の性質上、日常的に新聞を読んだり、テレビのニュース番組を見たりすることによって社会の出来事に目を向けることが重要になります。それは、他教科の学習ややがて直面する大学受験にも必ず役に立つはずです。具体的な方法は、授業で指示します。
- ・日本の各都道府県や世界の国名、日本史の時代区分など、中学までに学んだ地理や歴史の基本的事項の習得は必須です。不十分な人は、早めに自習しておいてください。

4 副教材・参考書

- ・資料集 … 清水書院『資料現代社会2011』（学校で一括購入します）
- ・授業中に配布するプリント資料
- ・その他、必要なものについては、授業で指示します。

5 課題・補習について

- ・長期休業中などに、課題を出します。
- ・必要に応じて、補習、補講を行います。

6 評価の視点・考査について

授業内容を中心とした5回の定期考査が、評価の最も重要な材料になります。それに、課題（日常的なもの、長期休業中のもの）などの平常点を加えて評価をします。

授業計画：現代社会

期	月	単元・考査・提出物	授業内容と着眼点
前 期	4	第1編 現代に生きる私たちの課題	・現代社会の課題のうちの2つ程度について、さまざまな観点から目を向け、幅広く考察、探求する。
	5	第2編 現代の社会生活と青年 定期考査	・現代社会の特徴と青年期の意義について理解し、自己との関わりにも着目しながら多様な角度から考察する。
	6	第3編 現代の経済生活と経済社会 1章 現代の経済社会と政府の役割	・価格メカニズム、金融、財政など経済についての基本的事項を、時事的な問題も踏まえながら理解する。
	7	定期考査	
	8	夏季休業	
	9	2章 経済活動のあり方と国民福祉	・戦後日本経済の流れ、産業構造の変化、労働問題、社会保障などについて理解を深める。
後 期	10	定期考査 第4編 現代の民主政治と民主社会 1章 現代の国家と民主政治	・民主政治や人権思想が生まれた背景を学び、民主政治の基本的原理を理解する。
	11	2章 日本国憲法と国民生活	・日本国憲法を中心に、基本的人権や平和主義、政治制度などについての基本的事項を理解し、幅広く考察する。
	12	3章 民主社会の倫理 冬季休業	
	1	第5編 国際社会の動向と日本の役割 1章 国際社会の動向	・国際政治の特質を国際法の特徴や国際機関の役割などから理解し、日本と国際社会の関連について考察する。
	2	2章 国際経済の問題と日本の役割	・貿易収支などの国際経済指標の見方や際国経済の仕組みを理解し、グローバル化が進む国際経済の特徴と課題について考察する。
	3	定期考査 春季休業	

4 数 学

数学 I

単位数	3
担当者	
教科書	数学 I (東京書籍)

1 講座のねらい

「数と式」、「方程式・不等式」、「二次関数」、「図形と計量(三角比)」及び「三角関数」について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、具体的な事象の考察を通して、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにします。

2 授業の内容と進め方

右ページの授業計画を参考にしてください。数学 I の内容は、早めに終了する予定なので、三角比の発展内容として「三角関数」を学習します。教科書の内容の講義と演習を中心に授業が進められますが、必要に応じて副教材や参考書等で補足します。

3 学習する上での留意点

- ・やや高度な内容を早めに進行するので、授業前に教科書で予習、授業後に教科書、副教材等で復習をしっかりと行ってください。
- ・答案の書き方に注意してください。中学校までの結論のみでなく途中経過も書くこととなります。
- ・様々な困難に遭遇しても決して諦めないでください。一人で悩んでいないで友達や先生に相談してみてください。必ず道は開けます。

4 副教材・参考書

- ・高数への基礎練習 数学入門 (数研出版)
- ・ニュースコープ数学 I + A (東京書籍)
- ・ニュースコープ数学 II + B (東京書籍)
- ・ニューアクションβ 数学 I + A (東京書籍)
- ・ニューアクションβ 数学 II + B (東京書籍)
- ・数学 I 補充資料 (東京書籍)

5 課題・補習について

日常的に様々な種類の課題が課されます。詳しくは授業担当者の指示に従ってください。

補習は、定期考査前や長期休業中を中心に行います。様々なレベルで適切な時期に実施する予定です。

6 評価の視点・考査について

定期考査は年 5 回。その他長期休業後に課題テスト、さらに実力テストを実施します。

評価は、5 回の定期考査と 2 回の課題テストを中心に提出物の状況も考慮し総合的に判断します。

授業計画：数学 I

期	月	単元・考査・提出物	授業内容と着眼点
前 期	4	第1章 数と式	①整式 ②整式の加法減法乗法③因数分解 ④実数⑤平方根⑥1次不等式⑦2次方程式 数や式の計算を筋道の通った考え方に従って、 正しく自由自在に行えるようにする。実数の概念を 理解し、絶対値の基本的性質を把握する。 1次不等式、2次方程式の解き方を理解し、それを さまざまな問題に活用する。 ①関数、二次関数のグラフ ②二次関数の最大・ 最小 ③二次関数の決定 ④二次不等式 関数の概念を正しく理解し、その性質を調べる のにグラフの様子を利用することが、非常に有 効な手段であることを認識する。 二次関数のグラフから二次方程式と二次不等式 の解の意味を明確に理解して、様々な二次不等 式を正しく解けるようにすることが大切である。 文字係数のある二次関数についても理解を深 め、最大最小問題の場合分けを視覚的に座標 平面上で描けるようにする。
	5	第2章 方程式と不等式 定期考査 課題提出	
	6	第3章 2次関数	
	7	定期考査 課題提出	
	8	夏季休業	
9	宿題考査 課題提出		
後 期	10	第4章 図形と計量 定期考査 課題提出	① 鋭角の三角比 ② 三角比の拡張 ③ 三角形への応用 ④ 図形の計量 図形の性質・測量問題を解決する方法として 三角比の諸定理が非常に有効であり、それら を使いこなす処理能力を身につける。平面図 形、特に三角形と円についても理解を深め、 空間図形についても初歩的な把握力をつける。
	11		
	12	定期考査 課題提出	
	1	↓冬季休業 宿題考査 課題提出 発展 三角関数	
	2		
3	定期考査 課題提出	① 一般角 ② 三角関数とそのグラフ、性質 ③ 三角関数についての方程式、不等式 ④ 加法定理 ⑤ 三角関数の合成 一般角の概念から三角関数を定義し、その 相互関係や諸性質、グラフの特徴や周期性、 三角方程式、不等式や三角関数を含む関数 などの扱いを理解し、計算処理する能力を 十分に身につける。	

数学 A

単位数	3
担当者	
教科書	数学A（東京書籍）

1 講座のねらい

「集合と場合の数」、「確率」、「論証」、「平面図形」、「方程式・式と証明」、「図形と方程式」について理解させ、基礎的な知識と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにします。

2 授業の内容と進め方

右ページの授業計画を参考にしてください。数学Aの内容は、早めに終了する予定なので、数学Iの発展的内容として「方程式・式と証明」「図形と方程式」を学習します。教科書の内容の講義と演習を中心に授業が進められますが、必要に応じて副教材や参考書等で補足します。

3 学習する上での留意点

- ・やや高度な内容を早めに進行するので、授業前に教科書で予習、授業後に教科書、副教材等で復習をしっかりと行ってください。
- ・答案の書き方に注意してください。中学校までの結論のみでなく途中経過も書くことになります。
- ・様々な困難に遭遇しても決して諦めないでください。一人で悩んでいないで友達や先生に相談してみてください。必ず道は開けます。

4 副教材・参考書

- ・高数への基礎練習 数学入門（数研出版）
- ・ニュースコープ数学Ⅰ＋A（東京書籍）
- ・ニュースコープ数学Ⅱ＋B（東京書籍）
- ・ニューアクションβ数学Ⅰ＋A（東京書籍）
- ・ニューアクションβ数学Ⅱ＋B（東京書籍）
- ・数学Ⅰ 補充資料（東京書籍）

5 課題・補習について

日常的に様々な種類の課題が課されます。詳しくは授業担当者の指示に従ってください。

補習は、定期考査前や長期休業中を中心に行います。様々なレベルで適切な時期に実施する予定です。

6 評価の視点・考査について

定期考査は年5回。その他長期休業後に課題テスト、さらに実力テストを実施します。

評価は、5回の定期考査と2回の課題テストを中心に提出物の状況も考慮し総合的に判断します。

授業計画：数学 A

期	月	単元・考査・提出物	授業内容と着眼点
前 期	4	第1章 集合と場合の数	①集合と要素の個数 ②順列 ③組合せ ④二項定理 ⑤重複組合せ
	5	定期考査 課題提出 第2章 確率	具体的な事象の考察などを通して順列組合せについて理解する。 ①確率とその性質
	6	第3章 論証	②独立試行と確率,期待値 不確定な事象を数量的にとらえることの有量性を認識し、それを積極的に活用する。
	7	定期考査 課題提出	①命題と条件 ②論証 論理的な思考を伸ばし,命題等の考察に活かすことができるようにする。
	8	夏季休業	
	9	宿題考査 課題提出 第4章 平面図形	①三角形と比 ②円周角 ③円と直線 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め, 図形の見方を豊かにするとともに図形の性質を論理的に考察し処理することができるようにする。
後 期	10	定期考査 課題提出	
	11	方程式・式と証明	①整式の除法と分数式 ②2次方程式 ③高次方程式 ④式と証明
	12	定期考査 課題提出	方程式を発展的にとらえ、複素数まで拡張して2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解けるようにする。
	1	↓冬季休業 宿題考査 課題提出 図形と方程式	①2点間の距離 ②内分点外分点 ③直線の方程式 ④2直線の関係 座標や式を用いて直線等の基本的な平面図形の性質や関係を考察し処理できるようにする。
	2		
	3	定期考査 課題提出	

5 理 科

理科総合 A

単位数	3
担当者	
教科書	新版理科総合 A (実教出版)

1 講座のねらい

第1学年では、理科総合 A の物理分野を中心に学習します。現代の科学技術の進歩はめざましいものがあります。火星に着陸した探査機から送信された写真画像を地球上で見ることができるようになりました。これらの科学技術を支える自然科学の基本となる考え方の一端に触れていきます。この講座では、日常身の回りにある自然現象に目を向け、そこから法則性を見つけ出していきます。理論だけでなく、様々な実験を通して論理的な考え方が身に付くようになることを目指します。

2 授業の内容と進め方

まず、力学について学習します。物体の運動、落体の運動を学びます。つぎに波動について学習します。水面波や音波のいろいろな現象やその中にある基本的な原理や法則を学びます。また、力学に戻って、力と運動の関係、エネルギーを学びます。最後に、化学分野の基礎について学習します。実験で体験しながら理解を深めていきます。

3 学習する上での留意点

自然科学では、自然界の法則を数式で表します。しかし、数式の暗記では役に立ちません。基本の理解がないと自然科学の理解や応用力は身につけません。基本の出発点から納得するまでよく考えて、理解するように努力してください。また、復習として問題を繰り返し解いて、実力を定着させましょう。実験は自然現象をより深く理解し、自然科学的な考え方を養うのに欠かせません。実験終了後にはレポートを提出してもらいます。

ノートをきちんと用意し、授業プリントも貼るなり綴じるなりきちんと管理してください。

4 副教材・参考書

- ①「ステップアップノート物理 I」(啓林館：授業中に使用する問題集)

基本的問題が中心なので、授業で学習した内容の確認に使用します。

- ②「センサー物理 I」(啓林館：家庭学習用問題集)

定期考査の試験範囲になります。授業の進度に合わせて学習しておいてください。

例題をこなして応用問題までやると、センター試験レベルの実力がつきます。

5 課題・補習について

実験後は必ずレポートを提出してください。また、定期考査の時には、問題集のレポートを提出してもらうので、専用のファイルを用意してください。

6 評価の視点・考査について

評価は、定期考査の点と平常点を合計し総合的に行います。平常点は、実験レポート・課題・問題集レポート・授業態度等を点数化してつけます。

授業計画：理科総合A

期	月	単元・考査等	教材	授業内容と着眼点
前期	4	I 力と運動	1 運動の表し方	・いろいろな物理量を理解し、等加速度直線運動を考える。
	5	II 波動 定期考査	2 落体の運動	・落下運動を解析する。
			1 波の伝わり方と種類 2 重ね合わせの原理と波の干渉	・波と媒質の関係を理解し、作図から波のいろいろな現象を解明する。
	6		3 波の反射・屈折・回折 4 音波	・定常波・波の干渉を理解し、計算問題も解けるようにする。
	7	定期考査	5 固有振動と共鳴	・音波について、他の波と比較しながら考える。
	8	夏季休業		・固有振動数・共鳴・うなりなどの現象を実験や観察を通して考える。
後期	9	I 力と運動	3 力のつりあい	・力をベクトルとして理解し、合成・分解ができるようにする。
	10	定期考査	4 運動の法則	・運動方程式を立て、様々な運動を解析する。
	11	III エネルギー 定期考査	5 仕事とエネルギー	・仕事の定義、仕事の原理を理解する。
			6 熱とエネルギー 7 電流とエネルギー	・力学的エネルギー保存の法則を使って運動を解析する。
	12	冬季休業	8 エネルギーの変換と保存	・熱と温度、エネルギーの関連を理解する。
	後期	1	IV 物質の構成粒子	1 物質の種類と性質
2		2 物質と元素 3 原子の構造と同位体		・いろいろなエネルギーの形、変換と保存について学ぶ。
3		4 電子の配置とイオン 5 物質の構成と表し方		・純物質と混合物、混合物の分離と精製を実験する
3		定期考査 春季休業	6 元素の周期表 7 物質の量の表し方 8 化学反応式	・元素記号で元素を表す。
				・原子の構造、電子配置を理解し、イオン化合物を調べる。
				・原子の結合の仕方、周期表を学ぶ。
				・モルと化学反応式について学ぶ。

生物 I

単位数	2
担当者	辻村 保弘 中川 敏彦
教科書	改訂版 高等学校 生物 I (数研出版)

1 講座のねらい

この世界にはなぜこんなにいろいろな生物がいるのでしょうか？こうした驚きと疑問が生物学のルーツの1つです。生物を知ることは単純に面白いです。この面白さをぜひ皆さんにも知ってほしいと思っています。また、最近ではヒトクローンや遺伝子組換えなどをめぐる問題や環境問題などが注目されていますが、これらを考えるには生物学の知識が不可欠です。現代人にとって必要な基本的な教養として、生物分野の基本的知識を身につけてもらうことが本講座の目標です。

2 授業の内容と進め方

主として、生物 I の教科書の前半(第1編：生命の連続性)の内容について、講義と実験・実習を組み合わせ学習します。教科書の後半(第1編の残り)と第2編：生物の生活と環境)は第2学年(選択)になってから学びます。

3 学習する上での留意点

指示されたことをきちんと実行することはもちろん必要ですが、それだけではなく、自ら疑問を持ち、進んで探求していく姿勢が大切です。

授業中は板書された内容を書き写すだけでなく、自らの考えや聞いた内容もメモしましょう。実験・実習は他人まかせにせず、自分の体を動かし自分の頭で考えましょう。さらに実験レポート作成を通じて物事をしっかり考えるトレーニングをしましょう。

4 副教材・参考書

- ・資料集「増補四訂版 サイエンスビュー生物総合資料」(実教出版)→授業中に図を参照することが多いので、必ず持参してください。
- ・問題集「センサー新編 生物 I」(啓林館)→主に自宅学習用ですが、定期試験対策等に利用してください。

5 課題・補習について

実験・実習後にレポート提出の課題があります。

6 評価の視点・考査について

定期試験(年5回・各100点満点)の素点と平常点を組み合わせて評価します。平常点は主に実験・実習レポート・提出物(ノート等)によって評価します。学習への取り組み方、注意深い観察力や的確な表現力など、知識・理解だけでない部分を評価するためです。提出物は提出期限を必ず守って下さい。

授業計画：生物Ⅰ

期	月	単元・考査等	教 材 (項目)	授業内容と着眼点
前	4	細胞と個体の 成り立ち	生命の単位－細胞	●顕微鏡実習と講義により、生命の単位としての「細胞」について実践的に理解する。
	5	定期考査	細胞膜と物質の出入り 細胞のはたらき	・顕微鏡の使用法、マイクロメーター使用法 ・いろいろな細胞 ・浸透圧(原形質分離、トラウベ人工細胞)
	6		細胞の増殖と分化 単細胞と多細胞生物	・体細胞分裂の観察 ・水中の生物
期	7	定期考査	個体の成り立ち	・植物、動物の組織と器官 ・組織の観察 (ツバキの葉の断面等)
	8	夏季休業		
	9	生殖と発生	生殖 生殖細胞の形成	●いろいろな生殖方法を知り、有性生殖の意義について理解するとともに、動物の体がどのようにしてできあがるのかを理解する。
後	10	定期考査	動物と植物の生殖	・減数分裂の過程、染色体の分かれ方 ・染色体実習
	11		動物の発生	・ウニ、カエルの発生過程 ・ウニの初期発生の観察
	12	定期考査 冬季休業	動物の発生のしくみ	・形成体と誘導、中胚葉誘導(視聴覚教材)
期	1	遺伝	遺伝の法則	●遺伝についての基礎的事項を学習する。 (「遺伝子と染色体」以降は2学年の予定)
	2		いろいろな遺伝	・遺伝子の相互作用 ・血液型の遺伝
	3	定期考査 春季休業		・トウモロコシの種子(胚乳)の遺伝 ・伴性遺伝

6 保健体育

体育

単位数	3 (第1学年) 2 (第2学年) 3 (第3学年必修) 2 (第3学年選択)
担当者	体育科全員

1 講座のねらい

運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、計画的に運動に親しむ能力を身に付けます。また、各種の運動を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、生涯を通じて継続的に運動ができる能力を育てます。

2 授業の内容と進め方

具体的な内容は年間計画表を参考にしてください。6月下旬～9月中旬までは、3学年とも水泳を行い、3年間で男女共4泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）がマスターできるようにします。1月からの第1・2学年の授業は、2月に行われるマラソン大会に向けて持久走中心の授業となります。第3学年は種目選択授業で、グループに分かれて授業計画を立て自分たちで授業を実践していきます。

3 学習する上での留意点

自己の体力を理解し、自らの健康を適切に管理・改善し、常に体調を整えて授業に臨むこと。また、個人及び集団生活における健康・安全についても理解を深め、公正・協力・責任などの態度を身に付けましょう。特に水泳と持久走の授業では、自己の能力に応じた課題（記録）を設定し、その課題（記録）を自ら解決（更新）できるように心掛けましょう。

4 副教材・参考書

特にありません。

5 課題・補習について

水泳の授業は、それぞれの学年によって課題が決められています。7月の最終週に、課題の泳法がマスターできていない生徒及びもう少しうまく泳ぎたい生徒を対象に、補習を行います。

6 評価の視点・考査について

それぞれの授業（種目）ごとに実技試験を行います。実践教科であるため授業は、積極的に参加することが原則です。身体を動かし、筋力・敏捷性・柔軟性・持久力を高めるとともに、仲間と協力しあい、自分の課題（記録）にチャレンジすることが大切です。

授業計画：体育

		前 期						後 期							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
第1学年	男子	新 体 力	柔道							柔道			柔道		
			陸上	水泳						バスケットボール			持久走		
			ソフトボール							サッカー			持久走		
	女子		ダンス							ダンス			持久走		
			陸上	水泳						ソフトボール			持久走		
			バレーボール							バドミントン			持久走		
第2学年	男子	テ ス	硬式テニス	水泳						サッカー			持久走		
			器械運動							バレーボール			持久走		
	女子		硬式テニス	水泳						ソフトボール			持久走		
			器械運動							バスケットボール			持久走		
第3学年	男子	ト	選択種目	水泳						種目選択体育					
	女子		選択種目	水泳						種目選択体育					
	選択		選択体育						選択体育						

		前 期						後 期					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
関 連 行 事			体育祭	球技大会		水泳大会	球技大会					マラソン大会	球技大会
				第3学年		第12学年	第12学年					第12学年	第1学年

備考：外種目は天候が悪い場合には、場所や種目に変更される場合があります。

保健

単位数	1 (1・2年)
担当者	体育科全員
教科書	1年 保健体育 (第一学習社) 2年 保健体育 (第一学習社)

1 講座のねらい

健康的な生活習慣を身につけたり、地球環境を守ったりするための知識や能力を高めたり、生涯スポーツに向けて運動技能を高め、それを実践する努力が重要であることを理解できるようにします。

2 授業の内容と進め方

『生活習慣病』、『ストレス』、『喫煙』、『飲酒』、『薬物への誘惑』、『環境汚染』など、私たちのまわりに健康をおびやかすたくさんの危険因子が存在していることを理解し、現代社会のなかで、心身共に健康的な生活を送っていくために、高校生に求められていることを学びます。また、応急処置（救急法）では、実習を通して心肺蘇生法の手順と方法を身につけます。第2学年の後期からは研究発表授業となり、ここでは各グループごとに研究テーマを決め、研究活動（研究計画・実態調査・資料収集・文献研究・実験など）を行い、発表する授業です。

3 学習する上での留意点

高校期は、人間の成長過程で重要な位置を占めていて、身体的には形態発育がほぼ完了する時期です。保健の学習内容は、健康的な生活を送るために必要なことが多く、現状の健康状態のレベルを少しでも高めるために、自分自身や実際の生活と照らし合わせながら理解していくことが大切です。また、健康については、個人としてだけでなく、社会の一員として、更に地球上の一員としての取り組みが必要とされていることを理解し、将来より豊かな生活を送るためには何が大切なのかを課題として学習してください。

4 副教材・参考書

特にありません。

5 課題・補習について

特にありません。

6 評価の視点・考査について

第1学年は、2回の定期考査で評価します。担当者によっては課題提出等も考慮されます。第2学年は、前期の期末考査と研究発表授業で評価します。研究発表授業では、グループの研究内容や活動状況・資料内容・発表方法等が評価されます。

授業計画：保健（第1学年）

期	月	単元・考査等	授 業 内 容	着 眼 点
前 期	4	現代社会と健康 健康の成り立ち	疾病構造の変化 健康的な生活習慣 健康の成立条件	健康に生きていくためにはどうすればいい のかを、健康の成立条件などを考えながら 学んでいこう。
	5	食事と健康 運動と健康 休養と健康 定期考査	適切な食事 適切な運動 適切な休養	
	6	応急処置	倒れている人への対応 心肺蘇生法とその実際	手順と方法を確実に身につけよう。
	7	喫煙と健康 定期考査	喫煙による健康への影響 ※定期考査 受動喫煙の害	『喫煙のない世代づくり』を考えよう。
	8	夏季休業		
	9	飲酒と健康	アルコールによる健康への影響・ アルコール依存症 ※定期考査	飲酒がもたらす健康への影響を理解しよ う。
後 期	10	薬物乱用 定期考査 医薬品と健康	薬物乱用と依存症 薬物乱用の害 医薬品の考え方	薬物に手を出さないためには？ 副作用を知る。
	11	大脳と精神機能 心身相関 欲求と欲求不満 定期考査	大脳辺縁系と大脳新皮質 心とからだの関わり 欲求とその種類	大脳の働きと心とからだの関わりを学ば う。
	12	適応機制 冬季休業	適応機制とその種類	合理的な方法で障壁を取り除くには？
	1	自己実現 集団の健康	自己の可能性の発見 感染症予防	健康で文化的な生活を送るためには、どう すればいいのだろうか。
	2	生活習慣病	エイズとその予防	
	3	定期考査 春季休業	※定期考査	

授業計画：保健（第2学年）

期	月	単元・考査等	授 業 内 容	着 眼 点
前 期	4	家庭生活と健康	ライフステージ 思春期と性 結婚と健康	生涯を見通した健康生活の設計ができるようにしよう。
	5	定期考査	母子と健康 加齢と健康 リハビリテーション	健康生活を脅かす危険因子を理解しよう。
	6	職業生活と健康	健康的な職業生活 余暇の健康的な活用	働く人の健康づくりを学ぼう。
	7	定期考査	環境と健康 公害の原因と健康被害 ※定期考査	大気・水・土壌、いずれも生命維持に欠かせないものだから、防止対策を学ぼう。
	8	夏季休業		
	9	保健・医療制度	保健行政 医療制度 ※定期考査	公的・組織的な活動内容を知ることも大切です。
後 期	10	研究発表授業 定期考査	グループ分け 研究テーマ決め ↓	保健に関係するテーマを選び、各グループに分かれて研究を進めていく。
	11		資料収集 文献検索 実験・実地調査	グループノートの記入も評価される。
	12	定期考査	実態調査 情報収集	
		冬季休業		
	1		アンケート調査 発表方法決め	
	2	研究発表 ↓		発表については、発表方法の工夫が必要です。
	3	定期考査		
	春季休業			

7 芸術

音楽 I

必修選択

単位数	2
担当者	菅 新
教科書	高校生の音楽 1 (教育芸術社)

1 講座のねらい

音楽の表現（歌唱）と基礎知識を充実させる事を第一の目的とします。歌唱の充実と音楽理論の学習・さらには創作まで学習します。

2 授業の内容と進め方

「校歌」の練習から始めます。楽譜の中に書かれている様々な音楽用語を学習しながら歌います。その後、簡単な音楽理論に入ります。夏休み明けより高度な内容の音楽理論と、教科書の内容に基づいた歌唱の学習です。自己表現の場として発表会を含みます。冬休みがあれば創作です。1・2学期で学んだ事をもとにして、様々な形式の楽曲を創作します。

3 学習する上での留意点

何と言っても、いかに授業に参加するかということが重要です。いかに良い声をもっているも、そのままでは自分の声は生きてこないのです。今までの音楽経験が豊富な人はごく自然に声を出すことはできますが、音楽選択者とはいえ全員が経験が豊かとは限りません。積極的な授業参加が大きなポイントです。また、理論の学習では音符と用語が沢山出て来ます。その内容を把握するために、五線ノートを活用する事が大切です。

4 副教材・参考書

「音楽通論」(教育芸術社)を使用します。図解入りで、読めば誰でも理解することができます。さらに理論を勉強したい人や、将来音楽関係の大学や専門学校へ進みたいと考えている人は、「楽典」(音楽之友社・末吉安雄 石桁真礼夫その他著)を参考にしてください。これは、第3学年で音楽系への進学希望者の授業に使用する教材です。将来を見ずえて持っておくのも良いでしょう。

5 課題・補習について

課題や補習は特に考えてはいません。毎日の授業が大切です。

6 評価の視点・考査について

実技試練は、自己表現として音楽会形式の歌唱の試験があります。年間2回です。理論についての筆記試験も年間2回です。冬休み以降では創作を行いますが、その作品の提出があります。それぞれの試験の点数に平常点を加味し、冬休み明けの創作作品を点数化し年間の成績を出します。どんなに素質を持っていても、授業に集中して参加する事が、大きな鍵になります。

授業計画：音楽Ⅰ 必修選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	校歌	校歌プリント	楽譜の内容を理解 大きな声で堂々と歌う 歌唱することの大切さと面白さを体得する
	5	通論 定期考査	音楽通論	音楽の基礎を学ぶ。音符・休符・拍子・五線等、簡単な楽譜の理解
	6			音部記号・譜表・音名（幹音・派生音）変化記号等、より高度な楽譜の理解
	7	歌唱 定期考査	五月の歌	芸術歌曲の歌唱 歌唱テスト
	8	夏季休業		
	9	歌唱	Beautiful Dreamer (英語詩による・暗譜)	原語での歌唱
後 期	10	定期考査	音楽通論	音程・度数 種類・幹音間の音程・派生音を含む音程 様々な音階
	11		Caro mio ben (伊語による歌唱)	原語での歌唱
	12	定期考査 冬季休業	歌唱テスト	
	1		創作	創作を通じて、楽曲と楽譜の結びつきを理解する。(動機・小楽節・大楽節・二部形式・三部形式)
	2			
	3	定期考査 春季休業		発表会

美術 I

必修選択

単位数	2
担当者	仲間 孝樹
教科書	美術1 (光村図書)

1 講座のねらい

現代美術の体験を通して美術の理解を深め、美術のほんとうの楽しさに触れる事を目的にします。

2 授業の内容と進め方

まず、自分を描いてもらいますが、発見（感動）ということを理解する為のものです。すぐに現代美術に続きます。空き缶を使ってオブジェを体験し、その発見から表現にまで至ります。次にオリジナルすごろくを制作。遊び道具として実際に使えるものにします。後期は一冊の美しい絵本を手造りします。最後は自分のキャッチコピーを考えて自己PRポスターを制作します。

3 学習する上での留意点

同じ課題でも人によってかかる時間が違います。行きつ戻りつようやくたどり着いた作品には人を引きつける何かがあります。一気に出来上がった作品にはキラリと光るものがあります。時間がある限りは「もう少し先、もう少し深い所へ」と導きます。

現代美術の授業では、工業製品として大量生産され、今は不要になった身近にある、あらゆる物を材料にしますので必ず各自で用意してください。普通はゴミと呼ばれているものです。

4 副教材・参考書

ありません。

5 課題・補習について

授業がすべてです。

6 評価の視点・考査について

考査はありません。

平常点（よく手が動いているか）と作品の独創性（深く考え、楽しんでいるか）、質（丁寧か）を総合的に考慮し評価します。

授業計画：美術 I

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	素描 自画像	スケッチブック 鉛筆 2 B ・練り消し	いつも見る鏡に映ったイイ顔でない自分を発見しながら描く。
	5	現代美術 オブジェ	空き缶 2 個以上 家にある色々なゴミ	空カンを使って実際に体験する。 平面化・再構成を通して理解を深める。
	6	デザイン	スケッチブック	身近にあるゴミとなった工業製品を「美」として意識（発見）してみる。
	7	オリジナルすごろく	アクリル絵の具	オリジナルの内容のすごろくを考え、実用に耐え得る作品にする。 駒・駒ケースも制作する。
	8	夏季休業		遊び道具としての良いデザインの在り方を理解する。
	9	デザイン 手作り絵本	スケッチブック	絵本の内容を決め、内容に合った絵本の形
後 期	10			・表紙の布地を決める。 スケッチブックを材料にして一冊の絵本を手造りする。
	11		アクリル絵の具	表紙をみただけで手に取ってみたいくなるか？ページをめくるたびに幸せな気持ちになれるか？文学では味わえない絵本の可能性を追求する
	12	冬季休業		
	1	デザイン 自己PRポスター	スケッチブック	インパクトのあるキャッチコピーを考え、イラストレーション・デザインを決める。
	2		アクリル絵の具	レタリングする。レイアウトする。 ポスターの役割を理解する。
	3	春季休業		

書道 I

必修選択

単位数	2
担当者	吉澤 敏江 廣谷 淳一
教科書	書 I (教育図書)

1 講座のねらい

中国で生まれた「漢字」とその伝来により生まれた日本の「仮名」は、単にことばを書き表す記号としてだけでなく、先人達の美を求める心によって芸術にまで高められました。現代では個性豊かな書が多く生まれ、幅広い表現活動が行なわれています。

本校の書の学習では、整った美しさだけでなく、幅広い書作品鑑賞をすることによって、さまざまな美しさを自分の心で捉え、思いにかなう表現をしていくことを目標にしています。

2 授業の内容と進め方

書の学習の基本は古典（古人の筆跡）を手本として習うことで、これを「臨書」といいます。本校の授業では、中国と日本の古典の臨書を中心に、学習を進めていきます。臨書を通して古人と対話し、自分らしい表現へとつなげていきましょう。黒板を使った全体指導と、個々に応じた添削指導を行ないます。

3 学習する上での留意点

書道用具一式（半紙、墨汁等の消耗品を含む）、教科書は、各自用意してください。

実技が中心の授業となります。わからない時は質問し、添削指導を積極的に受けて、実力アップを図りましょう。毎時間しっかりと取り組むことが大切です。

4 副教材・参考書

特に使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

5 課題・補習について

夏休み、冬休みの課題は、特に予定していません。

課題は必ず提出しましょう。やむを得ず、時間内に完成させることが出来なかった場合は、各自休み時間や放課後の時間を使って仕上げ、提出してください。

6 評価の視点・考査について

中間・期末考査は予定していません。

以下の2点から評価します。

- ・提出物（課題作品、プリントなど）
- ・平常点（授業態度など ※忘れ物はしないこと。）

授業計画：書道Ⅰ 必修選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	書へのいざない 漢字仮名交じりの書	・漢字仮名交じり文	書写と書道の違い、用具用材について 書きたい言葉に合った書風を工夫します。 筆に慣れ、筆の機能を知ることが大切です。
	5	漢字の書 〈楷書〉 ・唐の四大家 定期考査	・孔子廟堂碑 …… ・九成宮醴泉銘 …… ・雁塔聖教序 ……	書体の変遷と楷書の古典について 伸びやかで温雅な書を学びます。 引き締まった厳正な書を学びます。 抑揚ある清らかな細い線が特徴。軽快な書を学びます。
	6	・北魏の書	・顔氏家廟碑 …… ・牛橛造像記 …… ・鄭義下碑 ……	向勢の構え、「顔法」という独特の筆法が特徴。重厚な書を学びます。 力強く角張った書を学びます。
	7	・創作 定期考査	・語句	ゆったりとした趣き。円勢の書を学びます。 これまでに学習した古典を活かして、自分の好きな語句を題材に、自由に創作します。 半切というサイズの紙にも挑戦します。
	8	夏季休業		
	9	〈行書〉 ・王羲之の行書	・集王聖教序・蘭亭序	行書の成立と特徴について 「書聖」といわれる王羲之の書を学びます。
後 期	10	定期考査 ・和様の書	・争坐位文稿 …… ・風信帖 ……	顔真卿の剛直さが出ている重厚な書。 空海(弘法大師)の書。日本の行書を学びます。
	11	〈隸書〉	・曹全碑 ……	伸び伸びとした美しい波磔を持つ、典型的な八分隸です。臨書して隸書の基本を身につけましょう。
	12	暮らしの中の書 定期考査 冬季休業	・実用書	・手紙、葉書、封筒の宛名書き、のし袋等の書式について学びます。学んだことを日常に活かしましょう。
	1	仮名の書	・高野切第三種 ……	仮名の成立と仮名の種類について 仮名の基本用筆、仮名の単体と連綿の練習 仮名の筆遣いやリズムに気を学びます。
	2	・創作	・寸松庵色紙・升色紙	2種類の色紙の臨書を通して「散らし書き」を学びます。 学習したことを活かして創作します。
	3	定期考査 漢字仮名交じりの書 春季休業	・漢字仮名交じり文	これまでに学習した漢字、仮名の古典をもとに、用具、用材の使い方を工夫しながら、書きたいと思う言葉を自由に書きます。

8 外国語

オーラル・コミュニケーション I

単位数	2
担当者	大橋 儀次 平野 靖子
教科書	Expressways I Advanced Edition

1 講座のねらい

- ① 英語によるさまざまな表現を文法的に理解しながら身につけます。
- ② 基礎的なリスニングができるようにします。
- ③ 英語による基礎的なコミュニケーションができるようにします。

2 授業の内容と進め方

- ① 授業は1週間に2時間行われます。
- ② 副教材「be English Grammar 27」を使用する文法の学習が柱となります。
- ③ 副教材「Hyper Listening Introductory」を使用して、リスニングを練習します。
- ④ 教科書「Expressways」を使用して、英語によるコミュニケーションを練習します。

3 学習する上での留意点

- ① 英語によるさまざまな表現を文法的にしっかり理解した上で覚えていきましょう。
- ② 理解したことを「使える」ようにするには、数多くの反復練習が必要です。
- ③ 英語を、「見てわかる」だけでなく、「聞いてわかる」「話せる」「書ける」ように学習していきましょう。
- ④ 教えられるのを待っているのではなく、自ら学び、考え、理解するようにしましょう。

4 副教材・参考書

- ① 「be English Grammar 27」(いっずな書店)
- ② 「be English Grammar 27 ワークブック」(いっずな書店)
- ③ 「be 総合英語」(いっずな書店)
- ④ 「Hyper Listening Introductory」(桐原書店)

5 課題・補習について

- ① 必要に応じて、様々な課題が出されます。
- ② 補習は希望に基づいて参加するものの他に、参加が義務付けられるものがあります。

6 評価の視点・考査について

- ① 定期考査の得点・課題の提出状況・小テストの得点・授業態度を総合して「オーラルコミュニケーション I」の評定をつけます。
- ② 定期考査は100点満点で、使用する全ての教材から出題されます。

授業計画：オーラルコミュニケーションⅠ

期	月	単元・考査等	教材 (Lesson)	授業内容と着眼点
前期	4		be (1,2) Hyper Listening (1,2) Expressways (1,2)	英語の語順 Description, Recorded Messages Commuting to School, Using the Phone
	5	定期考査	be (3,4,5) Hyper Listening (3,4) Expressways (3,4)	文の種類、時制 Conversation, Position The School Festival, Recycling and the Environment
	6	定期考査	be (6,7,8) Hyper Listening (5,6) Expressways (5,6)	完了形、助動詞 Teachers' Instructions, Announcement Driving and Directions, Using Computers and E-mail
	7		be (9,10) Hyper Listening (7,8) Expressways (7,8)	助動詞 Conversation, Location Doing Volunteer Work, Talking about the Weather
	8	夏季休業		
	9		be (11,12,13) Hyper Listening (9,10) Expressways (9,10)	受動態、不定詞 Presents, Interview on the Street Weekend Plans, Shopping
	10	定期考査	be (14,15) Hyper Listening (11,12) Expressways (11,12)	不定詞 Conversation, Description Visiting the Doctor, Hobbies
	11		be (16,17, 18) Hyper Listening (13,14) Expressways (13,14)	動名詞、分詞 Speech, On the Radio Superstitions, Pets
	12	定期考査 冬季休業	be (19,20) Hyper Listening (15) Expressways (15)	分詞、関係詞 Conversation Getting Theater Tickets
後期	1		be (21,22) Hyper Listening (16,17) Expressways (16,17)	関係詞 Schedule, Interview Future Plans, Sports
	2		be (23,24,25) Hyper Listening (18,19) Expressways (18,19)	比較、仮定法 News, Conversation Housing, Preparing for a Speech Contest
	3	定期考査	be (26,27) Hyper Listening (20) Expressways (20)	仮定法、時制の一致と話法 Discussion Eating Out
		春季休業		

英語 I 【リーダー】 R

単位数	2 / 4
担当者	大橋 儀次 平野 靖子
教科書	UNICORN English Course I

1 講座のねらい

中学校で学んだ英語の内容を整理し、さらに発展させ基本的かつ総合的な力を養います。
話す・聞く・読む・書く の4技能のバランスを目指し、高校英語の基礎を固める講座です。

2 授業の内容と進め方

授業は1週間に2時間行われます。4技能のバランスをとります。

3 学習する上での留意点

- ① 中学と比べて文構造が複雑で新出単語の数も圧倒的に多くなります。授業前には予習を必ずしていただくことが前提です。まずは辞書なしでざっと読み進め、わからない単語の意味を推測しながら内容をおおまかにとらえてください。
- ② 次にわからなかった単語の意味を辞書で確認しながら、各文の意味を考えます。単語の意味は辞書の最初のものとは限らないので注意してください。辞書をきちんと使いこなすことは3年間の英語の学習においてとても重要となります。第1学年の最初で辞書の使い方については指導します。面倒がらずに辞書をひく習慣をつけましょう。
- ③ 復習においては、授業中に理解した内容を確認した後で繰り返し音読をします。
本文を暗唱できるところまで繰り返し音読することが理想です。

4 副教材・参考書

- ① 「be 総合英語」 英文読解に必要な知識の参考書です。3年間を通して読み返し活用することにより文法・構文の知識をゆるぎないものにします。授業後、既習事項の確認のためにも活用できます。
- ② UNICORN English Course I 予習・サブノート 授業の予習に活用します。
- ③ UNICORN English Course I WORKBOOK 一課終了ごとに提出します。
- ④ 辞書（紙のもの） 授業中も活用するので必ず持参してください。

5 課題・補習について

WORKBOOK 以外にも別途課題の取り組みが求められます。
補習・講習は必要に応じて行われます。

6 評価の視点・考査について

定期考査は50点満点で、RS（サイドリーダー）と合算して100点満点となります。
さらに宿題・課題の提出状況、適宜行われる小テスト、授業態度や参加意欲なども総合的にみて2科目を統合して評価し「英語 I」の評定を出します。

授業計画：英語 I R【リーダー】

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	導入 Lesson 1	UNICORN YOU CAN CHANGE THE WORLD	文の種類 / 5 文型
	5	Lesson 2 定期考査	UNIQUE SPORTS	基本時制 / 進行形 / 現在完了
	6	Lesson 3	ALEX THE PARROT	受動態 / 助動詞
	7	Lesson 4 定期考査	LIFE IS SO GOOD	to 不定詞 / to 不定詞を含む文型
	8	夏季休業	【夏課題】	
	9	Lesson 5	TOFU:AWORLD FAVORITE	分詞の形容詞的用法 / 関係代名詞
後 期	10	Lesson 6 定期考査	THE GREAT JOURNEY	関係副詞 / 比較 / It is +名詞[形容詞]+that 節
	11	Lesson 7	ONE STEP BEYOND	S+V+O+O(=if[whether]節, 疑問詞節) S+V+O+O(=疑問詞+to 不定詞) S+V(=be)+C(=疑問詞+to 不定詞)
		Lesson 8	ARE WE ALONE IN THE UNIVERSE	仮定法過去 / 未来進行形 / I wish + 仮定法過去
	12	定期考査 冬季休業	【冬課題】	
	1	Lesson 9	CHAGALL:A LIFE OF LOVE AND ART	過去完了 / 未来完了 / 進行形、完了形の受動態
	2	Lesson 10	SOSEKI IN LONDON	助動詞+have+過去分詞 / S+V+O+C(=現在分詞, 原形不定詞) 分詞構文 (現在分詞)
	3	定期考査 春季休業		

単位数	2 / 4
担当者	大橋 儀次 平野 靖子
教科書	UNICORN I

1 講座のねらい

英文を速読多読し、直読直解出来る力を育成し、読解力を向上します。
簡単な日常会話を理解して自発的に話せるように、英語運用能力を高め実践力を育成します。

2 授業の内容と進め方

1週間に2時間の「サイドリーダー」では、テキスト本文の内容把握を中心とします。授業に参加するには予習をしておく事が前提となります。1時間で1課、又は2～3ページ程度進みます。また、年に数回、外国人講師による授業が行われます。この授業では教科書の復習（英問英答）と「EXPRESSWAYS」の学習（リスニングなど）を行います。

3 学習する上での留意点

Readerの授業では1文ずつの意味をとらえる精読が中心となりますが、このSide Readerの授業では「どのような話題がとりあげられているか」「どのように物語が展開していくか」をすばやく読み取る速読がねらいです。まず1課（章）をまとめて辞書を引かずに読んでみる。どういふことを筆者が伝えようとしているのか把握し、分からない単語は本文の内容から推測して読み進めます。1度読み終わってから分からなかった語を辞書で引き、自分で意味を把握してみます。授業では自分の解釈があっているかどうか、また分からなかったところを確かめ、ノートに板書以外のことでも必要なことは書き留めます。分からなかった単語はその時に覚えるようにすること。1課ごとに20～30語程度の新出単語があります。後でまとめて覚えようとは思わないこと。意味のわかりにくい文は授業で説明しますが、すべての文を詳しく日本語にはしていきません。

4 副教材・参考書

- ① Watching Light 2010-2011 (浜島書店)
- ② Good-bye, Mr. Chips (美誠社)
- ③ Three Love Stories from O. Henry (エミル出版)

5 課題・補習について

長期休業中には長文読解の課題が出ます。長期休業中に講習が行われる予定です。また、通常の授業期間中は、必要があれば昼休み・放課後等に補習が行われることがあります。

6 評価の視点・考査について

定期考査は50点満点でR（リーダー）と合わせ100点満点となります。さらに予習状況、授業態度、提出物、小テスト等も総合的にみて、2科目を統合し「英語 I」の評定を出します。

授業計画：英語 I (SR)【サイドリーダー】

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4		Watching Light	Chapter 1 ～ 4
	5	定期考査	Watching Light	Chapter 5 ～ 9
	6		Watching Light	Chapter 10 ～ 14
	7	定期考査	Good-bye, Mr.Chips	Chapter 1
	8	夏季休業		
	9		Good-bye, Mr.Chips	Chapter 2
後 期	10	定期考査	Good-bye, Mr.Chips	Chapter 3 ～ 4
	11		Good-bye, Mr.Chips	Chapter 5 ～ 6
	12	定期考査 冬季休業	Good-bye, Mr.Chips	Chapter 7 ～ 8
	1		Good-bye, Mr.Chips	Chapter 9
	2		The Last Leaf The Gift of the Magi	
	3	定期考査		
			春季休業	

9 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間

単位数	1
担当者	担任等

1 「総合的な学習の時間」の校内での名称

第1学年は、「奉仕」 第2学年及び、第3学年は「総合学習」とします。

2 講座のねらい

- ① 生徒自身が自己の性質や特徴をよく理解し、将来の自分の在り方を探ります。
- ② 希望進路の実現を図るため、主体的な情報収集、情報分析をして、具体的な進路設定・選択へと繋がります。
- ③ 自己表現をする能力、グループでプレゼンテーションする能力を養います。
- ④ 各教科・科目を横断的に掘り下げ、自主的に課題を見つけて問題解決を図ります。

3 授業の進め方

第1・2・3学年とも水曜日の第3時限に実施します。

第1学年「奉仕」では、「奉仕体験活動」を週休日、長期休業日を活用して集中的に行います。

週時程へ位置付ける授業時間に事前・事後指導を行い、残余の時間については第2、3学年における「総合学習」に連携する進路学習を行います。第2、3学年の「総合学習」については、第3及び4校時のLHRを活用して2時間連続実施することがあります。

4 授業の内容

第1学年： 生徒一人一人に「奉仕」に関する基礎的、基本的な知識を習得させ、活動の理念と意義を理解させるとともに、社会の求めに応じて活動し、社会の一員であること及び社会に役立つ喜びを体験的に学ぶことを通して、将来、社会に貢献できる資質を育成します。1単位時間を越える部分の一部については、第2、3学年の総合的な学習の時間につながる進路学習を行います。

第2学年： <前期> 将来の進路目標の具体的な設定に向けて、主体的に進路選択に必要な情報を収集・分析します。また、職業、学問、大学等についての様々な調査活動を通して、基礎・基本としての情報収集能力、読解力、分析力、表現力等を育成します。①現在と将来の自分を見つめ、高校生活の目標と進路について考えます。②「大学・学問調べ」活動は、興味・関心のある学問分野・領域ごとに班を編成し、班で学問及び学ぶことのできる大学（学部・学科）について調査して、分析・考察します。また、班ごとに報告書を作成して、各ホームルームで発表会を行います。

<後期> 前期の「大学・学問調べ」活動を通して学んだ情報収集能力、分析力、読解力、表現力等を踏まえて、さらに生徒一人一人の具体的な進路について、自己実現する能力を向上させられるようにします。このため、後期ではこれらの能力を深化させ、地域文化、国際理解、環境等の課題にかかわる学習として、修学旅行を題材とした班ごとの研究を進めます。また、高校卒業後の進路を想定して、第3学年の科目選択について理解を深めます。さらに、自らの進路について、具体的に考え、判断できるようにします。

第3学年： 第1、2学年の学習を踏まえ、課題研究としてさらに自己の将来の在り方について考えるとともに、様々な情報を収集し、整理して活用する活動を行って、各個人の能力の伸長を図ります。

- ①高校卒業後の進路をさらに深く考え、自ら判断し、行動できるようにします。②様々な課題について、自らの考えを具体的に述べるができるようにします。③1年次から取り組んできた総合学習の総まとめとしての課題研究を实践し、自ら選択した課題について横断的に探求して総合化を図ります。

第1学年 授業計画：奉仕

期	月	項目	授業内容
前 期	4	①「奉仕」オリエンテーション	①「奉仕」の意義を理解させるために、基礎的・基本的な知識をまとめる。
	5	②社会に貢献するための活動	②社会に貢献する活動について調査する。
	6	③活動の企画	③活動について考え、調査し、発表する。
	7	④奉仕活動の分野	④グループ討議し、全体に発表する。
	7	⑤進路学習 (自己探求活動)	⑤週時程に位置付ける残余の時間で適性検査を実施して、その結果から自己分析及び将来目標を試みる。
	8	夏季休業	
	9	⑥「奉仕体験活動Ⅰ」 ⑦事後学習 「活動の記録」 「自己評価とまとめ」	⑥地域の中学3年生に部活動と学習活動を共にする計画に基づいて、特に危険防止と安全面に気をつけた指導を心掛ける。 ⑦体験活動を通して、自らが課題を解決できたかについて、自己評価し、分析する。
後 期	10	⑧「街づくり」「地域安全」「環境美化」分野の活動	⑧行政に関する基礎知識、町の課題や解決策、地域が推進する地域計画、地域の危険箇所、ゴミや環境の状況についての学習
	11	⑨進路学習 (職業調べ)	⑨週時程に位置付ける残余の時間で、興味・関心のある職業について班別学習を実施し調査研究、報告書作成及び発表活動を行う。学習成果の達成状況について、報告書を提出させ、グループ発表する。
	12		
	1	⑩「奉仕体験活動Ⅱ」	⑩地域の中学1・2年生に部活動と学習活動を共にする計画に基づいて、特に危険防止と安全面に気をつけた指導を心掛ける。
	2	⑪事後学習 「活動に記録」 「自己評価とまとめ」 「成果の分かち合い」 「活動の成果の発表」	⑪体験活動を通して、自らが課題を解決できたかについて、自己評価し、分析する。活動の成果を分かち合うためクラス内で発表会を行う。
	3	⑫「奉仕体験活動Ⅲ」	⑫江東区を中心としてグループごとの校外学習であるので、危険防止と安全面、礼儀、マナーについての指導・助言を行う。
		⑬事後学習 「活動の記録」 「自己評価とまとめ」 春季休業	⑬体験活動を通して、自らが課題を解決できたかについて自己評価して分析、まとめをする。

第2学年 授業計画：総合学習

期	月	項目	授業内容
前 期	4	①第2学年総合学習 オリエンテーション	①1年間の学習内容と活動概要を整理する。
	5	②「大学・学問調べ」 調査・分析・考察 レポート作成	②上級学校進学に向けて、大学等で何を学ぶのかを探求する。興味・関心に応じた学問研究テーマを設定し、調査、分析、考察を行う。
	6		取り組みの成果について、レポートにまとめ提出する。
	7		夏季休業中に、大学等のオープンキャンパスに参加するよう促す。
	8		夏季休業
9			
後 期	10	③地域文化、国際理解、 環境等の課題にかかわる 学習の計画・立案	③前期の調査・分析等の経験を踏まえ、 修学旅行を題材とした地域文化等の 学習内容を考える。
	11	④自己の進路にかかわる 課題についての調査・ 研究	④意見交換及び質疑応答を行うとともに、 学年各クラスを対象として、プ レゼンテーションを実施する。
	12		
	1	冬季休業	
	2	⑤発表資料作成 プレゼンテーション	⑤班内の役割分担に基づいて情報 収集し、分析・考察の後、 グループごとに発表する。
3	春季休業		

第3学年 授業計画：総合学習

期	月	項目	授業内容		
前 期	4	①「課題研究Ⅰ」	①自己の進路に関連させ、必要な知識や情報を収集して活用するとともに、これまでの各教科の学習を踏まえて、知識の伸長を図る。 ②提出された課題、小論文をチェックして、表現力など書かれた文章の添削を行う。		
	5				
	6	②課題に対する表現力の育成			
	7				
	8	夏季休業			
	9				
	後 期	10		③「課題研究Ⅱ」	③これまで1年次から取り組んできた総合学習の総まとめとしての課題研究を实践する。各教科・科目を横断的にとらえた大テーマを設定させて、その中から小テーマごとに課題設定をさせる。取り組み成果をレポートして提出する。
		11			
		12		冬季休業	
1					
2					
3					
		春季休業			

第 2 学 年

1 国語

現代文

単位数	2
担当者	
教科書	精選現代文 改訂版 (筑摩書房)

1 講座のねらい

近代の現代文の文章を理解し、味わい、自分の生活や人生を考える上での糧とすることをねらいとして、第1学年からの発展的学習を目指しつつ、第3学年での入試に対応できるような実力養成を図ります。高度な文章なので難解なものもありますが、丹念に学習することで、着実な国語力が養成されるはずなので、心構えをしっかりと固めて臨んでください。文系理系とも内容・進度は同じです。様々な内容を学習することは、生きる力を培うことにつながります。自己を高める科目であることを肝に銘じて、疎かにすることのないように取り組んでください。

2 授業の内容と進め方

教科書には多くの新鮮で興味深い作品が網羅されています。この教科書を中心に、副教材も援用してスピーディーに進めていきます。また、適宜質問を行い、理解度を確認しながら学習していきます。問題演習も折りにふれて行い、読解のノウハウについても言及していきます。

3 学習する上での留意点

- (1) 評論の分野では観念語・概念語・抽象語・専門用語などの特別な意味を担った語を理解することが、また、小説の分野では文脈に沿った語句の意味を把握することが大切です。
- (2) 自分で考える習慣を確立すること。板書や解答、先生の言葉を鵜呑みにするだけでは、読解力は身につけません。大きく飛躍したいなら、なぜ？どうして？と自ら問う姿勢が不可欠です。
- (3) 事前の読みや語句の意味を押さえておくことが、第2学年では必須です。国語では言葉の理解がとりわけ大切なので、辞書を面倒くさがらないで引き、予習を忘れないようにしてください。
- (4) 理解できない箇所や語句については、先生に質問して解明しておくようにしてください。
- (5) 見やすい、わかりやすいノートを作成を心掛けること。第2学年は第1学年での経験を生かして、自分に適したノート・自分にあったノートを作成できるようにしてください。

4 副教材・参考書

第1学年に引き続き「新訂 国語図説」(京都書房)・「パーフェクト常用漢字」(第一学習社)
また、今年度新たに宿題テスト用として「三訂版 新体系現代文の演習グレード2」(桐原書店)

5 課題・補習について

- ・各分野・各教材ごとに課題を提示します。課題範囲をよく理解したうえで計画を立てて、意欲的に取り組んでください。
- ・教科書以外の補助プリントや宿題などもきちんと学習すること。
- ・夏休みなどの発展的な補習も計画しています。集中力を高め、堅実に学習して、意欲的な予習・復習・質問を心掛けて効果をあげること。

6 評価の視点・考査について

各定期考査の成績の他、宿題テスト、小テスト、課題提出、授業時の態度などを総合的に判定して評価します。

授業計画：現代文

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	随想	ニワシドリの庭…加藤幸子 ある少女の眼… 加藤周一	自ら問い、考える姿勢を養成し、現在の生活を振り返って反省する機会とする。
	5	小説一 定期考査 1	山月記…中島敦	漢語を多く取り入れた格調高い文体を読み解き、自己の才能と現実生活との葛藤を考えさせ、自己確立に資する。
	6	評論一	場所と経験…柄谷行人 記録すること、表現すること…川田順造	固定観念を打破して、より豊かな生活をおくるための発想の転換を目指す。
	7	定期考査 2		
	8	夏季休業		
	9	詩歌 評論二	歌、鶯のうへ、永訣の朝、短歌、死にたまふ母…中野重治他 共生システム…西垣通手 をみつめる…市川浩	詩人の鋭い着眼に気づかせ、伝統詩の短歌の感動の中心を探り、自己の現実生活と対比させて生活や人生を考察させる。 我々の意識や感覚、身体について論理的に理解し、現実生活と関連させて考察する。
後 期	10	小説二 定期考査 3	濠端の住まい…志賀直哉	短文で達意の作者の文章を理解し、日常の出来事の中に潜む問題点を探る。
	11	評論三	みどりの指…吉本ばなな 映画という反復の快楽…長谷正人	わかりやすい用語で綴られた文章を読み、「死」のもつ意味を考えさせる。 論理を精確にたどり、人間の知覚のメカニズムを理解する。
	12	定期考査 4	「である」ことと「する」こと…丸山真男	日本の近代が内包していた問題を考察し、現代の生活世界の把握に役立てる。
		冬季休業		
	1	小説三	こころ…夏目漱石	人間のエゴイズムを解明するとともに、漱石の苦悩を考える。
	2	評論四	陰翳礼讃…谷崎潤一郎 ことばの宇宙…浜田寿美男	日常性の中で「闇」の持つ意味を、わが国の文化伝統との関連で捉える。ことばの世界を考察する。
3	定期考査 春季休業	一年間の総復習・反省	授業評価アンケート	

古典

単位数	3
担当者	
教科書	精選古典（筑摩書房） 古文編・漢文編（分冊）

1 講座のねらい

江戸時代以前の作品を読み解き、味わい、伝統文化を継承しながら、自分の生活や人生を考える上での糧とすることをねらいとします。古典は諸君が考えている以上に、現実生活に力を与えてくれます。言葉や文化は太古より連綿と歴史的に続いてきたものなのです。古文・漢文・現代文のすべてに力を注ぐようにしてください。特に、古典文法に習熟しておかないと、漢文も十分な理解に至らないということを銘記しておいてください。第2学年では広範囲にわたる作品群に触れ、助動詞・助詞・敬語を自在に理解できるようになることと、漢文句形を完全に理解することを目指します。心の片隅に、学んでいくことの喜びと、多くのことを理解していくことのありがたさを意識しつつ、着実に、楽しみながら学んでいくようにしてください。

2 授業の内容と進め方

多彩な内容と興味をそそる作品を網羅した教科書を中心に、副教材も援用してスピーディーなピッチで進めていきます。理解できない箇所や不明瞭な箇所、学習の仕方、重要点などについては、必ず質問することを心掛け、文章を読み解いていくようにしてください。

3 学習する上での留意点

- (1) 辞書による語句調べという予習を欠かさず、精確で見やすく、自分なりに工夫されたノート作成を目指すこと。
- (2) 古典の時代といえども、喜怒哀楽の心情・人間の生活・人生は、時代に関わらず普遍的なものです。したがって、作品の中から現代に生かせるものを意識的に汲み取るよう務めることが大切です。

2年次の重点目標：

- ①古典文法に習熟する。とりわけ助動詞・助詞・敬語をマスターする。
 - ②漢文の句法に習熟する。とりわけ基本ノートをしっかり学習する。
- ☆理系は古典を体系的に学ぶのは第2学年までなので、この1年間で完成させてください。

4 副教材・参考書

第1学年に引き続き「完全マスター古典文法」（第一学習社）・「新・漢文の基本ノート」（日栄社）

また、今年度新たに「古文単語マスター333」（数研出版）

そして宿題テスト用として「改訂版 新体系古文の演習グレード2」・「改訂版 新体系漢文の演習グレード2」

5 課題・補習について

- ・古文・漢文の各分野、各教材ごとに課題を提示します。課題範囲を正確に理解したうえで計画を立てて、意欲的に取り組んでください。
- ・教科書以外の補助プリントや宿題などもきちんと学習するようにしてください。
- ・夏休みなどで講習を計画していますが、予習・復習・質問を励行しなければレベルアップは望めません。集中力を高め、堅実に学習に励むようにしてください。

6 評価の視点・考査について

各定期考査の成績の他、宿題テスト、小テスト、課題提出、授業時の態度などを総合的に判定して評価します。

授業計画：古典【古文】

期	月	単元・考査等	教材	授業内容と着眼点
前 期	4	説話	宇治拾遺物語 古今著聞集	鎌倉時代の説話から、庶民や貴族の生活の在り方・実情を理解する。活用語についての文法的理解を深める。
	5	随筆一 定期考査	徒然草 方丈記	中世の草庵文学から、当時の人々の季節感や自然観を学ぶ。当時の支配的なパラダイムであった「無常観」を理解する。
	6	物語一	伊勢物語 大和物語	歌物語を体系的に学習する。伝説の世界についても学び、当時の人々の発想を理解し、現在の生活や生き方と比較する。
	7	定期考査 夏季休業		
	8			
	9	随筆二	枕草子（一）	当時の貴族生活・宮廷生活を理解させると同時に、清少納言の清新で鋭い観察眼や簡潔な文章に注目させる。
後 期	10	物語二 定期考査 日記	源氏物語（一） 更級日記 蜻蛉日記	古文最高峰の源氏物語を読み解き、三年次への導入とする。 正確な文法的理解を根底にして、平安女流文学を読み、繊細な描写に着眼させる。
	11	物語三	大鏡（一） 平家物語	宮中の出来事を解読し、敬語の習熟を図る。戦乱の際の感動的な美談を読み、軍記物語への興味と関心を高める。
	12	定期考査 冬季休業		
	1	和歌・歌謡・俳諧	万葉の歌・王朝の歌・古今和歌集仮名序	万葉・古今・新古今などの歌集を味読し、各歌集の特徴と時代状況を考える。
	2		中世の歌 近世の句 野ざらし紀行	俳諧についての理解を深める。
	3	定期考査 春季休業	一年間の総復習・反省	授業評価アンケート

授業計画：古典【漢文】

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4	故事	刮目相待 先從隗始 愚公移山	故事成語について学ぶ。漢文法・語法・句形・慣用語に注意させた上で、内容を正確に把握し理解させる。
	5	文章一 定期考査	黔之驢 養魚記	唐宋の代表的な文章を読み味わう。唐宋の「古文」や「古文復興運動」にも触れる。
	6	漢詩	鹿柴・登高 他	唐詩や唐の三大詩人の詩を鑑賞する。詩型・押韻・対句の決まりなどを復習する。
期	7	定期考査 夏季休業		
	8			
	9	史伝	天道是邪、非邪 鴻門之会 四面楚歌	史記を読み解き、歴史の面白さを味わう。司馬遷の生涯に触れ、隠者・英雄の生涯にこめられた彼の史観・人生観を考える。
後	10	定期考査		
	11	思想	論語 孟子	第1学年に引き続き、儒家の經典からうかがわれる人生の叡智を汲み取り、自己の生活や生き方を考える。孔子の「仁」や孟子の「仁義」「性善説」について学ぶ。
	12	定期考査 冬季休業		
	1	文章二	荀子 漁父之辞	荀子の「性悪説」が儒家から出現する経緯、儒家の学統について理解を深める。屈原の言動を通して、処世観について考える。
	2		五柳先生伝 師説	一見隠者風な陶淵明の生き方のなかに韜晦された、東洋の理想的生活や人生を味読する。
3	定期考査 春季休業	一年間の総復習・反省	句法の整理 授業評価アンケート	

2 地理歴史

世界史 B

単位数	3
担当者	山本 優子 平栗 孝
教科書	詳説世界史B 山川出版社

1 講座のねらい

歴史を学ぶということは、なん年になんという事件が起きました、というように、年号や出来事の名前をやみくもに「覚えて」いくといったものではありません。それぞれの時代に生きた人々が、なにに心を動かされ、なにを求めてそのような事件を起こしたのか、ということ「考えて」いくことが歴史を学ぶということなのです。過去を学ぶということは、現在を知ることであり、それは未来を考えるということにつながっていきます。皆さんは、既に中学校で日本史の基礎的な知識を学習しているわけですが、日本が古くより、いかに周辺の国々と豊かな交流を築いてきたのかを思い出してください。過去、現在、そして未来にわたって、日本は世界の中の一員であり、世界に目を向け、互いに手を取りあわずに生きていくことは出来ません。そのためには、諸地域で生まれた文化をよく理解し、尊重しあう姿勢が必要です。世界史の学習は、そのように、世界の中に生きる日本人としての知識と見識を習得することをめざします。

2 授業の内容と進め方

教科書にそって進めていきます。世界の諸地域にどのような文化が成立したのか、さらにそれら地域間の交流が、より活発に、より広範囲となっていく様子を学習します。世界史の基礎知識をしっかりと学び身につけるとともに、歴史に対する思考力や洞察力を養います。

3 学習する上での留意点

授業には、教科書、資料集、そして用語集を必ず用意すること。ただ板書を写すだけではなく、授業中の説明をメモにとり、特に歴史上の変化をもたらした社会の背景などには注意深く耳を傾け、因果関係を記した教科書の部分にはアンダーラインを引いて理解を深めます。用語集を引き、知識の幅を広げることも常時行ってください。授業以外では、書籍、新聞、テレビ、インターネットなどを手がかりに、世界に対する興味・関心を高め、教養を深めます。そうした中で、なにか疑問が持ち上がった時には、積極的に発言をしてください。

4 副教材・参考書

『世界史のパサージュ』（とうほう）

… 教科書と共に授業中は該当ページを広げ、地図や年表、資料に目を配ります。

『世界史B用語集』（山川出版）

… 授業中特に指示は出しませんが、常に説明文をチェックし、必要に応じてノートにまとめるなどしてください。教科書とこの『世界史B用語集』を完全に習得すれば、センター試験のみならず、私立難関校に対応できます。

『ウィニングコンパス 世界史の整理と演習』（とうほう）

… 授業で学習した内容・知識を、さまざまな角度から出題された演習を解くことで、定着させます。自分でどしどし取り組んでください。

5 課題・補習について

世界史での受験を希望する生徒を対象に補習を実施する予定です。成績が不十分であった生徒には必要に応じて指導を行います。

6 評価の視点・考查について

評価は考查と平常点を組み合わせて行います。考查は前期中間・期末・後期中間・期末・学年末の年5回おこないます。平常点は、小テスト、提出物点、授業中の発言などを総合的に評価します。

授業計画：世界史B

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4	序章先史の世界 第1章オリエントと地中海世界	山川出版社『詳説世界史B』 他副教材 山川出版社『世界史B用語集』 とうほう『世界史のパスージュ』 とうほう『ウニヴェルサル 世界史の整理と演習』	<ul style="list-style-type: none"> 人類の起源と文明の誕生を学ぶ。 メソポタミアとエジプトを中心にオリエント文明の形成を学ぶ。
	5	定期考査	教科書 p.21 ~ 57	<ul style="list-style-type: none"> ギリシアの諸ポリス・ローマ帝国の形成を学び、ヘレニズムとキリスト教というヨーロッパ文化の源の特質を学ぶ。 ササン朝までのイラン民族の歴史の特徴を捉えさせる。
	6	第2章アジア・アメリカの古代文明 (インド・東南アジア)	p.58 ~ 80	<ul style="list-style-type: none"> インド・東南アジアの文明の形成を学ぶ。
期	7	定期考査		
	8	夏季休業		
	9	第2章アジア・アメリカの古代文明 (中国、アフリカ、メソアメリカ)	p.81 ~ 99	<ul style="list-style-type: none"> 黄河文明から漢を中心とする東アジア文化圏の成立までを学ぶ。 アフリカ中世史、メソアメリカ、アンデス世界を学ぶ。
	10	第3章東アジア世界の形成と発展 第4章内陸アジア世界の変遷	p.100 ~ 109	<ul style="list-style-type: none"> 魏晋南北朝から隋・唐までの東アジア文化圏発展の流れを学ぶ。 内陸アジアの諸民族の国家形成を学ぶ。 10世紀から13世紀に至る中国周辺諸民族の自立と発展、モンゴル帝国によるユーラシア大陸の一体化と商業・文化のネットワークを学ぶ。
	11	第5章イスラーム世界の形成と発展	p.110 ~ 125	<ul style="list-style-type: none"> イスラーム世界の形成を学ぶ。 イスラーム世界の西アジア・北アフリカへの拡大にともなう、商業ネットワークの再編、イスラーム文化の広がりを学ぶ。
後	12	定期考査 冬季休業		
	1	第6章ヨーロッパ世界の形成と発展	p.126 ~ 158	<ul style="list-style-type: none"> 西ヨーロッパ封建社会の形成とその特質を学ぶ。
	2	第7章諸地域の世界の繁栄	p.159 ~ 164	<ul style="list-style-type: none"> 封建社会崩壊の過程の中に、近代を用意したものを考える。 陸と海のネットワークを学ぶ。
	3	定期考査 春季休業		

日本史 B (必修選択)

単位数	3
担当者	
教科書	改訂版 詳説 日本史 山川出版社

1 講座のねらい

「日本」というこの国の名前はいつ頃、誰によって、何の目的でつくられたのでしょうか？「日本」に住む人々はいつ頃から一つのまとまりをもった集団（＝クニ）の意識を持つようになったのでしょうか？現在の「日本」の国のありかたも、第二次世界大戦後や明治以降に突然できたものではありません。**何千年という時の中で積み上げられてきた遺産を基礎にして現在の「日本」は成り立っています。言葉も文化もすべて過去の積み重ねがあって今がある、その積み重ねを考察し理解することが、現在の社会の課題を解決する大きなヒントになるのです。**

「日本史」を学ぶということは、現在から過去の事件や人物を見て、正しいとか誤っていると断罪することではなく、私たちの住む「日本という社会」の文化と伝統の特色についてと国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養うことを考察することであり、それは『**日本**』とはなにか」「**私は何者なのか**」を問うことなのです。

以上の問題意識を前提として、**第2学年では「原始・古代」・「中世」、すなわち日本列島における人類の歴史の始まりから室町時代までを学びます。**

2 授業の内容と進め方

内容の詳細は次ページの授業計画を参照してください。授業は、講義を中心として、概ね教科書の記述の順序に沿って基本的な歴史の流れを理解してもらうことを主眼として進めます。授業の中で教科書はもちろん、副教材（図説や史料集）・用語集などを参照することもあるので、これらの教材は必ず持参してください。

授業を受ける際には板書を単に写し取るだけではなく、講義内容をメモしたり、疑問に思ったこと・気がついたことなどを書き留めたりするようにしてください。あとで見返したときにしっかりと流れがわかる、オリジナルなノートを完成することが理想です。

なお、復習を促すために小テストを行うことや課題を課すこともあります。

3 学習する上での留意点

まずは授業に集中して取り組むこと、これが第一です。しっかりと授業に参加し、教科書・図説・用語集などをフルに活用して、上記のようなオリジナルノートを作り上げてください。

日本史学習では、歴史の**流れと歴史事項の意味の理解が課題になります**。「何が原因なのか」「どんな影響を及ぼすのか」「どんな意味があるのか」を常に考えましょう。語句（人名・事項・事件名・年号）をただ丸暗記しようとしても歴史を理解できないし、語句も覚えられません。**流れや関連が理解できる**と語句も自然に頭に入ってきます。

4 副教材・参考書

◎副教材 『新詳日本史』（浜島書店） 『詳録 新日本史史料集成』（第一学習社）

『新課程用 日本史B用語集』（山川出版社） 以上は**授業時必携！**

◎参考書（例）『石川 日本史B講義の実況中継』①～⑤（語学春秋社）

◎問題集（例）『はじめる日本史 50テーマ』（増進会出版社）

『実力を付ける 日本史100題 増訂第2版』（増進会出版社）

5 課題・補習について

課題は各担当者が授業で指示します。補習は必要に応じて実施することもあります。

6 評価の視点・考査

評価は、年5回の定期考査と平常点を組み合わせて行います。

平常点は、授業態度、課題提出、授業時での小テストなどで評価します。

授業計画：日本史B（必修選択）

期	月	単元・考査等	授業内容	着眼点
前 期	4	1章 日本文化のあけぼの	①文化の始まり ②農耕社会の成立	日本列島における文化誕生 と大和政権の成立
	5	2章 律令国家の形成 定期考査	③古墳とヤマト政権 ①飛鳥の朝廷	中央集権国家を目指した律 令体制の完成
	6		②律令国家の成立 ③平城京の時代	律令体制の衰退の始まり
	7	定期考査 夏季休業		
	8			
後 期	9		④天平文化 ⑤平安朝廷の形成	
	10	3章 貴族政治と国風文化 定期考査	①摂関政治 ②国風文化	貴族の全盛と仏教
	11	4章 中世社会の成立 定期考査	③荘園と武士 ①院政と平氏の台頭 ②鎌倉幕府の成立	武士の台頭と社会の変化 「中世」の社会と国家
	12	冬季休業	③武士の社会	公武二元体制の克服と幕府 の衰退
	1	5章 武家社会の成長	④元寇と幕府の衰退 ⑤鎌倉文化 ①室町幕府の成立	幕府の成立、南北朝の動乱、 応仁の乱
	2		②幕府の衰退と庶民の台頭 ③室町文化	
	3	定期考査 春季休業	一年間の復習・まとめ	

地理 B 必修選択

単位数	3
担当者	
教科書	新詳地理B 最新版

1 講座のねらい

21世紀に入り移り変わっていく世界情勢。グローバル(地理的)な見方で世界を見つめましょう。かつてないほどに地域間の交流は深まり、私たちはテレビやインターネットで、また旅先や街角で「世界」を意識させられています。そのような時代にこそ地理を学ぶ意義があるのです。地球的な課題(グローバルイシュー)に向き合って、正しい知識を獲得していきましょう。

2 授業の内容と進め方

教科書の内容を中心にサブノートを作り、統計や資料を使って内容を深く掘り下げていきます。暗記のみに頼るのではなく、「なぜそうなるのか」という視点に立って地理的な見方を養っていきましょう。

3 学習する上での留意点

ノートは板書を写すだけでなく、気がついたことをメモしたり、関連する資料のページを書き添えておくだけでとても分かりやすくなります。また、色鉛筆や定規なども準備しておくとういでしょう。

4 副教材・参考書

地図帳・写真図表(フォトグラフィア地理図説2010→第1学年で使用したもの)
2011年版 統計要覧
地理用語集があればとても便利です。

5 課題・補習について

夏休みなどを利用して、必要に応じて補習等を行います。

6 (評価の視点・考査について)

年間の定期考査、小テスト、日頃の学習態度、提出物などで総合的に評価を行います。積極的な態度で授業に参加してください。

授業計画：地理B 必修選択

期	月	単元・考査等	教材	授業内容と着眼点
前 期	4	自然環境と生活	教科書 地図帳 資料集・統計要覧	生活舞台としての地形 世界の地形環境 気候と生活・世界の気候
	5	地形図について 資源と産業 定期考査	同 上	地図の読図と利用 世界の農業 農産物の生産と流通
	6	資源と産業	同 上	世界の水産業 エネルギー資源・鉱産資源の分布 工業の発達と分化
	7	資源と産業 定期考査	同 上	世界の工業地域
	8	夏季休業		
	9	生活と文化 人口・食糧問題	同 上	村落と都市・都市の機能と生活 世界の都市問題 世界の人口分布・各国の人口問題
後 期	10	環境・エネルギー 問題 定期考査	同 上	世界の環境・エネルギー問題
	11	民族・領土問題 定期考査	同 上	民族・国家のなり立ち、世界の衣食住 言語・宗教をめぐる問題・領土問題 民族の共生へ向けての課題
	12	冬季休業		
	1	世界の貿易	同 上	貿易のしくみ・貿易問題
	2	消費と余暇活動 交通・通信 定期考査	同 上	消費の拡大と行動圏・余暇活動の地域性 交通機関の特色・情報化社会のすがた 時差の理解・さまざまな図法
	3	春季休業		

3 数学

数学Ⅱ

単位数	3
担当者	
教科書	

1 講座のねらい

数学的な考え方の基盤を確立して、基本概念の理解と技能の習熟を図ります。「数学Ⅰ」に続く内容として、「数学Ⅱ」では、指数・対数関数、微分法・積分法における関数の値の変化について理解をして、それらの事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばします。

2 授業の内容と進め方

内容については、次ページ授業計画を参照。進め方は、教科書の内容を中心とした講義形式が主です。また、教科書の問題演習として、毎時間、練習問題が課題となり、授業が始まるまでに、黒板に記述の解答を書いてもらいます。授業でそれを添削、解説します。考査直前の授業では、副教材を用いた問題演習、解説、補足プリント学習等を行います。

3 学習する上での留意点

数学の学習で、上達するための近道は、「**予習**」をすることです。自ら意欲的に授業に先行して教科書をよく読んでください。数学の本を読むとは、次の点をはっきりとさせた流れで取り組むことが基本姿勢です。『①出発点である定義(決まり事)の把握→②定理(公式)の理解と証明→③その分野の問題演習』さらに、数学の力を定着させるためには、「復習」という作業が重要になります。上記の①から③の流れの下、③の問題演習に多くの時間をかけると良いでしょう。その際、解答を目で追ってわかったつもりになってはいけません。解けなかった問題は、解答で答を導くための方針を理解した上で、何も見ないで白い紙に、手を動かして正解に到達することが大事です。このような反復練習によって、本物の数学的な思考力が養われて、難攻不落に思えた入試問題も面白く解けるようになってきます。与えられた仮定(条件)から、1つの正しい結論(答え)を導き出す、又は、たどり着くおもしろさを実感できるようになると、その繰り返しで、おのずと数学の実力は付いてきます。

4 副教材・参考書

副教材は、「4STEP数学Ⅱ+B」問題集、「リンク数学演習ⅠA+ⅡB」を使用します。参考書として「青チャート式数学Ⅱ+B」を使用します。

副教材の4STEP数学Ⅱ+B問題集、青チャートは、定期考査ごとのレポート提出問題になります。

5 課題・補習について

課題は、①週末課題、②定期考査前に提出する問題集のレポート、③長期休業中の青チャートからのレポート提出問題等があります。

補習は、主に長期休業中に実施しますが、朝、放課後、担当者の判断で実施されることもあります。

6 評価の視点・考査について

定期考査は、授業計画にある通り1年間に5回実施されます。この定期考査を補完する意味で、長期休業明けに宿題考査を実施します。評価については、定期考査・宿題考査での成績に上記課題の提出状況を平常点として勘案して、総合的に判断します。

授業計画：数学Ⅱ

期	月	単元・考査等	授業内容と着眼点
前	4	第3章 図形と方程式	①円の方程式 円と直線 ②軌跡と方程式 ③不等式の表す領域 図形の各種の問題を座標平面を用いることで代数的に処理する能力を身につける。図形の性質や特徴を、方程式・不等式の性質によって追求できることを認識する。幾何学的な図形と式の関係について、理解できるようにする。少し複雑な方程式・不等式を解く力もつけたい。
	5	第5章 指数・対数関数 定期考査	
	6	第6章 微分法・積分法 定期考査	①指数の拡張と指数関数 ②対数とその性質 対数関数、常用対数 指数の拡張の意味と指数法則をよく理解し、指数関数の特徴をグラフ上で把握する。対数の性質は、指数法則の裏付けで理解し、対数関数は指数関数と対比してつかむとよい。
	7		①微分係数と導関数 ②接線、関数の増減と極大・極小、最大値・最小値、グラフと方程式・不等式 関数の変化の割合に極限の考えを用い、変化率、微分係数の概念を図形的な意味で視覚的にとらえる。導関数の意味をよく理解して、関数の特徴を詳しく調べる手段を体得する。方程式・不等式に応用できることを理解する。
	8	夏季休業	①不定積分 ②定積分と面積 微分法の逆演算として不定積分の定義を理解して、原始関数の概念をとらえる。面積を表す関数の変化率を図形上での意味づけのもとに理解して、定積分を把握する。定積分の計算方法や図形の面積を正確に求める。
	9		
10	定期考査		
後	11	数学Ⅰ・A演習	センター試験特有の出題形式に慣れて、解法の誘導や流れに乗る技法を掴めるようにする。センターは試験時間60分に対して問題量が多いので、計算の素早い処理と正確さが要求される。1題1題、時間を決めて短時間で計算ができるように練習を繰り返すことが何よりも大切である。 センター試験の問題は、教科書で扱う基本的な定義・定理で必ず解けるようにできている。高校数学の基本的な考え方・見方を押さえれば、あとは反復練習をくり返すことで必ず高得点が取れるはずである。
	12	定期考査 冬季休業	
	1	数学Ⅱ・B演習	
	2	定期考査	
	3	春季休業	

単位数	2
担当者	
教科書	

1 講座のねらい

数学的な考え方の基盤を確立し、基本概念の理解と技能の習熟を図る。「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」より進んだ内容としてベクトル、数列、行列について理解をして、それらの事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばします。数学的な見方や考えのよさについて、認識をさらに深めてください。

2 授業の内容と進め方

内容については、次ページ授業計画を参照。進め方は、教科書の内容を中心とした講義形式が主です。また、教科書の問題演習として、毎時間、練習問題が課題となり、授業が始まるまでに、黒板に記述の解答を書いてもらいます。授業でそれを添削、解説します。考査直前の授業では、副教材を用いた問題演習、解説、補足プリント学習等を行います。

3 学習する上での留意点

数学の学習で、上達するための近道は、「**予習**」をすることです。自ら意欲的に授業に先行して教科書をよく読んでください。数学の本を読むとは、次の点をはっきりとさせた流れで取り組むことが基本姿勢です。『①出発点である定義(決まり事)の把握→②定理(公式)の理解と証明→③その分野の問題演習』さらに、数学の力を定着させるためには、「**復習**」という作業が重要になります。上記の①から③の流れの下、③の問題演習に多くの時間をかけると良いでしょう。その際、解答を目で追ってわかったつもりになってはいけません。解けなかった問題は、解答で答を導くための方針を理解した上で、何も見ないで白い紙に、手を動かして正解に到達することが大事です。このような反復練習によって、本物の数学的な思考力が養われて、難攻不落に思えた入試問題も面白く解けるようになってきます。与えられた仮定(条件)から、1つの正しい結論(答え)を導き出す、又は、たどり着くおもしろさを実感できるようになると、その繰り返しで、おのずと数学の実力は付いてきます。

4 副教材・参考書

副教材は、「4STEP 数学Ⅱ+B」問題集を使用します。参考書として「青チャート式数学Ⅱ+B」を使用します。

副教材の4STEP 数学Ⅱ+B問題集、青チャートは、定期考査ごとのレポート提出問題になります。

5 課題・補習について

課題は、①週末課題、②定期考査前に提出する問題集のレポート、③長期休業中の青チャートからのレポート提出問題等があります。

補習は、主に長期休業中に実施しますが、朝、放課後、担当者の判断で実施されることもあります。

6 評価の視点・考査について

定期考査は、授業計画にある通り1年間に5回実施されます。この定期考査を補完する意味で、長期休業明けに宿題考査を実施します。評価については、定期考査・宿題考査での成績に上記課題の提出状況を平常点として勘案して、総合的に判断します。

授業計画：数学B 理系

期	月	単元・考査等	授業内容と着眼点
前 期	4	第3章 数列	①等差数列、等比数列とその和、種々の数列 ②漸化式と数列、数学的帰納法 数列の一般項についてよく理解をして、数列特有の数え方・考え方になれることが大切。具体的な数値計算から一般性をもたせた処理が出来るようにして、記号 Σ の正しい理解のもと活用できるようにする。帰納的に定義された数列(漸化式)の意味と性質を明らかにして、漸化式の一般的な解法を体得する。等式・不等式の証明で、数学的帰納法の形式と意味を正しくつかんで問題演習をするとよい。
	5	定期考査	
	6	定期考査	
	7	定期考査	
	8	夏季休業	
後 期	9	第1章 平面上のベクトル	①平面上のベクトルの演算、成分、内積 ②位置ベクトル、ベクトル方程式 ③ベクトルの平面図形への応用 ベクトルが有向線分で表され、1つの量としての概念であることを認識する。演算法則やその性質を計算問題に習熟することで理解する。位置ベクトル、ベクトル方程式の考えによって、平面図形の性質を有効に調べられることを実感するとよい。
	10	定期考査	
	11	第2章 空間のベクトル	
	12	定期考査	
		冬季休業	
	1		
	2		
	3	定期考査	
		春季休業	

4 理 科

物理 I

必修選択

単位数	2
担当者	
教科書	高等学校 物理 I 改訂版(啓林館)

1 講座のねらい

地球を通り抜けてしまう素粒子の1つニュートリノから、膨大な宇宙の果てや誕生まで、すべてが物理の研究対象です。また、最新の科学技術を根底で支えているのも物理です。

この講座では、日常身の回りにある物理現象を多くの実験や理論を通して学びます。自然の中に潜む法則性を探る中で、論理的な考え方が身に付くようになることを目指します。

2 授業の内容と進め方

[前期] ①発音体の振動 ②音のドップラー効果 ③光波

[後期] ①平面内の運動 ②剛体にはたらく力のつりあい ③浮力 ④熱とエネルギー

第1学年に引き続き、波動の学習、波としての光波および力学を学びます。内容的にレベルが上がるので頑張りましょう。

3 学習する上での留意点

物理では、自然界の法則を数式で表します。しかし、数式の暗記だけでは歯が立ちません。数式にいたるまでの根底からの理解がないと、基礎学力や応用力は身に付きません。納得するまで考えることが大切です。考えてから残った疑問点等は遠慮なく質問に来てください。

学習の仕方ですが、事前に教科書に目を通しておいてください。復習に重点をおくとよいでしょう。授業プリントの確認をし、問題を解くと実力が着きます。「ステップアップノート」と「センサー物理 I」問題集を日頃から十分に活用することがポイントです。

実験は物理現象をより深く理解し、物理的な考え方を養うのに欠かせません。実験終了後にはレポートを提出してもらいます。レポートを書くことによって、実験データがなぜそうなるかを考察する力を身につけることができます。

4 副教材・参考書

①「ステップアップノート物理 I」(啓林館：授業中に使用する問題集)

基本的問題が中心ですので、授業で学習した内容の確認に使用します。

②「センサー物理 I」(啓林館：家庭学習用問題集)

定期考査の時は試験範囲になります。授業の進度に合わせて学習しておいてください。

5 課題・補習について

実験後は必ずレポートを提出してください。また、定期考査の時には、問題集のレポートを提出してもらうので、専用のファイルを用意してください。

6 評価の視点・考査について

評価は、考査点と平常点を合わせて総合的に行います。平常点は、実験レポート、いろいろな課題、問題集ノート、授業態度等を点数化して算出します。

授業計画：物理Ⅰ 必修選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	波の性質 音	波の伝わり方 弦の振動・気柱の振動	<ul style="list-style-type: none"> ・反射・屈折・回折・干渉などについてまとめの復習をする ・共鳴・共振について理解する。
	5	定期考査	ドップラー効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ドップラー効果の起こる理由を理解する。
	6	光	光の進み方 光の性質 レンズ	<ul style="list-style-type: none"> ・光の屈折や全反射等を理解する。 ・光の散乱・偏光について学ぶ。 ・作図や実験を通してレンズの原理を理解する。
	7	定期考査		
	8	夏季休業		
	9		光の干渉と回折	<ul style="list-style-type: none"> ・実験を通して干渉や回折の現象を理解し光を波としてとらえる。
後 期	10	物体の運動 力と運動 定期考査	速度の合成・相対速度 水平投射・斜方投射 運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルを使って考える。 ・三角関数も活用する。 ・運動方程式を立てられるようにする。
	11		圧力と浮力 大きさのある物体に働く力	<ul style="list-style-type: none"> ・圧力・浮力を理解する。 ・アルキメデスの原理を理解する。
	12	定期考査	剛体に働く力のつり合い条件	<ul style="list-style-type: none"> ・剛体に働く力の合力について理解する。 ・力のモーメントを理解し剛体のつりあい条件を考えさせる。
		冬季休業		
	1	熱とエネルギー	熱と温度	<ul style="list-style-type: none"> ・比熱と熱量保存則を理解する。 ・熱をエネルギーとして考える。
	2		気体の状態の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイルの法則、シャルルの法則 ・熱力学第1法則 ・エネルギーの変換と保存
	3	定期考査		
		春季休業		

単位数	3
担当者	野田 徹 三島 慶睦 *
教科書	マスター化学 I (啓林館)

1 講座のねらい

化学は、物質のさまざまな振る舞いについて学ぶ学問です。また、すべての物質は原子と呼ばれる微小粒子から成り立っています。本講座で学ぶことは下記の4点です。

- ①化学の基本粒子である原子について学習し、分子やイオンなどの性質や反応を学ぶことです。
- ②化学反応のしくみや量的関係、エネルギーや酸・塩基、酸化還元について学ぶことです。
- ③無機物質、有機化合物の性質や反応について学ぶことです。
- ④安全で正確な実験技術、操作の習得を通し、実験から科学的に探求する力をつけることです。

2 授業の内容と進め方

前期は、物質の構造と、物質を扱うときの基本単位である原子や分子、イオンの考え方と化学反応式の意味、化学の量（モル）を中心に行います。したがって、いくつかの元素の元素記号と物質の化学式は覚えて、簡単な化学変化の反応式は係数をつけて完成させ、その量的関係をとらえることができるようになることが必要です。

後期は、酸塩基、酸化還元などのさまざまな化学変化について理解すること、無機化合物、有機化合物の性質について知ることが必要です。

3 学習する上での留意点

化学の授業では、科学的なものの見方で見るのが重要です。化学で扱う粒子一つ一つは非常に小さいものであるため、これを集団（モル）として考えていく視点が必要です。

また、実験や観察を通して物質の性質や変化をとらえ、論理的に考察できる力をつけていく事が重要になります。

4 副教材・参考書

副教材としては、「化学 I 学習ノート」（数研出版）主に毎回の復習用として用います。

「標準セミナー化学 I」（第一学習社）試験対策や基礎固めとして用います。

「スクエア最新図説化学」（第一学習社）実験のレポート作成や参考書として用います。

以上の3点を使用します。

参考書は、教科書および上記の副教材を利用しても自分がわからない事柄があり、そのことについての解説がされていて、理解しやすいものを書店で見つけることが望ましいと思います。参考書は必須ではありません。まずはしっかり教科書を理解するところから始めましょう。

5 課題・補習について

実験に関するレポートや課題があります。また、補習は必要な生徒に必要な時期に行います。

6 評価の視点・考査について

定期考査と平常点を評価の対象とします。平常点は、小テストや実験レポート、ノート提出などを含みます。

授業計画：化学Ⅰ 必修

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	物質の分類 物質の成分	物質の分類と分離 混合物と純物質 化合物と単体	身の周りの物を化学的視点で見える目を養えよう。(例)身の回りには多くの物質が混合物である。
	5	物質の基本構成 構成粒子 原子・分子の構造 定期考査	原子・分子の構造 原子の電子配置	物質の成分粒子の大きさと構造について 物質の化学的性質の多様性について
	6	物質と化学反応式	原子量・分子量 アボガドロ数と物質質量 化学反応の量的関係 モル濃度	原子・分子の質量は相対的質量で表示する 原子・分子の量をモル単位で理解するとあらゆる化学変化の量的関係が非常に単純な関係で表示でき理解できること
	7	化学反応式と量的関係 定期考査 化学反応と熱	化学反応式と量的関係 熱化学方程式 ヘスの法則	化学反応式から基本法則の理解 量的関係理解のポイントは係数比 化学変化の反応熱とエネルギーを同時に考える
	8	夏季休業		
	9	酸と塩基	定義と性質 水素イオン濃度とpH 中和反応と量的関係	水素イオン H^+ と水酸化物イオン OH^- で決まる液性 H^+ 濃度の指数でわかる液性 H^+ と OH^- の結合でどちらの性質も失われる
後 期	10	酸化還元反応 定期考査	定義と反応のしくみ 金属の性質とイオン化傾向	酸化と還元の原因は電子の授受で理解する
	11	電池と電気分解 無機物質とその性質 定期考査	電池と電気分解の法則 単体と化合物およびイオンの反応	電池の変遷と電気分解の原理と法則を学ぶ 無機物質の性質を、酸塩基、酸化還元での扱いと合わせて扱う
	12	有機化合物の特徴 冬季休業	有機化合物の多様性	有機化合物の特徴と主な分類方法について
	1	構造式の決定 炭化水素	元素分析・分子式 脂肪族炭化水素の分類	燃焼生成物から求める方法について学ぶ 鎖状炭化水素の骨格と反応性について
	2	酸素を含む化合物 芳香族化合物	官能基と反応性 芳香族化合物	主な官能基の特徴と反応について 芳香族炭化水素、フェノール類、安息香酸、サリチル酸などについて
	3	定期考査 まとめ 春季休業	芳香族化合物	ニトロベンゼン、アニリン、染料などについて

単位数	2
担当者	山田 茂博 中川 敏彦
教科書	改訂版 高等学校生物 I (数研出版)

1 講座のねらい

国公立大学受験に対応できる学習を可能にするための、基礎的な学力をつけることを目指します。同時に、生命科学全盛の時代を生きる人間として、自ら考え判断できるような、基本的な知識と態度を身に付けてもらえるように考えています。第2学年の「生物」は、選択科目になります。これまで以上に、より積極的に授業に参加することを望みます。

2 授業の内容と進め方

最初に、「遺伝」の後半部分を学習し、その後、「生物の生活と環境」について学びます。生物は、外界からエネルギーを取り入れたり、情報を受けてそれに反応することで個体の生命を維持していますが、それがどのように行われているかがテーマです。プリント等を利用した講義と実験・実習を組み合わせる学習をします。

3 学習する上での留意点

指示されたことをきちんと実行することはもちろん必要ですが、それだけではなく、自ら疑問をもち、進んで探求していく姿勢が必要です。そのためには、予習することを勧めます。プリントの「穴埋め」だけの学習にしないようにお願いします。もうひとつは、自分の手を動かして、自分の頭で考えること。実験・実習を大切にしてください。

4 副教材・参考書

第1学年で使用したもの（教科書・図説・問題集）を継続して使います。授業中に図を参照することが多いので、図説（サイエンスビュー生物総合資料：実教出版）を毎時間持参してください。問題集（センサー新編 生物 I：啓林館）は主に自宅学習用ですが、定期試験に向けての学習の整理などに利用してください。

5 課題・補習について

実験・実習後にレポート提出の課題があります。

6 評価の視点・考査について

定期考査（年5回・各100点満点）の素点と平常点を組み合わせて評価します。平常点は、主に実験・実習レポート・提出物（ノート等）によって行う予定です。学習への取り組み方、注意深い観察力や的確な表現力など、知識の理解だけでない面を評価するためです。提出物は必ず締切を守ってください。

授業計画：生物Ⅰ 必修選択

期	月	単元・考査等	内 容	授業内容と着眼点、実習予定
前 期	4	遺伝	遺伝子と染色体	●連鎖と組換えについて十分に理解し、 生物個体にとっての意味を考える。 ・だ液腺染色体（ユスリカ幼虫）の観察
	5	定期考査	遺伝子の実体	●遺伝子の本体がDNAであることおよび DNAの基本構造を知る。 ・細胞からのDNA抽出
	6	刺激の受容と反応	刺激の受容と反応 受容器と効果器	●器官どうしが連絡し、生物体が全体として 秩序ある状態を維持するしくみを学ぶ。 ・眼球の解剖（ブタ）
	7	定期考査		
	8	夏季休業		
	9		ニューロンと神経系 脳	・ヒトの視覚、聴覚についての実験
	10	定期考査	動物の行動	
	11	内部環境の恒常性	内部環境 自律神経とホルモン	●生物体が外部からさまざまな影響を受け つつも内部環境を一定に保つしくみについ て知る。
	12	定期考査 冬季休業		・浸透圧と収縮胞の観察（ゾウリムシ）
後 期	1	植物の反応と調節	刺激と植物の反応 成長と調節 花芽形成と発芽の調節	●植物が外界から刺激を受け、成長したり 花芽形成をおこなうしくみを理解する。
	2		植物の生活と水、光 （光合成）	●植物の生活に影響する水の移動、光合成 について学ぶ。 ・光合成に関する実験
	3	定期考査 春季休業		

5 外国語

英語Ⅱ【英R】

単位数	2 / 4
担当者	安藤 康子 大野 隆司
教科書	PRO-VISION ENGLISH COURSE II

1 講座のねらい

英語Ⅰで学んだ内容をさらに発展させ、総合的な力（「聞く・話す・読む・書く」の4技能）を養うことを目指して学習していきます。

2 授業の内容と進め方

教科書を中心に使用し、読解力や文法、リスニングの力を養成します。さらに、ワークブックを使用して、学習内容の定着を図ります。

3 学習する上での留意点

①第1学年と同様に、授業前には予習をしっかりとることが大前提です。まずは、辞書なしで読み進み、わからない単語の意味を推測しながら内容をおおまかにとらえます。次にわからなかった単語の意味を辞書で確認し、各文の意味を考えていきましょう。そうすることで読解力が養われます。授業は自分の読み取りが合っていたかどうか、確認する時間です。

②授業では、どんな活動にも積極的に参加することが大切です。授業で説明されたことは、必ずメモをとりましょう。

③復習においては、授業中に理解した内容を確認し、くり返し音読してください。音読の回数は多ければ多いほど理解が深まり、学力も向上します。

4 副教材・参考書

- ① PRO-VISION ENGLISH COURSE II Workbook 桐原書店
- ② Listening Essentials 2. 5 (改訂版) 啓隆社
- ③ OKINAWA --- The Spirit of Islanders 山口書店(夏休みの課題)
- ④ The Return of Sherlock Holmes 桐原書店(冬休みの課題)

5 課題・補習について

- ① Workbook 以外にも、プリントなどの課題の取り組みが求められます。
- ②長期休業中に課題が出るので、しっかり取り組んでください。
- ③長期休業中や放課後に補習を実施します。

6 評価の視点・考査について

定期考査は50点満点で、SR（サイドリーダー）と合算して100点満点となります。さらに、宿題・課題の提出状況、小テスト、授業態度等を勘案して総合的に評価し、「英語Ⅱ」の評定を出します。

授業計画：英語Ⅱ【英R】

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	Lesson 1	Go Armstrong!	関係代名詞の非制限用法 S + V+ C (what 節 whether 節など) with + 名詞 + 現在分詞 / 過去分詞
	5	Lesson 2 定期考査	Tuvalu ---Disappearing Islands	S + V+ C (現在分詞 / 過去分詞) 同格の that 関係副詞の非制限用法
	6	Lesson 3 Lesson 4	Sugar on Your Table The World of Moomintroll	受身の進行形 無生物主語 分詞構文 --- 過去分詞ではじまるもの
	7	定期考査 Lesson 4	The World of Moomintroll	さまざまな動名詞
	8	夏季休業		
	9	Lesson 5	The Beech Tree	文修飾の副詞 It is ~ of + to ... の表現 仮定法 --- I wish~ の表現
後 期	10	Lesson 6 定期考査	A Man Who Saved the World	be + to 不定詞 前置詞 + 関係代名詞 分詞構文 --- 完了形ではじまるもの
	11	Lesson 7 Lesson 8	World Englishes Finding the Real Santa Claus	未来進行形、未来完了形 仮定法 --- as if の表現、if のない仮定法 whatever, whenever, wherever, however の用法
	12	定期考査 Lesson 8 冬季休業	Finding the Real Santa Claus	結果の不定詞
	1	Lesson 9	Keep Your Friendships in Good Repair	挿入 部分否定 動名詞 --- 完了形
	2	Lesson 10 Choices Are in Your Hands	Another Hey Jude	倒置、省略 there を用いたさまざまな表現 物語文の読み取り
	3	定期考査 速読演習 春季休業		物語文 / 説明文の速読

英語Ⅱ【英SR】

単位数	2 / 4
担当者	安藤 康子 大野 隆司
教科書	PRO-VISION ENGLISH COURSE II

1 講座のねらい

読解力を養成することが本講座のねらいです。第1学年で学んだ文法、構文、単語・熟語等を確認しながら、長文を速読・精読し、「直読直解」する能力を身につけます。

2 授業の内容と進め方

予習をしていることを前提として授業を進めます。授業では、ある程度まとまった英文を一気に読み解く練習を行います。授業前に知らない単語や表現を調べ、おおまかな内容を把握してきてください。

3 学習する上での留意点

- ①まず1課をまとめて辞書を引かずに読み、書かれていることの大意を把握します。
- ②わからない単語は、できる範囲で内容から推測します。
- ③わからない単語を辞書で調べ、本文の内容を読み解き疑問点を明らかにしておきます。
- ④授業では予習の内容を確認し、疑問点を解消していきます。
- ⑤復習では、授業中に理解した内容を確認し、くりかえし音読してください。

4 副教材・参考書

- ① READING LESSONS 啓隆社
- ② WHAT'S UP? 桐原書店
- ③ SKILL BUILDER 入試基本編 数研出版

5 課題・補習について

- ①長期休業中に課題が出るので、しっかり取り組んでください。
- ②長期休業中や放課後に補習を実施します。

6 評価の視点・考查について

定期考查は50点満点で、R（リーダー）と合算して100点満点となります。さらに宿題・課題の提出状況、小テスト、授業態度等を勘案して総合的に評価し、「英語Ⅱ」として評価を出します。

授業計画：英語Ⅱ【英SR】

期	月	単元・考查等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	Chapter 1 ~ 4	READING LESSONS	John in San Francisco The Day of the Animal Auction Bungee Jumping
	5	Chapter 5 ~ 8 定期考查	READING LESSONS	Felipe's Heart , McDonald's, What I learned, A Good Job
	6	Chapter 9 ~ 14	READING LESSONS	Uncle Sam, The Earthquake in Turkey in 1999, Feel More Alive on Satawal, Steps for Your Health The Good Life, Identical Twins
	7	定期考查 Chapter 15	READING LESSONS	Mount Fuji
	8	夏季休業		
	9	Chapter 1 ~ 3	WHAT'S UP?	The Legend of Ryoma Anime Comes to Life Around the World Turkey's Delicious Gift to the World
後 期	10	Chapter 4 ~ 6 定期考查	WHAT'S UP?	A Real "Bionic Man" Listen to the Story Behind the Music Can You Forgive Your Enemy?
	11	Chapter 7 ~ 9	WHAT'S UP?	Style That Never Fades All Children Need Room to Read The Exotic Lands of the Silk Road
	12	定期考查 Chapter 10 冬季休業	WHAT'S UP?	The Picture of Dorian Gray
	1	Chapter 1 ~ 3	Skill Builder	A Mysterious Abstract Painting Children of the Goddess of the Volcano The History of Calendars
	2	Chapter 4 ~ 7	Skill Builder	The Real Price of a Necklace An Internet Hero, Sabriye's Challenge Where Did the Moon Come From?
	3	定期考查 Chapter 8 春季休業	Skill Builder	The Real Danger of Sports Doping

ライティング【英W】

単位数	2
担当者	大野隆司 安藤康子
教科書	NEW ACCESS to English Writing

1 講座のねらい

第1学年で学んだ英文法の知識を更に深めるとともに、英語での作文力をつけます。自分の伝えたい内容を比較的短い文で表現できる力を身につけます。文法の知識を復習しつつ基礎固めをし、英語での表現力を磨きます。

2 授業の内容と進め方

基本的な文法の知識を確認し、定着させ、その知識を活かして作文力をつけます。短い文を書く練習を数多く行います。教科書は Part I (文の組み立て方)は宿題とし、Part II (動詞の使い方)から始め、Part III (複雑な文の作り方)へと進みます。各課の左のページで基本構文を確認し、右側のページで問題演習をします。左側のページの例文は何回も音読して暗記すること。7月までは、「Breakthrough」と並行して進め、9月からは「コンパクト英語構文 90」と並行して進めます。

3 学習する上での留意点

第1学年で積み上げた文法的知識を基礎とし、さらに表現力を磨くために、既習事項の復習と発展的学習を繰り返して行います。副教材「コンパクト英語構文 90」や「UPGRADE 英文法・語法問題」を何度も参照し、覚えるという態度で臨むこと。また、予習・復習を通して、例文を覚え、手で書きながら、文法の知識を確実に身につけることが大切です。副教材「UPGRADE 英文法・語法問題」は、定期考査や授業時の小テストでも出題されるので計画的に学習を進めていくこと。

4 副教材・参考書

「Breakthrough Upgraded 2 7章」美誠社
「ブレイクスルー総合英語」美誠社
「コンパクト英語構文 90」数研出版
「コンパクト英語構文 90 活用ワークブック」数研出版
「UPGRADE(アップグレード)英文法・語法問題」数研出版

5 課題・補習について

長期休業中などに課題を出し、休み明けの宿題テストに出題する予定です。文法の基礎・基本を定着するためには、演習問題を解き、知識の再確認を図ることが重要です。課題は必ず提出すること。

6 評価の視点・考査について

- ①定期考査・宿題テスト・提出物等の状況を見て評価する。
定期考査は複数の教材から出題し、100点満点となります。
- ②本講座は、英語の科目「ライティング」として評価します。

授業計画：ライティング【英W】

期	月	単元・考査等	教材	授業内容と着眼点	
前	4	L25 L26	Breakthrough	仮定法（1）（2）	
	5	L9,10,11, L27Furtherstep123	New Access (Part2) Breakthrough	現在 過去 未来 進行形 現在完了 語法 / Furtherstep1 助動詞・受動態 2 動名詞 ・不定詞 3 分詞	
		L12,13,14,15 定期考査	New Access (Part2)	過去完了 受身 助動詞	
	6	Furtherstep456	Breakthrough	4 関係詞・比較 5 否定 6 仮定法・語法	
	期	7	L16,17,18,19 定期考査	New Access (Part3)	主語 it / 目的語 (to 不定詞 / 動名詞 / 節)
		8	夏季休業		
9		L1 2 3 4 L20,21,22,23	コンパクト英語構文 New Access (Part3)	It 中心・不定詞構文 補語 (to 不定詞 / 動名詞 / 節 / 分詞) 修飾語句	
後	10	L5 6 7 8 9 L24,25,26,27, 定期考査	コンパクト英語構文 New Access (Part)	不定詞・分詞・動名詞・関係詞構文 修飾語句 (副詞/前置詞/to 不定詞/分詞)	
	11	L 10 11 12 13 14	コンパクト英語構文	否定・助動詞・仮定法構文	
	12	L28,29,30,31, L15 16 17 18 19 定期考査	New Access (Part3) コンパクト英語構文	関係代名詞 / 関係副詞 / 接続詞 仮定法・接続詞・比較構文	
		冬季休業			
	1				
	2	L32,33,34	New Access (Part3)	比較 否定表現	
		L20 21 22 23 24	コンパクト英語構文	比較・譲歩・無生物主語・間接疑問・同格 ・強調・倒置・名詞構文	
	3	L35,36 定期考査	New Access (Part3) コンパクト英語構文	仮定表現 Let's Read Passages 123456 (入試問題演習)	
		春季休業			

7 家庭

家庭基礎

単位数	2
担当者	吉澤 淳子
教科書	「家庭基礎」東京書籍

1 講座のねらい

男女が共に協力・協調して家庭及び地域社会で豊かな生活ができるようにします。
そして、そのために必要な衣食住、家族、保育に関する基礎・基本的な知識と技術を習得し
自主・自立的に行動できる力を培います。

2 授業の内容と進め方

主な学習内容

- (1) 人の一生と家族・福祉
- (2) 家族の生活と健康
- (3) 消費生活と環境
- (4) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ

学習の進め方

- (1) 実践的、体験的な学習を重視します。
- (2) 各学習内容は、相互に有機的な関連を図り展開します。

3 学習する上での留意点

- (1) 授業でやることを素直に受け入れ真面目に取り組むことが必要です。
- (2) 授業内容を発展・応用して家庭生活（ホームプロジェクト）や地域社会（学校家庭クラブ活動）で実践することが大切です。

4 副教材・参考書

生活学 Navi 資料＋成分表 2011（実教出版）

5 課題・補習について

長期休業日を中心としてホームプロジェクト（HP）、学校家庭クラブ活動（FHJ）を実施
します。

6 評価の視点・考査について

- (1) 授業への取り組み、提出物、定期考査、小テスト等を総合して評価します。
- (2) 学習内容に取り組むプロセスを重視します。

授業計画：家庭基礎

期	月	単元・考査等	授業内容	着眼点
前期	4	人の一生と家族・福祉	高齢者の生活と福祉 高齢者の心身の特徴と生活 高齢者の福祉	高齢者の生活実態について認識し、適切に関わることができる。 高齢者学習を通して自らの生き方を考える。
	5	家族の生活と健康 定期考査	食生活の管理と健康Ⅰ	
	6		栄養と食事 食品と調理	食事摂取基準、食品群を踏まえた食事の摂り方が理解できる。
	7	定期考査	ホームプロジェクト実施 学校家庭クラブ活動	夏季休業日にホームプロジェクトの実施をする。 家事労働や地域社会への興味・関心を深める。
	8	夏季休業		
	9		ホームプロジェクトレポート 発表会	発表に当たってプレゼンテーションのしかたを工夫できる。
後期	10	家族の生活と健康 定期考査	食生活の管理と健康Ⅱ 日本型食生活 食品と調理	日本の伝統的な食事の特徴とよさを理解をし、自らの健康を考えた食行動に発展できる。 Liaison Cooking ができる。
	11		人間と食べ物	食に関する調査・研究活動を通して広い視野で食生活を考えることができる。
	12	定期考査 冬季休業		
	1	人の一生と家族・福祉	乳幼児の発達と保育・福祉 子どもの福祉	子どもを支援する環境について Cooking with the Family 等を実施し、保育への関心を高める。
	2		子どもの生活	子どもの発達を支える親の役割や共生について絵本の読み聞かせを通して理解をする。 交流活動を実施し、子ども理解を深める。
	3	定期考査 春季休業		

第 3 学 年

1 国語

平成23年度、第3学年の国語は以下の科目・講座が設定されています。

科目名	講座名	単位	クラス数	担当者	備考
現代文	現代文	2	8	桜井俊之 澁谷直孝	文理共通 必修
古典	古典	4	5	桜井俊之 澁谷直孝	文系 必修
古典講読	古典講読A	2	2	桜井俊之 澁谷直孝	文系 自由選択
	古典講読B	2	1	澁谷直孝	文理共通 自由選択
国語表現 I	国語表現 I	2	1	桜井俊之	文理共通 自由選択

現代文 文理共通必修

単位数	2
担当者	桜井俊之 澁谷直孝
教科書	明治書院「新精選現代文2」

1 講座のねらい

近現代の文章・詩歌を理解し、味わい、生活や人生を考える糧とします。第2学年までの学習をさらに発展させ、入試に対応できる実力の養成を図ります。入試の過去問や予想問題の演習も含めて行います。3年生としての心組をしっかり固め、予復習の実行を心掛けて臨ませます。

2 授業の内容と進め方

教科書を中心に、副教材を援用し、課題も提示してスピーディーに取り組みます。適宜質問し理解度を確認しつつ学習します。問題演習を適宜実施し、読解のノウハウを追求します。

3 学習する上での留意点

- (1) 「評論」の分野では、観念語や概念語の習熟と文脈内での理解を心掛けましょう。
- (2) 「小説」の分野では、登場人物の生い立ち・性格・思考の特徴を押さえ、事件との関係性を深読みしましょう。
- (3) 「なぜ、どうして」と自ら問い考え、質問するという主体的な姿勢が実力養成に結びつきます。
- (4) 代表的な現代思想・潮流・発想を紹介し、解説する。現代の学問の研究成果・達成にもふれます。

4 副教材・参考書

- 「重要問題演習 現代文」 (進研学参)
「プロGRESS現代文」 (いいずな書店)
「新訂 国語図説」 (京都書房)

5 課題・補習について

各分野・各教材ごとに課題を与えたり、演習を行って実力を血肉化します。提出課題も用意します。夏休みには発展的・系統的な補習や実践的な取り組みを実施します。

6 評価の視点・考査について

各定期考査の成績、宿題、小テスト、課題提出、授業への取り組み・意欲などを総合的に勘案して評価します。

授業計画：現代文 文理共通必修

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4	評論 1	異文化理解 真実の百面相	「異文化」におけるコミュニケーションのあり方をつかむ。評論の文章について論理の展開や要旨を的確にとらえる。
	5	小説 1 定期考査	檸檬 俘虜記	小説の人物、情景、心情を的確にとらえる。感覚的な表現を生き生きと味わう。
	6	評論 2	メディアの在り方 エコロジーのミューズを求めて	「メディア」と社会構造との関連をとらえる。「エコロジー」と「詩の世界」の親和性を中心に筆者の主張を読み取る。
期	7	小説 2 定期考査	舞姫	鴎外の履歴を踏まえ、現代の青春や恋愛と対照しつつ、挫折せざるをえなかった明治の青春について考察する。
	8	夏季休業		
後	9	評論 3	画家の領分 群衆の顔	「理念の実現」という芸術観に対する筆者の批判をとらえる。対比的な物事の論じ方を学ぶ。
	10	随想 定期考査	誕生日について	「誕生日」の意味について筆者の考えをつかむ。
	11	随想 詩歌 小説 3	身体という受動性 詩四編 美神	問題意識に応じた話題の取り上げ方を学ぶ。詩の生き生きとした味わいに触れる。登場人物の心理の推移を深くとらえる。
期	12	定期考査 冬季休業		
	1		入試問題演習	大学入試に向けて、センター試験、過去問題、練習問題の演習とともに、これまでの学習の整理・補習を行う。
	2			
	3	卒業式		

単位数	4
担当者	桜井俊之 澁谷直孝
教科書	右文書院 古典

1 講座のねらい

江戸期以前の作品を中心に読み解き、伝統文化を継承するとともに、自己の生活や人生を考える上での糧とします。古典は一般に考えられている以上に、現代の生活や文化と深く関わっているため、現代文と区別せず、国語の一つとして、古典・現代文ともに力を注ぐこと。意欲的に学習に取り組み、実力を身につけるあらゆる努力を試みます。古典文法は古文・漢文共通なので、特に工夫を凝らし、古典常識も含めて習熟を心掛けます。「現代文の魂」・「古文のころ」・「漢文の精神」に触れたいと思います。

2 授業の内容と進め方

予習復習の他に、二年次以上に周到で精細なノートの作成や、聞きながら書き、書きながら聞く態度、板書以外の口頭で述べたことを記述する姿勢など、実践的に対処する。スピーディーに進めるので、疑問や不明な点はすぐ質問して確認しておくようにしましょう。

3 学習する上での留意点

- (1) 不明な古語・漢語はまめに辞書を引き、「まことしき」文の道を探りましょう。
- (2) 人間性は普遍的なものがあるので、人々の生活や生活信条、人生への取り組みの姿勢など、現代生活に活かせるものを吸収しましょう。

4 副教材・参考書

「新・漢文の基本ノート」	(日栄社)
「新・国文学史ノート」	(日栄社)
「力をつける古典 ステップ3」	(数研出版)
「重要古文単語 3 1 5 改訂版」	(桐原書店)
「新しい古典文法四訂版」	(桐原書店)

5 課題・補習について

各分野・教材ごとに課題や宿題などを提示します。演習や小テスト、夏休みの補習などを行う。夏休み補習は体系的・網羅的に実施し、実力養成を図ります。

6 評価の視点・考査について

各定期考査の成績のほか、小テスト、課題提出、授業への取り組み態度・意欲などを総合的に判断して評価します。

授業計画：古典 文系必修

期	月	単元・考査等	教 材		授業内容と着眼点	
前 期	4	説話二 文二	古事記 宇治拾遺物語		上代の神話伝説に触れる。既に学習した基本事項を定着させる	作者の人生観を学ぶとともに、文章の美しさを味わう
	5	随筆二 漢詩二 定期考査	枕草紙	長恨歌(白居易)	自然や人生に対する筆者の態度や思想・心情を理解させ、ものの見方や考え方を深める	玄宗皇帝と楊貴妃の愛とその悲劇をその流麗な表現の美しさとともに鑑賞する
	6	物語二 思想二	源氏物語(二)	老子 莊子	物語(小説)を鑑賞することの面白さ・楽しさを実感する	儒教思想以外の、中国の古代思想についての理解を深める。
	7	日記二 定期考査	蜻蛉日記	韓非子	筆者のおかれている状況をふまえて、その苦悩を読みとる。	法家思想に触れる。
	8	夏季休業				
	9	史話(二)	和泉式部日記 紫式部日記	鴻門之会	筆者の恋の道程を追跡し、その和歌に溢れる思いを味読する。	句形を確認し文法の力を養う。
後 期	10	定期考査		四面楚歌	当代人の暮らしの意識を考えさせる。	漢楚の興亡について学ぶ。
	11	評論二	無名抄 玉勝間	水魚之交	わが国の古典評論について認識と理解を深める。	諸葛孔明と劉備について学ぶ。
	12	近世 定期考査	雨月物語		近世という時代の文学的情操を理解する。	
	1	冬季休業		センター試験直前対策	センター試験直前対策	
	2					
	3	卒業式				

単位数	2
担当者	桜井俊之 澁谷直孝
教科書	筑摩書房 古典講読 (古文・漢文) 物語・史伝選

1 講座のねらい

古典としての古文を読む能力を高め、古文を読んで日本文化の特質について考える姿勢を養います。古文に用いられている語句の意味・用法及び文の構造を理解し、表現上の特色をとらえ、文学史の知識を学びます。漢文の読みを深めるために積極的に情報を収集・活用して、自分なりの考えを深めます。文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえることができるようになり、また、文章や作品に表れた人間・社会・自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにしたいと思います。

2 授業の内容と進め方

予習復習は当然のこと、自分にとって使いやすく周到で精細なノートの作成し、聞きながら書きながら聞く態度を忘れず、板書以外の口頭で述べたことを記述する姿勢を持つなど、実践的に対処します。スピーディーに進めるので、疑問や不明な点はすぐ質問して確認しておくこと。

3 学習する上での留意点

- (1) 意味不明な古語は辞書を引き、「まことしき」文の道を探りましょう。
- (2) 人間性は普遍的なものがあるので、人々の生活や生活信条、人生への取り組みの姿勢など、現代生活に活かせるものを吸収しましょう。

4 副教材・参考書

「新・漢文の基本ノート」	(日栄社)
「新・国文学史ノート」	(日栄社)
「力をつける古典 ステップ4」	(数研出版)
「重要古文単語 3 1 5 改訂版」	(桐原書店)
「新しい古典文法四訂版」	(桐原書店)

5 課題・補習について

各分野・教材ごとに課題などを提示します。演習や小テスト、夏休みの補習などを行います。夏休み補習は体系的・網羅的に実施し、実力養成を図ります。

6 評価の視点・考査について

各定期考査の成績のほか、小テスト、課題提出、授業への取り組み態度・意欲などを総合的に判断して評価します。

授業計画：古典講読（古典演習） 文理共通自由選択

期	月	文系古典演習	文理古典演習
前 期	4	伊勢物語 「月やあらぬ」(第四段) 「盗人」(第一二段) 「狩りの使ひ」(第六九段)	伊勢物語 「月やあらぬ」(第四段) 「盗人」(第一二段) 「狩りの使ひ」(第六九段)
	5	「武王伐紂」(周本紀) 「謂鹿為馬」(秦始皇本紀) 定期考査	大和物語 「安積山」(第一五五段)
	6	源氏物語 「飽かぬ別れ」(桐壺卷) 「廢院の怪」(夕顔卷) 「鉅鹿之戦」(項羽本紀)	源氏物語 「飽かぬ別れ」(桐壺卷) 「廢院の怪」(夕顔卷)
	7	定期考査	
	8	夏季休業	
	9	「車争ひ」(葵卷) 「鶯の初音」(初音卷) 「孔子為政」(孔子世家)	「車争ひ」(葵卷) 「鶯の初音」(初音卷) 「花の蔭」(若菜上卷)
後 期	10	大鏡 「菅公配流」(時平) 「兼通、関白は次第のままに」(兼通)	大鏡 「菅公配流」(時平) 「兼通、関白は次第のままに」(兼通)
	11	「晏子之御」(管晏列伝) 「以孫子為師」(孫子呉起列伝) 「隆家と道長」(道隆) 定期考査	「隆家と道長」(道隆) 増鏡 「後鳥羽院」(第一・第二)
	12	冬季休業	
	1	過去問演習	過去問演習
	2		
	3	卒業式	

国語表現 I

文理共通自由選択

単位数	2
担当者	桜井俊之
教科書	明治書院 新編国語表現 I

1 講座のねらい

「書くこと」は自己を表現することですが、考えることや考えてきたことの経験がないと論点が不明確になり、説得力のある内容になりません。実際に文章が書けません。日頃から問題意識を持たせることにより、自己の主張を明瞭にさせ、論理的な文章の作成に導きます。

2 授業の内容と進め方

- ・原稿用紙の書き方から課題作文、入試小論文まで、その注意点を解説します。
- ・テーマを設定した各課題について、実際に書いてみる演習を毎回行います。

3 学習する上での留意点

- ・本講座取得生徒には医療・看護・福祉関係への進学者が多いので、テーマ・解説などそれに沿った内容のものを主体に行います。
- ・毎回実際に書かせる演習を行います。

4 副教材・参考書

- ・「プログレス現代文」 (いいずな書店)
- ・「新訂 国語図説」 (京都書房)

5 課題・補習について

適宜、設定されたテーマについて小論文を作成する課題を与えます。個人的な小論文指導は放課後や夏休み等に実施します。

6 評価の視点・考査について

定期考査は行わず、授業時の小論文作成および提出物で評価します。

授業計画：国語表現Ⅰ 文理共通自由選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4	表現を考える	「会話が作る人間関係」 「書くとは考えること」	会話や話すこと書くことと小論文との関係 を考える・テーマを設定して小論文を書く 演習を行う。
	5	情報を生かして	「私たちと情報」 「情報を組み立てる」	情報の持つ意味を解説する。 ・小論文演習
	6	論理で説得する	「論理的な文章とは」 「意見文を書く」	論理的な文章と表現の解説 ・小論文演習
期	7			夏休み課題の設定・解説・実施
	8	夏季休業		
	9	日本語を豊かに	「日本語の語彙と変遷」	言葉としての日本語の特徴と効用を解説 ・入試小論文（過去問）演習
後	10	各テーマ・論点	各領域ごとの問題点の 分析（1）	・入試小論文（過去問）演習
	11	各テーマ・論点	各領域ごとの問題点の 分析（2）	・入試小論文（過去問）演習
	12	冬季休業		・入試小論文（過去問）演習
期	1			
	2			
	3	卒業式		

2 地理歴史

世界史 B

文系必修選択

単位数	4
担当者	平栗 孝
教科書	詳説世界史B 山川出版社

1 講座のねらい

この講座は、大学入学試験で「世界史 B」を受験科目と考えている人を対象に授業を行います。大学入試問題が解けるようになるためには、世界史の個々の知識を理解する学習とともに個々の知識を1つの歴史的な流れとして捉える学習が必要です。ですから、この講座では、世界史的な視野で世界を見ていく学習を目指します。現在、国公立を受験する人が必ず受験する（私立大学も多くの大学が利用しています）大学入試センター試験をみますと、教科書をきちんと理解していれば解けます。よって、この講座では、教科書の内容をしっかりと理解し、現代の様々な課題を歴史的に考察できる力を持てるようにしていきます。

2 授業の内容と進め方

第2学年では、先史、古代オリエントから、ヨーロッパの古代・中世、古代インド、古代中国、イスラームの初期の王朝などを学びました。第3学年必修選択「世界史 B」の授業内容は、前期は、15世紀頃から19世紀までのヨーロッパ資本主義の発展を学習します。また、その頃のアジアで君主独裁体制が強化された歴史を学習します。後期は、第2次世界大戦から現代までの歴史を学習し、私たちが抱えている多くの課題を考察します。

世界史の授業内容は膨大です。そこで、自由選択講座「世界史 B」では、帝国主義時代前後から学び、第2次世界大戦勃発あたりまでを学習します。講義はプリントで進めます。

3 学習する上での留意点

- 1) 2の授業の内容と進め方でも述べましたように、自由選択と必修選択では、異なる時代を扱いますので、4月最初の授業から、毎時間、授業の復習（整理）をしてください。ファイルも2つ用意してください。
- 2) 自分で世界史の学習計画をたて、積極的に授業に望んでください。
- 2) 授業には、「教科書」、「世界史図説」、「世界史用語集」を必ず持参してください。授業中は、説明のメモをとり、授業で学習している時代の図説を開けて確認してください。授業が終わった後は、『ウィニングコンパス』や問題集で演習を行い、歴史上の人名・地名・事件などを定着させてください。

4 副教材・参考書

- ①『世界史B用語集』（山川出版）
… 用語集は、英語学習で言えば辞書にあたります。教科書などで人名・地名・歴史的な語句が出てきたら『世界史B用語集』で確認してください。下線を引くなど工夫してください。
- ②『世界史のパサージュ』（とうほう）…以後、世界史図説とよびます。
… 授業中は常に広げ、地図、写真、年表、系図など積極的にみて確認してください。特に地図は世界史にはなくてはならないものです。王朝の領域、重要都市を現在の国家や都市と比較して理解を深めてください。
- ③『ウィニングコンパス』（とうほう）…2年の時に使用しました。
初めに、サブノート（教科書をまとめる）を丁寧に完成させます。次に大学入試問題を解いてください。最初は難解で時間がかかりますが、答を丸暗記するのではなく、焦らず解いて、理解して下さい。こうした学習は、授業後（空き時間や家庭で）必ず行ってください。

5 課題・補習について

夏季休業に補習を実施します。範囲などは授業の中で説明します。

6 評価の視点・考査について

考査は、前期5月・7月、後期10月・12月の各テスト4回を実施します。
評価は、出席状況、授業への姿勢、課題の提出、そして4回の考査を総合的に評価します。

授業計画：世界史B 文系必修選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4	第9章近代ヨーロッパの成立 第10章ヨーロッパ主権国家体制の展開	通年 プリント、下記教科書等 山川出版社『詳説世界史B』 山川出版社『世界史B用語集』 とうほう『世界史のパサージュ』 教科書 P.184~219	<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代、ルネサンス、宗教改革というヨーロッパに近代をもたらした運動について学ぶ。 ・各国の絶対王政について学ぶ。 ・英仏中心に、ヨーロッパ諸国の海外進出と衝突について学ぶ。
	5	第8章アジア諸地域の繁栄 定期考査	p.165 ~ 183	<ul style="list-style-type: none"> ・14世紀以前のアジア諸地域史の復習 ・東アジア、東南アジア世界の動向を学ぶ。 ・トルコ、イラン、インドのイスラム諸国家の形成と発展について学ぶ。 ・明・清の政治史を中心に学ぶ。
	6	第11章 欧米における近代社会の成長	p.220 ~ 233	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命について学び、近代市民社会を理解する。
期	7	第12章欧米における近代国民国家の発展（19C前半） 定期考査	p.234 ~ 248	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀前半のヨーロッパ、ウィーン体制と1948年の諸革命について学び、資本主義の特質を理解する。
	8	夏季休業		
	9	第12章欧米における近代国民国家の発展（19C後半）	p.249 ~ 257	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀後半のヨーロッパ世界を米・露を中心に学ぶ。 ・アメリカ南北戦争について学ぶ。 ・ロシアの改革と東方問題を学ぶ。
後	10	第15章 1 二つの世界大戦 定期考査	p.329 ~ 344	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦の歴史的背景、経過を学ぶ。
	11	第16章冷戦と第三世界の自立 第17章現代の世界	p.337 ~ 357・ p.358 ~ 376	
	12	定期考査 冬季休業		<ul style="list-style-type: none"> ・センターテスト 演習 ・私立大学入試問題 演習
期	1	特別編成授業	入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・センターテスト 演習 ・私立・国公立大学入試問題 演習
	2			
	3	卒業式		

単位数	3	
担当者	山本 優子	平栗 孝
教科書	詳説世界史 B	山川出版社

1 講座のねらい

この講座は、大学入学試験で「世界史 B」を受験科目と決めている人を対象に授業を行います。大学入試問題が解けるようになるために、世界史の個々の知識を理解し、さらに個々の歴史的知識を一つの歴史的な流れの中で捉える学習を行います。この講座では、世界史的な視野で世界を見ていく学習を目指します。受験生の第一関門である大学入試センター試験の範囲は、教科書をきちんと理解していけば解けます。ですから、この講座でも必修選択「世界史 B」と同様に、教科書の内容をしっかりと理解することに努め、現代の様々な課題を歴史的に考察できる力を持てるようにします。国公立大学2次試験の論述問題も私立難関大学の問題もまずは基礎的な事項の理解と歴史の流れを大きく捉えることからです。

2 授業の内容と進め方

授業の内容は、必修選択の「世界史 B」の授業と重複しないように配慮し、帝国主義時代の前から始め、第1次世界大戦、世界恐慌とファシズム、そして、第2次世界大戦に至る歴史を学習します。授業は、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国が欧米列強の植民地になっていく歴史、言い換えると民族運動の歴史を学習します。授業は、プリントを用いて講義します。

3 学習する上での留意点

- ① 自由選択の講座と必修選択の講座では、異なる時代を扱いますので、4月最初の授業から、毎時間、授業の復習（整理）をしてください。ファイルも必修選択と2冊用意してください。
- ② 自分で世界史の長期・短期両方の学習計画を立て、積極的に授業に望んでください。
- ③ 授業には、「教科書」、「世界史図説」、「世界史用語集」を必ず持参してください。授業中は、説明のメモをとり、常に授業で学習している時代の図説を開いてください。授業が終わった後は、『ウィニングコンパス』や『センター世界史』などの問題集をノートをつかって解いてください。（問題集には書き込まないでください。間違った箇所をチェックしておく）
- ④ 授業外でも、書籍、テレビの報道番組、インターネット等を利用し、教養を深め、世界史そして現代社会への興味・関心を高めてください。新聞の国際面や、社説を毎日読んでください。

4 副教材・参考書

『世界史B用語集』（山川出版） … 英単語を辞書で引くように活用してください。
『世界史のパサージュ』（とうほう） … 世界史図説は用語集とともに授業中は常に該当ページを開いて確認してください。
『ウィニングコンパス』（とうほう） … 復習・予習として、何度も入試問題を解いてください。
『センター世界史』（啓隆社） … センター試験形式の正誤問題を解きながら、基礎知識の定着をはかります。2年次の復習として考査の範囲になります。

この他に、私大受験向けの問題集はさまざまなものが出版されています。目的にあったものを2～3冊選んで自分で購入し、繰り返し解いてください。

5 課題・補習について

夏季休業に補習を実施します。範囲は授業中に説明します。

6 評価の視点・考査について

考査は、前期5月・7月、後期10月・12月の各テスト4回を実施します。

考査は、授業の内容70点分、復習問題（『センター世界史』）30点分の100点です。

評価は、出席状況、授業への姿勢、課題の提出、そして4回の考査を総合的に評価します。

授業計画：世界史B 文理共通自由選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	第13章帝国主義の時の動揺 ・オスマン帝国 ・ムガル帝国 ・東南アジア ・清帝国	通年 プリント、下記教科書等 数教出版『世界史B』 山川出版社『世界史B用語集』 とうほう『世界史のパサー ジュ』	・17～18世紀以降、アジア諸帝国が弱体化し、ヨーロッパ列強による植民地化について学ぶ。
	5	第14章帝国主義とアジアの民族運動 ・帝国主義(欧米) 定期考査	教科書 p.258～275 p.276～297	・列強による世界分割と、被支配地域における民族運動について学ぶ。
	6	・帝国主義(アフリカ・アジア) 第15章二つの世界大戦 ・第一次世界大戦 ・ロシア革命	p.298～302	・第一次世界大戦とロシア革命を学び、社会主義の意義を考察する。
	7	定期考査		・前期の総まとめ
	8	夏季休業		
後 期	9	・ヴェルサイユ体制 ・大戦後のアジア	p.305～321	・ヴェルサイユ体制下のヨーロッパと大戦後のアジアの民族運動を学ぶ。
	10	・世界恐慌とファシズム 定期考査	p.321～329	・世界恐慌とその影響、さらにファシズム諸国の侵略を学ぶ。
	11	・大戦間の中国 ・大戦間のインド	p.312～326	・大戦間の中国と英領インド帝国の民族運動を学ぶ。
	12	定期考査 冬季休業		センターテスト 演習 私立大学入試問題 演習
	1	特別編成授業		センターテスト 演習 私立・国公立大学入試問題 演習
	2			
	3	卒業式		

単位数	4
担当者	
教科書	山川出版社 詳説日本史改訂版

1 講座のねらい

第3学年の必修選択日本史では、我々が生きる現代に非常に関わりの深い近現代史、すなわちペリー来航以降の幕末・明治・大正・昭和史を学びます。近代以降の日本が欧米諸国との関わりの中でどのような刺激を受けてきたのか、またアジア諸国とどのように関わってきたのかを視野に入れつつ、国内の政治や社会・経済や文化がどのように推移してきたのかを捉えていきます。その中で、今の日本が抱える諸問題が歴史上の何に起因しているのかを考察できるようにすることがこの講座の狙いです。

2 授業の内容と進め方

詳細は次ページの授業計画を参照してください。授業は、講義を中心として、概ね教科書の記述の順序に沿って基本的な歴史の流れを理解してもらうことを主眼として進めます。授業の中で教科書はもちろん、副教材（図説や史料集）・用語集などを参照することもあるので、これらの教材は必ず持参してください。

授業を受ける際には板書を単に写し取るだけでなく、集中して講義を聴き、説明された内容を積極的にメモするようにしてください。あとで見返したときにしっかりと流れがわかる、オリジナルなノートを作成することが目標です。

なお、小テストを行うことや課題を課すこともあります。

3 学習する上での留意点

ごく当たり前のことですが、最も大切なことは、授業に集中して取り組むことです。そして、授業に取り組む中で上にも記したようなしっかりとしたノート作りをしてください。ノートを作る際に、以下のような作業を加えることが望ましいです。

- ① 教科書を読んで、流れを確認しつつ漏れた情報を拾う。
- ② 図説で図表を確認・史料集で関連する史料にあたる。
- ③ わからない歴史用語などは用語集で調べる。
- ④ 疑問点を整理し、調べてもわからないことは積極的に質問する。

日本史学習で大事なことは、暗記ではありません。歴史の流れと歴史事象の意義を理解することです。その理解の上に、語句の暗記が成立します。理解なくして暗記は成立しません。このことを、肝に銘じて学習してください。

4 副教材・参考書

◎副教材 新詳日本史（浜島書店） 詳録新日本史史料集成（第一学習社）
新課程用日本史B用語集（山川出版社）

※いずれも2年から使用しているものなので、新たに購入する必要はありません。

◎参考書（例）『石川 日本史B講義の実況中継』①～⑤（語学春秋社）

『ナビゲーター 日本史B 1～4』（山川出版社）

◎問題集（例）『実力を付ける 日本史100題 増訂第2版』（増進会出版社）

『はじめる日本史 50テーマ』（増進会出版社）

5 課題・補習について

補習については夏季休業・期間休業・冬季休業中などに適宜実施する予定です。詳細については随時連絡します。また、課題は各担当者が課すことがあります。

6 評価の視点・考査について

評価は4回の定期テストと平常点（課題あるいはノート・小テスト・出欠状況・授業態度等）を組み合わせて行います。

授業計画：日本史B（文系必修選択）

期	月	単元・考査等	授業内容	着眼点
後 期	4	9章 近代国家の成立	①開国と幕末の動乱 ②明治維新と富国強兵	さまざまな政治勢力の動き 近代国家の形成と特色
	5	定期考査	③立憲国家の成立と日清戦争	立憲国家の形成過程と特徴
	6		④日露戦争と国際関係 ⑤近代産業の発展 ⑥近代文化の発展	2度の対外戦争の要因と影響 急速な発展の光と影 文化の近代化の諸相
	7	10章 近代日本とアジア 定期考査	①第一次世界大戦と日本	大正デモクラシーにつながる 民衆の意識の成熟
	8	夏季休業 夏期講座		
	9		②ワシントン体制 ③市民文化 ④恐慌の時代	新たな国際的枠組みの様相 恐慌の要因と影響
	10	定期考査	⑤軍部の台頭	中国との戦争と対米関係 戦時総力戦体制と民衆の意識 及び生活の様相
	11	11章 占領下の日本 12章 高度成長の時代	①占領と改革 ②冷戦の開始と講和 ① 55年体制 ②経済復興から高度成長へ	戦後改革の狙いと結果 冷戦の国際的背景と展開 「55年体制」の意味と影響 市民生活の変化
	12	13章 激動する世界と日本 定期考査 冬季休業	①現代の日本	現代日本の諸問題と歴史の 関連性
1	センター試験			
2	私立大学入学試験 国立大学前期入学試験			
3	卒業式 国立大学後期入学試験			

単位数	2
担当者	
教科書	山川出版社 詳説日本史 改訂版

1 講座のねらい

日本史受験者向けの講座です。第2学年に学習した室町時代のすぐあとにあたる近世（安土桃山時代・江戸時代）を扱い、必修選択の時間に扱う近代（1853年のペリー来航以降）の歴史につなげていきます。織田信長・豊臣秀吉・徳川家康らがどのようにして近世国家を作り上げたのか、近世国家はどう展開していったのか、そしてどのようにして近代国家につながっていったのか、民衆のあゆみや文化についても着目しつつ理解を深めてもらうことがこの講座の狙いです。

2 授業の内容と進め方

詳細は次ページの授業計画を参照してください。授業は、講義を中心として、概ね教科書の記述の順序に沿って基本的な歴史の流れを理解してもらうことを主眼として進めます。授業の中で教科書はもちろん、副教材（図説や史料集）・用語集などを参照することもあるので、これらの教材は必ず持参してください。

授業を受ける際には板書を単に写し取るだけでなく、集中して講義を聴き、説明された内容を積極的にメモするようにしてください。あとで見返したときにしっかりと流れがわかる、オリジナルなノートを作成することが目標です。

なお、復習を促すために小テストを行うことや課題を課すこともあります。

3 学習する上での留意点

ごく当たり前のことですが、最も大切なことは、授業に集中して取り組むことです。そして、授業に取り組む中で上にも記したようなしっかりとしたノート作りをしてください。ノートを作る際に、以下のような作業を加えることが望ましいです。

- ① 教科書を読んで、流れを確認しつつ漏れた情報を拾う。
- ② 図説で図表を確認・史料集で関連する史料にあたる。
- ③ わからない歴史用語などは用語集で調べる。
- ④ 疑問点を整理し、調べてもわからないことは積極的に質問する。

日本史学習で大事なことは、暗記ではありません。歴史の流れと歴史事象の意義を理解することです。その理解の上に、語句の暗記が成立します。理解なくして暗記は成立しません。このことを、肝に銘じて学習してください。

4 副教材・参考書

- ◎ 副教材 新詳日本史（浜島書店） 詳録新日本史史料集成（第一学習社）
新課程用日本史B用語集（山川出版社）

※いずれも2年から使用しているものなので、新たに購入する必要はありません。

- ◎ 問題集 日本史重要語句 Check List（啓隆社） 受験用に購入します。

5 課題・補習について

補習については夏季休業・期間休業・冬季休業中などに適宜実施する予定です。詳細については、随時連絡します。また、課題については各担当者から課すことがあります。

6 評価の視点・考査について

評価は4回の定期テストと平常点（課題あるいはノート・小テスト・出欠状況・授業態度等）を組み合わせて行います。評定は必修選択日本史4単位と合算して6単位として出します。

授業計画：日本史B（自由選択）

期	月	単元・考査等	授業内容	着眼点
前 期	4	6章 幕藩体制の確立	①織豊政権	統一政権の政策
	5		②桃山文化 ③幕藩体制の確立	幕藩体制の統治のしくみ 鎖国の成り立ち
	6	7章 幕藩体制の展開	①幕政の安定	幕藩体制の転換の要因と内容
	7	定期考査		
	8	夏季講座 夏季休業		
	9		②経済の発展 ③元禄文化	江戸時代の経済発展の様相 社会の成熟と文化の関係
後 期	10	8章 幕藩体制の動揺	①幕政改革	封建制変質の要因と幕政改革 の内容
	11		②幕府の衰退 ③化政文化	国際社会の情勢変化と近代国 家への転換のあゆみ 町人文化の成熟
	12	定期考査 冬季休業		
	1	センター試験		
	2	私立大学入試		
	2	国立大学前期入試		
	3	卒業式 国立大学後期入試		

地 理 B

文理共通自由選択

単位数	2
担当者	
教科書	新詳地理B 最新版

1 講座のねらい

第2学年で学習した系統地理分野を基本に、地誌的な学習を行います。またセンター試験や私大入試に向けた問題プリントなどを利用し、学力のレベルアップを目指します。

2 授業の内容と進め方

教科書第IV部を中心に世界の諸地域（ヨーロッパ・アングロアメリカ・アジア・ラテンアメリカ・オセアニア・ロシアなど）について学習します。後半は演習問題を行い、知識の整理と受験対策を練ります。

3 学習する上での留意点

配布されるプリントをきちんと整理し、常に復習できるようにしておきましょう。

4 副教材・参考書

地図帳・写真図表・統計要覧（すべて第2学年で使用したもの）
ぜひ「地理用語集」を準備してください。

5 課題・補習について

夏休み・冬休みなどに必要であれば補習を行います。
センター入試直前には特別講座を行います。

6 評価の視点・考査について

普段の授業態度・小テスト・提出物などで総合的に評価を行います。
積極的な態度で授業に参加してください。

授業計画：地理B 文理共通自由選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	ヨーロッパ	教科書 地図帳 資料集・統計要覧	ヨーロッパの地理的な分類 日本との関係 統計やデータに見るヨーロッパ
	5	アングロアメリカ 定期考査	同 上	アメリカ合衆国・カナダの総合地誌 民族問題や貿易問題、日本との関係について
	6	オセアニア	同 上	オーストラリア・ニュージーランドの総合地誌 太平洋諸国について
	7	アフリカ 定期考査	同 上	ホワイトアフリカとブラックアフリカの総合地誌 部族問題・食糧問題・人口問題
	8	夏季休業		
	9	アジア	同 上	東南アジア・東アジアの変貌 南アジアの総合地誌 中東地誌・イスラム文化について
	後 期	10	旧ソ連地域 定期考査	同 上
11		ラテンアメリカ 問題演習	同 上	メキシコ以南のラテンアメリカ総合地誌 センター試験に向けての練習問題実践 私大入試に向けての練習問題実践
12		定期考査 冬季休業		
1				特別編成授業
2				
3		卒業式		

3 公民

政治・経済

文系必修

単位数	2
担当者	蜂須賀 正明
教科書	高校 政治・経済 新訂版 実教出版

1 講座のねらい

第1学年で学んだ「現代社会」を基礎として、現代社会のしくみや特徴・課題を特に政治と経済の分野から理解していくことを目標とします。

2 授業の内容と進め方

詳細は「授業計画」をみてください。実際には週2単位の授業ですべての項目を網羅することは難しく、触れられない分野は、自由選択で扱います。授業の方法は、主に講義形式で進めていきます。

3 学習する上での留意点

社会状況に興味を持つために、テレビのニュース番組や新聞に注目しましょう。大きな話題は授業でも取り上げます。集中して授業を聞いていれば定期考査は大丈夫でしょうが、高得点を望みたい人は、その日のうちに1度復習しておくことをお勧めします。授業の流れを語れる状態にしておきましょう。

受験で使おうと考えている人、政治分野は憲法を中心に暗記+理解、経済分野は経済理論の理解（需要・供給の法則、GDP、為替レートなど）が中心となります。

4 副教材・参考書

『最新図説 政経』浜島書店
他に自由選択者が購入する教科書準拠のサブノート（選択者以外は相談してください）
あると便利なもの…用語集など

5 課題・補習について

夏休みに受験対応の補習を予定。自選がとれない人や理系の自選選択者用。定期試験の成績が芳しくなかった人には別途指名して課題を与えることもあります。

6 評価の視点・考査について

主に定期考査の得点。課題提出状況、授業態度等を総合的に判断します。

授業計画：政治・経済 文系必修

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	民主政治の 基本原理	民主政治の原理と発展 世界の政治体制 日本国憲法の成立	政治分野の導入なので、政治・法・民主主義・人権などの基本的な理念を理解する。市民革命等、世界史の基本知識を要する。
	5	日本国憲法と 民主政治 定期考査	平和主義 基本的人権の保障	憲法第9条を中心に日本の平和を考える。有事立法等、時事問題にも触れる。法の下での平等。自由権的基本権。
	6	日本の政治制度 定期考査	基本的人権の保障 日本の三権分立 地方自治のあり方	社会権的基本権。新しい人権。人権では判例もふまえ、事例研究をする。国会・内閣・裁判所・地方自治等、制度論。
	7	現代日本の政治	戦後政治の歩み	政党政治や選挙制度、世論やマスコミと政治など日本政治の諸課題。政党政治では戦後日本史の知識を要する。
	8	夏季休業		夏期休業中の補習－7月下旬と8月下旬を中心に政治分野補習とセンター過去問。
	9	国際政治と日本	国際法、国際連合 戦後国際政治の展開 軍縮、民族紛争	経済とは何か、資本主義経済はどう変容したか、歴史的流れの把握。需要と供給の法則の理解。
	10	経済社会の発展 現代経済のしくみ 定期考査	資本主義経済の特徴 市場機構	経済とは何か、資本主義経済はどう変容したか、歴史的流れの把握。需要と供給の法則の理解。
	11		国民所得と景気変動 金融と財政	国内総生産（GDP）の変化と景気変動。日本経済の金融・財政の現状はどうなっているか。
	12	現代経済と福祉 冬季休業	戦後日本経済史 日本経済各論 ・中小企業・公害	戦後復興、高度成長、バブルとその崩壊と戦後日本経済を概観する。
後 期	1		受験に向けた問題演習	センター試験まではセンター対策を中心に、その後は私大入試に特化した過去問の研究を実施する。
	2			
	3	卒業式		

政治・経済

自由選択（文・理）

単位数	2
担当者	蜂須賀 正明
教科書	高校 政治・経済 新訂版 実教出版

1 講座のねらい

必修政治経済の内容を補充・深化させ、大学入試センター試験や私大等の試験などに対応できる学力を育成します。

2 授業の内容と進め方

必修が政治分野から始めるのに対して、経済分野から始めて政経全分野を前期中に終了させ、その後必修で触れられなかった政治分野の復習に入ります。11月以降はセンター対策や私大一般入試の問題演習を実施していきます。

授業形態としては講義形式が主になります。

3 学習する上での留意点

- ・受験で「政治・経済」を必要とする人は、前期終了までには、サブノートを一通り終わらせて欲しいです。（必修の授業ではサブノートは使わないので、政治分野は自分でまとめることとなります）。課題研究の発表では、新聞記事のまとめなどをしてもらいます。また問題演習は時間内では終わらないことも多いので、終わらない場合は宿題となります。
- ・問題演習のあとはやりっ放しにはしないで、理解不足の分野を十分に把握し対処していくために、特別なノートを用意するといいいでしょう。
- ・受験で大きなウェイトを占める時事問題に対処できるように新聞の社説に目を通し、ニュースにも注目しておくべきです。
- ・難易度の高い大学を「政治・経済」で受験しようと考えている人は、100字前後の論述問題への対応や、穴埋め問題によく出される幅広い用語（教科書の太字にはなっていないが、新聞には出てくるような用語）に慣れるためにも、各種新書本を早めに読んでおくことをお薦めします。

※理系選択者の皆さんへ…自由選択政経の授業を週2時間だけで受験に対応することは困難です。絶対的な時間不足です。長期休業中等に補習を実施する予定です。あわせて受講してください。

4 副教材・参考書

必修で用いる資料集以外に『新 政治・経済サブノート』（教科書の準拠ノート）を購入してもらいます。また『政治・経済』の用語集もあると便利です。

5 課題・補習について

夏休みには問題演習を中心とした補習を実施する予定です。

6 評価の視点・考査について

主に定期考査の得点。課題提出状況、授業態度等を総合的に判断します。

授業計画：政治・経済 自由選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4	経 済	教科書、資料集 サブノート プリント	資本主義 しくみと歴史的流れを把握。 家計・企業・政府の経済主体と経済循環。 市場機構 需要供給曲線を理解する。
	5	経 済	以下 同上	独占と市場の失敗 経済成長と景気変動 金融・財政 基本的理論の把握する。
	6	定期考査 経 済		日本経済の諸課題① 戦後日本経済史、中小企業・農業、消費 者問題、環境保護と地球環境問題。
期	7	定期考査		日本経済の諸課題② 労働、社会保障制度
	8	夏季休業 補 習	課題プリント 問題演習プリント	センター試験対策を、補習で取り上げてい く。
	9			国際経済 国際収支表と為替相場。戦後国際経済の 動向。南北問題など。
後	10	問題演習 定期考査	問題演習プリント	民主政治の原理、憲法と基本的人権・平和 政治制度、現代日本の政治 国際社会と日本
	11	問題演習	問題演習プリント	現代経済のしくみ、日本経済（金融・財政 日本経済各論）、労働問題と社会保障 国民経済と国際経済
	12	定期考査 冬季休業	過去問等のプリント	センター対策の問題演習
期	1		過去問等のプリント	問題演習、個別指導 センター試験以降は、私大受験向けの指導
	2			
	3	卒業式		

4 数 学

数学Ⅲ

理系必修選択

単位数	4
担当者	
教科書	数学Ⅲ(数研出版)

1 講座のねらい

「数学Ⅲ」では、「数列・関数の極限」、「微分法・積分法」について学びます。これまでは事象を有限の中で扱ってきましたが、**無限という概念**を数列や関数に導入して事象を扱います。現代の自然科学を支える微分積分学の基礎となる分野です。高校数学の中では、最も思考力、応用力が試される分野であり、重要な科目です。この講座で、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと同時に、数学の醍醐味を味わってほしいものです。

2 授業の内容と進め方

内容については、次ページ授業計画を参照してください。1クラスを習熟度別に α と β の2つのグループに分けて同時展開で、授業を行います。どちらのグループも考査問題は共通です。10月までの進め方は、教科書の内容を中心とした講義が主ですが、11月からは、「数学Ⅲ」と「数学C」の入試問題の解法を行う予定です。

3 学習する上での留意点

数学の学習で、上達するための近道は、「**予習**」をすることです。自ら意欲的に授業に先行して教科書をよく読んでほしいのです。数学の本を読む基本姿勢とは、次の点をはっきりとさせた流れで取り組むことです。『①出発点である定義(決まり事)の把握→②定理(公式)の理解と証明→③その分野の問題演習』。さらに数学の力を定着させるためには、「**ちょっとした難しい問題への取り組み**」という作業が重要になります。また、数学の真の土台は、上記の②の中の定理(公式)を自分の力だけで導けることだと思います。

一方、解けなかった問題は、答を導くための方針を解答で理解した上で、チャート式参考書なども活用しながら、手を動かして自分の体に馴染ませるようにしていくことが大切です。

10月までに、4STEP問題集は終わります。11月からは、過去の入試問題を解いていきます。意欲的に取り組む姿勢を持ち続け、数学を解くおもしろさを感じる力を身につけてほしいものです。

4 副教材・参考書

副教材：教科書傍用問題集「4STEP数学Ⅲ+C」(数研出版)

クリアー数学演習Ⅲ・C(受験編) (数研出版)

参考書：「チャート式基礎からの数学Ⅲ+C」 (数研出版)

5 課題・補習について

課題は①教科書の練習問題、②4STEPのレポート提出その他。

補習は長期休業中に、基本のどっしりとした力と入試問題の解法力を養います。

6 評価の視点・考査について

定期考査は、前期2回、後期2回です。評価は、基本的にその考査の点数で行われます。もちろん、平素の学習の状況と内容、姿勢も考慮されます。

授業計画：数学Ⅲ 理系必修選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4	「微分法」	教科書P72～ 微分法 1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 3. いろいろな関数の導関数 4. 高次導関数 5. 関数のいろいろな表し方と導関数	微分法は次の①～⑥を重点的に考えます。 ① 数Ⅱで学習した微分係数と導関数の定義、その幾何学的な意味の再確認。 ② 関数の積、商、合成関数、逆関数の微分法を定義から導けること。 ③ 数多くの練習で、いろいろな関数の導関数を的確に求められるようにすること。 ④ 微分法の基本定理である平均値の定理を、グラフ上の図形で実感すること。 ⑤ 関数の極値、増減、曲線の凹凸や変曲点など、曲線の概形を追跡する方法。 ⑥ 微分法の物理に必要な近似式への利用方法。
	5	定期考査 「微分法の応用」	教科書P100～ 導関数の応用 1. 接線と法線 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数の最大・最小 5. 関数のグラフ 6. 方程式・不等式への応用	
期	6	「積分法」	教科書P127～ 速度と近似式 7. 速度と加速度 8. 近似式 教科書P138～ 不定積分 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法 3. 部分積分法 4. いろいろな関数の不定積分	積分法は次の①～⑤を重点的に考えます。 ① 積分法は微分法の逆演算なので、不定積分を求めた時の、微分しての確かめ。 ② 新しい概念である置換積分法、部分積分法は極めて重要です。不定積分の計算は、技巧的な面が強いので、関数の形で置換積分なのか、部分積分なのかを判断する能力。 ③ ある種の数列の和の極限值を求める区分求積法。 ④ いろいろな不等式の証明への定積分の利用法。 ⑤ 面積の概念は、定積分の意味を最も良く表しており、体積も切り口の面積の定積分の値であるという認識。
	7	定期考査	教科書P.151～ 定積分 5. 定積分と基本性質 6. 定積分の置換積分法 7. 定積分の部分積分 8. 定積分の種々の問題	
後	8	夏季休業 夏季補習	教科書P.170～ 積分法の応用 9. 面積 10. 体積	積分法は次の①～⑤を重点的に考えます。 ① 積分法は微分法の逆演算なので、不定積分を求めた時の、微分しての確かめ。 ② 新しい概念である置換積分法、部分積分法は極めて重要です。不定積分の計算は、技巧的な面が強いので、関数の形で置換積分なのか、部分積分なのかを判断する能力。 ③ ある種の数列の和の極限值を求める区分求積法。 ④ いろいろな不等式の証明への定積分の利用法。 ⑤ 面積の概念は、定積分の意味を最も良く表しており、体積も切り口の面積の定積分の値であるという認識。
	9		クリアー数学演習Ⅲ+C (受験編) 問題演習 数列と極限 微分法とその応用	
	10	定期考査		
	11		積分法とその応用	
期	12		入試問題演習 ①数列と極限 ②微分法とその応用 ③積分法とその応用	積分法は次の①～⑤を重点的に考えます。 ① 積分法は微分法の逆演算なので、不定積分を求めた時の、微分しての確かめ。 ② 新しい概念である置換積分法、部分積分法は極めて重要です。不定積分の計算は、技巧的な面が強いので、関数の形で置換積分なのか、部分積分なのかを判断する能力。 ③ ある種の数列の和の極限值を求める区分求積法。 ④ いろいろな不等式の証明への定積分の利用法。 ⑤ 面積の概念は、定積分の意味を最も良く表しており、体積も切り口の面積の定積分の値であるという認識。
	1	冬季休業		
	2			
	1	卒業式		

単位数	3
担当者	
教科書	数学C(数研出版)

1 講座のねらい

数学Cでは、「行列」、「二次曲線」について学びます。行列は、自然界のみならず、高度に発達した社会の仕組みの理解や解明のために基本的に重要な道具です。二次曲線は、古代ギリシャで発見され、図形の持つ数学的な美しさのみならず、自然界の仕組みの解明においても重要なものです。数学の有用性と美しさをこの講座の中に発見してほしいものです。

2 授業の内容と進め方

内容については、次ページ授業計画を参照してください。1クラス単位で授業をします。7月までは、教科書の内容を中心とした講義が主ですが、9月からは、「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」の分野で過去の入試問題を解く授業となります。その問題を扱う時は、1回の授業で、3～4題のペースで進みます。

3 学習する上での留意点

数学の学習で、上達するための近道は、「予習」をすることです。自ら意欲的に授業に先行して教科書をよく読んでほしいのです。数学の本を読む基本姿勢とは、次の点をはっきりとさせた流れで取り組むことです。『①出発点である定義(決まり事)の把握→②定理(公式)の理解と証明→③その分野の問題演習』。そして、さらに数学の力を自分のものにするには、「**ちょっと難しい問題への取り組み**」という作業が重要になります。また、数学の真の土台は、上記の②の中の定理(公式)を自分の力だけで導けることだと思います。

一方、解けなかった問題は、答を導くための方針を解答で理解した上で、チャート式参考書なども活用しながら、手を動かして自分の体に馴染ませるようにしていくことが大事です。

7月までに、4STEP問題集は終了します。9月からは、過去の入試問題を解いていきます。意欲的に取り組む姿勢を持ち続け、数学を解くおもしろさを感じる力を身につけてほしいものです。

4 副教材・参考書

副教材：教科書傍用問題集「4STEP数学Ⅲ+C」 (数研出版)
「四訂版 メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編」 (数研出版)
参考書：「チャート式基礎からの数学Ⅲ+C」 (数研出版)
：「チャート式数学Ⅰ+A, Ⅱ, B」 (数研出版)

5 課題・補習について

補習は長期休業中に、基本のどっしりとした力と入試問題の解法力を養います。

6 評価の視点・考査について

定期考査は、前期2回、後期2回です。評価は、基本的にその考査の点数で行われます。もちろん、平素の学習の状況と内容、姿勢も考慮されます。

授業計画：数学C 理系必修選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	「行列」	教科書P24～ 行列の応用 1. 行列 2. 行列の加法、減法と実数倍 3. 行列の乗法 4. 行列の乗法の性質 5. 逆行列 6. 連立一次方程式と行列 7. 点の移動と行列 8. 合成変換と逆変換 9. 回転移動	行列では、次の①～④が大切です。 ① 数や式の演算との類似点、相違点を明らかにしながらの、加法、実数倍、積などの演算の正確な実行。 ② 数の逆数に相当するものとして逆行列の意味を理解しての、連立一次方程式の解法。 ③ 最重要箇所であるハミルトン・ケーリーの定理と行列のn乗、対角化。 ④ 一次変換では、常にx y平面上の点の動きの視覚的なイメージ。さらに、合成、逆、回転、対称などの移動を行列を使って表現できる便利さ。 放物線、楕円、双曲線では、次の①から⑤が大切です。 ① 方程式を満たす点を座標平面上に取っていくことでグラフを描くこと（軌跡の感覚） ② それぞれの標準形のマスター ③ 焦点の性質 ④ 準線の考えを導入しての、二次曲線の離心率eを使っての分類。 ⑤ 円錐曲線での総まとめ 媒介変数や極座標では、それを用いることで、複雑な曲線が容易に表せることを理解します。
	5	定期考査		
	6	「式と曲線」	教科書P52～ 二次曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 二次曲線の平行移動 5. 二次曲線と直線 6. 二次曲線の性質	
	7	定期考査	教科書P78～ 媒介変数表示と極座標 7. 曲線の媒介変数表示 8. 極座標と極方程式 9. コンピューターといろいろな曲線	
	8	夏季休業		
	9		メジアン数学演習I・II・A・B 受験編 問題演習	
	10	定期考査		
後 期	11			
	12	定期考査		
		冬季休業		
	1			
	2			
	3	卒業式		

数 学 B

数学Ⅲ履修クラスの理系必修選択

単位数	2
担当者	
教科書	改訂版 数学B (数研)

1 講座のねらい

この講座は、理系①コース(「数学Ⅲ」履修者)の必修選択科目です。この講座の目的は、「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」において、大学入試標準レベル問題が解けるようになることです。第1, 2学年に学習した教科書・スタンダード問題集の内容が土台となって、その上のレベルの問題を解くための思考力をつけます。入試問題に数多くチャレンジして反復練習することで、問題の本質を把握できるようになることがねらいです。

2 授業の内容と進め方

内容については、次ページ授業計画を参照してください。2クラスを展開して α 、 β 2つのグループに分けて授業を行います。進め方は、過去の入試問題、つまり使用問題集の Warm up と Step up を中心とした問題の解法を講義形式で行います。

1回の授業で、3題から4題のペースで学習します。

2単位の授業なので問題集すべてを終えることは難しく、この問題集の後半は数学Cの9月以降の授業の中でも取り扱います。

3 学習する上での留意点

数学の実力とは『解く方向性・道筋を、自分で作る・築く』力です。ですから、授業に臨むまでに自分の力で、問題の意味、求めなければいけないもの、与えられた条件の正しい理解を得ておくことが大切なこととなります。そのことは『まずは予習をする』ことによって初めて実現できるのです。そして、授業中に復習して、その自分でスタートさせたものを完全なものに仕上げなければ最高です。そうすることで、本物の力をつける学習が生まれるでしょう。

また、苦手に思っている分野では、定義・定理の理解を教科書、チャート式参考書を用いて復習することも大切です。

解けなかった問題やよりすぐれた別解をもう1度解き直し、優れた解法の本質を理解して、数多くの問題を解くことによって、広範な奥深い実力をつけてもらいたいものです。

4 副教材・参考書

副教材：「四訂版 メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編」(数研出版)

参考書：「チャート式数学Ⅰ+A, Ⅱ, B」(数研出版)

5 課題・補習について

補習は長期休業中に基本のどっしりとした力と入試問題の解法力を養います。

6 評価の視点・考査について

定期考査は、前期2回、後期2回です。評価は、基本的にその考査の点数で行われます。もちろん、平素の学習の状況と内容、姿勢も考慮されます。

授業計画：数学B 数学Ⅲ履修クラスの理系必修選択

期	月	単元・考査等	理系数学B授業進度
前	4	定期考査	四訂版メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編
	5		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Ⅰ 数と式</div> 1 式の計算、2 恒等式・割り算の問題、 3 方程式・不等式の解法 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Ⅱ 関数と方程式・不等式</div> 1 関数とグラフ
期	6	定期考査	5 最大・最小、6 2次方程式の理論、 7 高次方程式の解法、8 数と方程式、 9 不等式の種々の問題
	7		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Ⅲ 式と証明、論理</div> 10 式の値、等式の証明、11 不等式の証明、 12 数の理論、13 集合と論証
後	8	夏季休業 夏季講習	
	9	定期考査	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Ⅳ 個数の処理・確率</div> 14 場合の数、順列、15 組合せ(1)、 16 組合せ(2)、二項定理、17 確率(1)、 18 確率(2)、期待値
	10		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Ⅴ 平面図形</div> 19 三角形の性質、20 円の性質 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Ⅵ 図形と式</div> 21 点・直線・円、22 曲線と直線、 23 軌跡と領域、24 領域と最大・最小、 25 図形と式の種々の問題
	11		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Ⅶ 三角・指数・対数関数</div> 26 三角比と三角形、27 図形と計量 28 三角関数(1)、29 三角関数(2) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Ⅷ 三角・指数・対数関数</div> 30 指数・対数の計算、31 指数・対数の種々の問題
	12		定期考査
1	冬季休業		
	2		
	3	卒業式	

単位数	7 (数学Ⅱ:4単位、数学B:3単位)
担当者	数学Ⅱ : 数学B :
教科書	改訂版 数学Ⅱ、B (数研)

1 講座のねらい

この講座は、理系②コース（「数学Ⅲ」を履修しないコース）が受講します。「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」における大学入試問題を解けるようになることが目的です。第1、2学年で学習した教科書・スタンダード問題集の内容が土台となって、その上のレベルの問題を解くための思考力をつけます。入試問題に数多くチャレンジして幅広い考え方、奥深い考え方を学び、問題の本質を把握できるようになることがねらいです。

2 授業の内容と進め方

内容については、次ページ授業計画を参照してください。授業は、1クラス単位で行います。「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」における入試問題で基本から標準的なレベルの問題を解く方法を学びます。1回の授業で3題から4題のペースで進みます。

3 学習する上での留意点

数学の実力とは『解く方向性・道筋を、自分で作る・築く。』力です。ですから、授業に臨むまでに自分の力で、問題の意味、求めなければいけないもの、与えられた条件、の正しい理解を得ておくことが大事なこととなります。そのことは『まずは予習をする』ことによって初めて実現できるのです。そして、授業中に復習して、その自分でスタートさせたものを完全なものに仕上げなければ最高です。そうすることで、本物の力をつける学習が生まれるでしょう。また、苦手になっている分野では、定義・定理の理解を教科書、チャート式参考書を用いて復習することも大切です。

解けなかった問題やよりすぐれた別解をもう一度解き直し、優れた解法の本質を理解して、数多くの問題を解くことによって、広範な奥深い実力をつけてもらいたいものです。

4 副教材・参考書

副教材：「大学入試数学問題集Ⅰ・Ⅱ・A・B [改訂版] フレキシブル」 (旺文社)
参考書：「チャート式数学Ⅰ+A, Ⅱ, B」 (数研出版)

5 課題・補習について

上記の問題集で、毎時間消化される3～4題の入試問題を予習課題として取り組んでください。課題がない場合でも常に自主的な学習を心がけることが大切です。

6 評価の視点・考査について

定期考査は、前期2回、後期2回です。評価は、基本的にその考査の点数で行われます。もちろん、平素の学習の状況と内容、姿勢も考慮されます。

授業計画： 数学Ⅱ＋数学B 数学Ⅲを履修しないクラス理系必修選択科目

期	月	単元・考査等	数学Ⅱ 授業進度	数学B 授業進度
前期	4		数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bフレキシブル 第1章 数と式 1. 2.	数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bフレキシブル 第9章 図形と式 24. 25. 26.
	5	定期考査	第2章 2次関数 3. 4. 5. 第3章 方程式と不等式 6. 7. 8.	第10章 指数関数・対数関数 28. 29.
	6		第4章 三角比と三角関数 9. 10. 11. 12. 13. 第5章 集合と論理 14. 15. 16.	第11章 微分法と積分法 30. 31. 32. 33. 34. 第12章 数列 35. 36. 37. 38
	7	定期考査 夏季休業 夏期補習	第6章 順列と組合せ 17. 18.	第13章 ベクトル 39. 40. 41. 42
	8		第7章 確率 19. 20. 21.	
	9		数学Ⅰ・Ⅱ・A・B入試問題演習 ① 図形と式 ② 三角比・三角・指数・対数関数 ③ 微分法・積分法(数Ⅱ) ④ 数列とベクトル ⑤ 個数の処理・確率 ⑥ 関数と方程式・不等式	
	10	定期考査		
	11			
	12	定期考査 冬季休業		
後期	1			
	2			
	3	卒業式		

数学Ⅰ、Ⅱ(センター)、Ⅱ(記述) 文系自由選択

単位数	各4
担当者	数Ⅰ : 数Ⅱ(センター) : 数Ⅱ(記述) :
教科書	改訂版 数学Ⅰ、Ⅱ(数研)

1 講座のねらい

文系クラスで、大学受験科目として数学を必要とする者が、この講座の対象です。

数Ⅰ(センター)：大学入試センター試験「数学Ⅰ、数学Ⅰ・A」のマークシート型の受験対策をする講座

数Ⅱ(センター)：大学入試センター試験「数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B」のマークシート型の受験対策をする講座

数Ⅱ(記述)：国公立大学の2次試験、私立大学受験で「数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」記述型の受験対策をする講座

この講座の目的は、それぞれのレベルに応じた入試問題の本質を見抜く力をつけることです。数多くチャレンジしてさまざまな問題を解くことで、問題の本質を深く広く把握できるようになることがねらいです。

2 授業の内容と進め方

数Ⅰ(センター)、数Ⅱ(センター)、数Ⅱ(記述)ともに、内容については次ページ授業計画を参照してください。

数Ⅰ(センター)：「数学Ⅰ・A」センター対策問題を基礎から応用まで学習します。

数Ⅱ(センター)：「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B」センター対策問題を基礎から応用まで学習します。

数Ⅱ(記述)：「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B」記述式の標準的入試問題を基礎から応用まで学習します。

※ 1回の授業で、3～4題のペースで進みます。

3 学習する上での留意点

数学の実力とは『解く方向性・道筋を、自分で作る・築く。』力です。ですから、授業に臨むまでに自分の力で、問題の意味、求めなければいけないもの、与えられた条件、の正しい理解を得ておくことが大事なこととなります。そのことは『まずは予習をする』ことによって初めて実現できるのです。そして、授業中に復習して、その自分でスタートさせたものを完全なものに仕上げなければ最高です。そうすることで、本物の力をつける学習が生まれるでしょう。また、苦手に思っている分野では、定義・定理の理解を教科書、チャート式参考書を用いて復習することも大切です。

解けなかった問題やよりすぐれた別解をもう一度解き直し、優れた解法の本質を理解して、数多くの問題を解くことによって、広範な奥深い実力をつけてもらいたいものです。

4 副教材・参考書

数Ⅰ(センター)：「改訂版ニューステージ数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B受験編」(数研出版)

数Ⅱ(センター)：「改訂版ニューステージ数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B受験編」(数研出版)

数Ⅱ(記述)：「改訂版 クリアー数学演習問題集 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編」(数研出版)

5 課題・補習について

上記の問題集で、毎時間消化される問題を予習課題として取り組んでください。課題がない場合でも常に自主的な学習を心がけることが大切です。

6 評価の視点・考査について

定期考査は、前期2回、後期2回です。評価は、基本的にその考査の点数で行われます。もちろん、平素の学習の状況と内容、姿勢も考慮されます。

授業計画： 数学Ⅰ(センター)、数学Ⅱ(センター)、数学Ⅱ(記述) 文系自由選択

期	月	単元・考査等	数Ⅰ(センター)授業進度	数Ⅱ(センター)授業進度	数Ⅱ(記述)授業進度	
前 期	4	定期考査	ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B 1. 式の計算(1)～ 4.2 次関数～	ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B 1. 式の計算(1)～ 4.2 次関数～ 8. 三角比の基本～ 13. 場合の数・順列～ 16. 確率～ 18. 命題と論証～	メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編 図形と式 21～25 三角・指数・対数関数 26～31	
	5		8. 三角比の基本～	16. 確率～ 18. 命題と論証～	26～31	
	6		13. 場合の数・順列～ 16. 確率～	21. 多項式の除法、分数式～ 26. 点・直線・円 27. 三角関数(1)～	微分法・積分法 32～39 ベクトル 40～44 数列 45～48	
	7		定期考査	18. 命題と論証～		
	8		夏季休業 夏期補習			数と式 1～3 関数と方程式・不等式 4～9
	9		センター試験分野別対策数学のⅠ・A	33. 導関数と接線～ 37. 不定積分・定積分～	式と証明, 論理 10～13 項数の処理・確率 14～18	
	10	定期考査	センター試験直前演習Ⅰ・A	センター数学Ⅰ・A、Ⅱ・B直前演習	平面図形 19, 20 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B入試直前演習	
	11				① 図形と式 ② 三角・指数・対数関数 ③ 微分法・積分法(数Ⅱ) ④ 数列とベクトル	
	12	定期考査 冬季休業	センター数学Ⅰ・A 予想問題演習	センター数学Ⅰ・A、Ⅱ・B 予想問題演習	⑤ 個数の処理・確率 ⑥ 関数と方程式・不等式	
後 期	1					
	2					
	3	卒業式				

5 理 科

物理Ⅱ 理系

単位数	4
担当者	
教科書	高等学校物理Ⅱ改訂版（啓林館）

1 講座のねらい

物理は自然科学を学ぶ上での基礎になる学問です。将来、理工系の大学進学を目指す生徒を対象にしています。第2学年の物理Ⅰで扱えなかった内容も含めて、力学から電磁気、原子とより高度な物理現象について学習します。

2 授業の内容と進め方

前期は、①力学の復習 ②円運動 ③万有引力 ④単振動 ⑤熱力学 ⑥電場と電位までを扱います。まず、第2学年で学習した力学全般の復習をしてから円運動、万有引力、単振動、熱力学を学習します。電磁気は、電場と電位まで学びます。

後期は、①コンデンサー ②電流回路 ③電流と磁場 ④電磁誘導と電磁波 ⑤半導体です。電流が磁場から受ける力やファラデーの電磁誘導の法則を学習し、その応用である交流や電磁波、半導体までを扱います。

3 学習する上での留意点

第3学年の授業は生徒実験よりも演示実験が多く、授業のスピードも速くなりますので、復習が重要です！基本事項・ポイントをその日のうちに確認し、問題を根底から理解するまで繰り返し解きましょう。ノートをきちんと用意し、授業プリントも貼るなり綴じるなりきちんと管理してください。

問題集の Step1（基礎理解）、例題、Step2（標準問題）を授業の進度に合わせてやってください。発展例題・発展問題までやると、この問題集2冊で受験に対応できる実力を養えます。

4 副教材・参考書

「センサー物理Ⅰ」「センサー物理Ⅱ」（啓林館）

5 課題・補習について

実験後は必ずレポートを提出してください。また、問題集のレポートを提出してもらうので、専用のファイルを用意してください。

夏休みには、力学、熱力学、波動の復習と応用力養成のための講習を行います。

6 評価の視点・考查について

評価は考查点と平常点を組み合わせて総合的に行います。考查は定期考查の他にも実施する予定です。平常点は実験レポート、問題集のノート、授業態度等を点数化して算出します。

授業計画：物理Ⅱ 理系

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	力学の総復習 運動量	運動方程式 力学的エネルギー 力積と運動量	1・2学年の力学の総復習をして、基礎力の確認と応用力を養成する。 ・力積と運動量について理解する
	5	円運動と万有引力 定期考査	円運動 慣性力と遠心力 万有引力	・向心力が導けるようにする。 ・座標系について理解する。 ・円運動との関係を理解する。
	6	熱と物質の状態 定期考査	単振動 気体分子の運動	・復元力、周期の求め方を理解する。 ・ボイル・シャルルの法則を理解する。 ・気体の分子運動論を理解する。
	7	電場 定期考査	電場・電位	・電場の意味を理解する。 ・電場を電気力線や電位から考える。
	8	夏季休業		
	9	電流	コンデンサー 直流回路	・電気容量を理解する。 ・電圧降下・内部抵抗・キルヒホッフの法則等を使えるようにする。
後 期	10	電流と磁場 電磁誘導 定期考査	電流がつくる磁場 電流が磁場から受ける力 電磁誘導の法則	・電流がつくる磁場を学ぶ。 ・電流が磁場から受ける力を理解する。 ・誘導起電力を求める。
	11	交流と電磁波 定期考査	交流と交流回路	・荷電粒子の運動を考える。 ・交流の発生原理を理解し、直流と交流の違いを知る。
	12	電磁波 半導体 冬季休業	電磁波 半導体	・電磁波の伝わり方を理解する。 ・固体の性質と電子について学ぶ。
	1		センター対策演習 私立・国立 2次対策演習	・入試問題を題材にして実践的な実力を養成する。
	2			
	3	卒業式		

物理 I【演習】

理系自由選択

単位数	2
担当者	
教科書	高等学校物理 I、II 改訂版 (啓林館)

1 講座のねらい

第1学年での理科総合Aの物理分野、第2学年での物理Iで学習した内容、および第3学年で学習する内容の問題演習を通して、センター試験や国公立2次・私大受験に対応できる学力の養成を目指します。

2 授業の内容と進め方

[前期] 第1, 2学年で学んだ力学や波の復習をし、基本からやや高度な問題までを含めた演習を行います。物理IIで学習した内容の演習も適宜取り入れていきます。

[後期] 円運動、電流、電磁気など第3学年で学習した内容の演習を授業と平行しながらやっています。また、「チェック&演習 物理I」問題集の中から定期的に課題を出します。

3 学習する上での留意点

物理を理解するためには力学の知識をしっかりと身につける必要があります。運動方程式、運動量保存、力学的エネルギー保存が力学の3本柱です。4月から5月はこの内容を授業で扱いますので頑張ってください。ここが勝負です。

物理の実力を養成するには演習問題をできるだけ自力で解くことです。「センサー物理I」「センサー物理II」の問題集を積極的に活用してください。例年、問題集に地道に取り組んだ生徒が後半に学力を大きく伸ばしています。定期的に問題集の課題を提出してもらいます。努力の結果は自分に返ってきますので、しっかり取り組んでください。

4 副教材・参考書

「センサー物理I」「センサー物理II」(啓林館)

「チェック&演習 物理I」(数研出版)

5 課題・補習について

夏休みには基礎力確認と応用力養成のための補習を予定しています。

6 評価の視点・考査について

授業中に適宜行う小テスト、問題集の課題提出の内容と平常点を組み合わせて総合的に判定します。

授業計画：物理 I 【演習】 理系自由選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4	力学	力 運動方程式 剛体の力学	<ul style="list-style-type: none"> 物体にはたらく力を正確に見つける。 いろいろな力が働くとき、力のつり合い、物体の運動の考え方を理解する。
	5	定期考査	力学的エネルギーの保存 運動量の保存	<ul style="list-style-type: none"> 演習問題を通して保存量としての力学的エネルギーや運動量についての理解を深める。
	6	熱力学	円運動・単振動 万有引力・重力 ボイル・シャルルの法則	<ul style="list-style-type: none"> 円運動・単振動の理解を深める。 万有引力と重力の関連を理解する。 理想気体の性質を理解する。
期	7	定期考査	気体の分子運動論 熱力学の第1法則 熱機関	<ul style="list-style-type: none"> 気体の分子運動の理論を理解する。 気体のサイクル、熱機関に対する理解を深める。
	8	夏季休業		
後	9	電気	電場と電位 コンデンサー	<ul style="list-style-type: none"> 電場と電位の違いを理解する。 コンデンサー回路でスイッチの開閉問題を電気量の保存から考える。
	10	電磁気	電流 電流と磁場	<ul style="list-style-type: none"> 直流回路について理解を深める。 電流が作る磁場について理解する。 ローレンツ力を理解する。
	11	定期考査	電磁誘導	<ul style="list-style-type: none"> 電磁誘導の法則を様々な問題で使いこなせるようにする。
期	12	定期考査	交流	<ul style="list-style-type: none"> 交流の発生、交流回路についての理解を深める
		冬季休業	固体の性質と電子	<ul style="list-style-type: none"> 半導体について理解する。
	1		センター対策演習 私立・国公立 2次対策演習	<ul style="list-style-type: none"> 入試問題を題材にして実践的実力を養成する。
	2			
	3	卒業式		

単位数	4
担当者	野田 徹 三島 慶睦
教科書	改訂版 高等学校化学Ⅱ(数研出版)

1 講座のねらい

- ① 物質、自然や環境を、科学的に考えることができる思考力を養います。
- ② 物質の性質、変化を化学的側面から数理的、論理的にとらえ、現代社会における化学の役割を理解できる能力を伸ばします。
- ③ 大学入試に対応できる学力を身に付け、実践力を養います。

2 授業の内容と進め方

授業では実習実験と講義をバランス良く行います。結合、状態、平衡の学習では計算問題も多く、正確な計算力が必要となります。また有機化合物や高分子化合物、生命化学では、知識として記憶する内容が多くなります。

後期には、12月考査前までにすべての範囲を履修できるような進度で進みます。

3 学習する上での留意点

「化学Ⅰ」の内容に関しては、有機化合物から高分子化合物への流れの中で、基本事項の整理を行います。あまり時間的な余裕はありませんので、自らすすんで学習していこうとする意欲が大切です。化学も他の理系科目と同様、基本的な事項を完全に理解しておくことが最も重要であり、入試レベルの問題だけにとらわれることなく、簡単な内容でも確実に理解し、ある程度時間をかけて勉強することが最善の学習方法です。

4 副教材・参考書

副教材としては、「セミナー化学Ⅰ+Ⅱ」(第一学習社)を使用します。

5 課題・補習について

第2学年3学期2月より、「化学Ⅰ」の関連事項の問題練習プリントを、化学選択予定者に配布する予定です。夏季休業中には、希望者に対して補習を実施する予定です。

6 評価の視点・考査について

毎回の授業や実験を通じて知識の定着・確認をはかっていきます。
定期考査及び実験のレポート内容等を評価の対象とします。

授業計画：化学Ⅱ 理系

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	有機化合物 高分子化合物	有機化合物 高分子化合物	有機化合物の復習 高分子化合物とは 分類と成り立ち
	5	高分子化合物 定期考査	天然高分子化合物 糖 タンパク質	単糖類、二糖類、多糖類 アミノ酸とタンパク質
	6	高分子化合物	合成高分子化合物 プラスチック	天然繊維、再生繊維 半合成繊維、合成繊維 合成樹脂、ゴム
	7	化学結合 定期考査	共有結合 イオン結合 金属結合	原子間の結合 結晶格子
	8	夏季休業		
	9	化学結合 気体の法則	配位結合、錯イオン 水素結合 ボイルシャルル	配位結合と錯イオン 水素結合と見かけの分子量 気体の特性
後 期	10	溶液の性質 定期考査	凝固点降下、沸点上昇 浸透圧	溶液に見られる現象
	11	反応速度と平衡	化学反応の早さ 活性化エネルギー 触媒	反応速度と条件 速度と活性化エネルギーの関係 触媒と活性化エネルギーの変化
	12	反応速度と平衡 定期考査 冬季休業	化学平衡 平衡の移動 ルシャトリエの原理	速度と平衡の関係 平衡と各種条件 化学平衡の移動 問題演習
	1	特別編成授業		
	2			
	3	卒業式		

化学 I 【演習】

理系自由選択

単位数	2
担当者	野田 徹 三島 慶睦
教科書	改訂版 高等学校 化学 I (数研出版)

1 講座のねらい

- ① 大学入試問題に対応できる実践力をつけさせます。
- ② 「化学 I」と「化学 II」の内容を総合的に理解し、物質を科学的に考える能力の発展をめざします。

2 授業の内容と進め方

「化学 II」の進度、学習状況と関連づけながら、第 2 学年の化学 I の学習事項の演習を中心にを行います。特に化学反応式や物質量（モル）の計算の徹底理解と無機・有機化合物に関する知識の確認をします。

3 学習する上での留意点

「化学 II」の内容を確実に理解するうえで、「化学 I」の原子の構造、モルの概念、反応式の量的関係、無機化合物、有機化合物の性質は必要です。これらの内容を問題演習を中心に授業をすすめます。復習が中心となるので、学習内容を繰り返し確認し、知識の定着をはかることが望ましいと考えます。また計算力を養うことも大切です。

4 副教材・参考書

副教材としては、「セミナー化学 I + II」（第一学習社）
「フォローアップドリル」（数研出版）の物質量・化学反応式編、熱化学・酸塩基・酸化還元編
夏休み以降にセンター形式の実戦問題集を使用します。

5 課題・補習について

「化学 II」（4 単位）に準じます。

6 評価の視点・考査について

授業での演習および定期考査等の結果を中心に行います。

授業計画：化学 I 【演習】 理系自由選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	物質の構成	物質の基本構成 物質と化学反応式	元素・原子・分子・イオンの概念を確認 物質に関連した計算の復習 反応式の作成と量的関係の復習
	5	物質の変化 定期考査	化学反応と熱	熱化学方程式の計算練習とヘスの法則の理解
	6	物質の変化	酸と塩基 酸化還元反応	pH・塩・中和反応の復習 酸化還元の定義と酸化数の計算
	7	定期考査	電池と電気分解	電池・電気分解と酸化還元反応の理解
	8	夏季休業		
	9	無機物質 有機物質	周期表と元素の性質	非金属・金属の性質の確認
	10	有機物質 定期考査	有機化合物の特徴構造 高分子化合物	炭化水素や芳香族化合物の性質の復習 化学Ⅱの合成樹脂や食品、衣料、生命の化学と関連づけ
	11	総合問題		大学入試過去問
	12	定期考査 冬季休業		大学入試過去問
後 期	1	特別編成授業		
	2			
	3	卒業式		

化学 I【センター】

文理共通自由選択

単位数	2
担当者	野田 徹 三島 慶睦
教科書	改訂版 高等学校 化学 I (数研出版)

1 講座のねらい

この講座は、センター試験化学受験の生徒で、「化学Ⅱ」4単位を選択しなかった生徒を対象とします。センター試験対応できる実力を養成するのがねらいです。

2 授業の内容と進め方

基本的内容を確認する講義と問題演習中心がです。内容は、前期が物質の構成と物質の変化、後期は無機・有機化学を中心に学習します。

学習内容は、1年間で化学 I の基本的内容をカバーし、センターレベルの事項の学習と演習を中心とします。

終盤には、センター形式の実践演習を行います。

3 学習する上での留意点

2単位の授業時間でセンター試験に対応できる力を定着させるには、基本事項の整理や計算問題のポイントなどの復習が必要です。センター試験は教科書の内容を中心とした問題が多く、そのため基礎をしっかりと固めておく必要があります。「ある程度わかる。」や「だいたい理解している。」といったあやふやな状態ではなく、内容を正確に把握し、論理的に判断した上で、正解にたどりつける能力を身に付けることが大切です。そのためには、授業で学習した内容を、その日のうちに教科書や参考書等で確認し、関連事項をまとめ、類題を解く学習を心がけると良いでしょう。

4 副教材・参考書

副教材としては「ビーライン化学 I」(第一学習社)

「フォローアップドリル」(数研出版)の物質・化学反応式編、熱化学・酸塩基・酸化還元編

夏休み以降にセンター形式の実戦問題集を使用します。

5 課題・補習について

夏季休業中および後期期間中に、希望者に対して補習を実施します。

6 評価の視点・考査について

授業での課題進行具合、演習および定期考査等の結果を中心に行います。

授業計画：化学Ⅰ【センター】 文理共通自由選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	物質の構成	物質の基本構成 物質と化学反応式	元素・原子・分子・イオンの概念を確認 物質に関連した計算の復習 反応式の作成と量的関係の復習
	5	物質の変化 定期考査	化学反応と熱	熱化学方程式の計算練習とヘスの法則の理解
	6	物質の変化	酸と塩基 酸化還元反応	pH・塩・中和反応の復習 酸化還元の定義と酸化数の計算
	7	定期考査	電池と電気分解	電池、電気分解と酸化還元反応の理解
	8	夏季休業		
	9	無機物質 有機物質	無機物質の性質	非金属・金属の性質の確認
	10	有機物質 定期考査	有機化合物の性質	炭化水素や芳香族化合物の性質の復習
	11	総合問題		センター過去問・センター実戦問題
	12	定期考査 冬季休業		センター過去問・センター実戦問題
後 期	1	特別編成授業		
	2			
	3	卒業式		

単位数	4
担当者	山田 茂博 辻村 保弘
教科書	改訂版 高等学校生物Ⅱ (数研出版)

1 講座のねらい

生物や生物現象についての観察・実験や課題研究などを行い、1, 2 学年で身につけた知識と能力を元にして、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解をさらに深めることがねらいです。原則として第2 学年の時に選択・履修した生徒が第3 学年で生物を選択することができます。

2 授業の内容と進め方

以下は予定ですので、変更されることがあります。

第1編 生命現象と物質 「生物体の機能とタンパク質」「遺伝情報とその発現」

生物体を構成し、生命活動を支えている主要な物質であるタンパク質について、その性質と生物現象との関わりについて学びます。タンパク質の機能の中の「生体防御」は人間の病気と深く関わる内容なので、将来、看護医療系を希望している人にとって不可欠な内容です。

遺伝子の本体である DNA は、その遺伝情報に基づいてタンパク質合成を支配し、それぞれの生物に特有な形質を発現します。生物の形質発現が、どのようなしくみで行われるのかについて学びます。

第2編 生物の進化と分類 「生物の起源と進化」「生物の多様性と系統」

生物界は、約 40 億年前の生命誕生以来どのように移り変わったのか。また、生物の進化のしくみはどのように考えられているのかについて学びます。

地球上の様々な環境に適応して生活している多種多様な生物には、どのような類縁関係や系統が見られるのかについて学びます。

第3編 生物の集団 「個体群」「生物群集と生態系」

自然界の生物は、それぞれの地域で集団をつくり、周囲との関わりを持ちながら生活しています。また、生物は、同種や異種の個体群が集団をつくり、互いに深い関わりを持って生活しています。生物と環境との関わり合いはどのようになっているのかについて学びます。

生物の集団は、生物のどうしの働きあいや環境の影響によってたえず変動しています。また、まわりのいろいろな非生物的環境とも働き合いながら、全体として1つのまとまった生態系を作っています。生態系はどのように働き、平衡を保っているのかについて学びます。

3 学習する上での留意点

基本的なことは1, 2 学年のときと同じです。

生物は、実物を体験することが必要不可欠です。特に生物系への進学を希望している人は野外実習・校外施設見学などに積極的に参加して、生物体験を増やすように心がけてください。大学などの高校生向け実習などにも、積極的に参加して、学校内ではできない経験をしてほしいです。

生物は暗記科目であると誤解をしている人もいますが、大学入試問題は、与えられたデータや情報から考えて答える考察問題がほとんどで、記憶を問う問題は多くありません。答えが与えられるのを待つのではなく、自らの頭で考えていく習慣を普段から訓練することが大切です。

4 副教材・参考書

第1, 2 学年で使用した図説「スクエア最新図説生物 (第一学習社)」を使用します。問題集は第1, 2 学年で使用したものに加えて「ニューグローバル生物Ⅰ+Ⅱ (東京書籍)」を使用します。市販の問題集・参考書も受験のための学習にはかなり役立ちますが、まず教科書の内容をよく読み理解してください。問題集は早めに入試全範囲を終え、繰り返しやり、自分のものにすることが大切です。

5 課題・補習について

夏季休業中等に希望者を対象に補習を行う予定です。

6 評価の視点・考査について

評価は、定期試験を中心に、課題の成績(レポート等)を考慮して行います。試験は年4回、各100点で実施予定です。

授業計画：生物Ⅱ 理系

以下は予定ですので、変更されることがあります。

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	1. 生物体の機能とタンパク質	①生体のタンパク質 ②生体内の化学反応と酵素	発展 ・感染症タンパクープリオン
	5	定期考査	③異化・同化 ④タンパク質の機能・免疫	・好気呼吸と嫌気呼吸の調節 ・脂肪、タンパクの分解
	6	2. 遺伝情報とその発現	①遺伝子の実体② DNA 複製 ③遺伝情報と形質の発現 ④形質発現の調節と形態形成	発展 ・ホメオチック遺伝子 ・ゲノム計画・PCR法
	7	定期考査	⑤バイオテクノロジー	・遺伝子組み換え ・遺伝子情報の利用 ・ES細胞 ・クローン
	8	夏季休業		
後 期	9	3. 生物の起源と進化	①生命の起源 ②生物の変遷 ③進化の証拠 ④進化のしくみ	発展 ・恐竜絶滅・バージェス動物 ・分子系統樹 ・集団遺伝学
	10	4. 生物の多様性と系統 定期考査	①生物の多様性と分類 ②生物分類の体系	発展 ・rRNAによる系統
	11	5. 個体群	①個体群とその成長 ②個体群内の個体間の関係 ③異種個体群間の関係 ④植物の物質生産と生活	発展 ・社会性の進化 ・熱帯多雨林の多様性
	12	定期考査 4. 生物群集と生態系 冬季休業	①生物群集 ②遷移と分布 ③生態系 ④生態系平衡と保全	発展 ・深海 ・外来生物の影響 ・地球温暖化
	1	総合演習	*看護受験対策 *センター試験対策 *私立大学対策 *国公立二次対策	
	2			
	3	卒業式		

生物 I 【演習】

文理共通自由選択

単位数	2
担当者	
教科書	改訂版高等学校生物 I (数研出版)

1 講座のねらい

この講座は、センター試験生物受験の文系の人と、理科 2 科目受験で、必修選択の化学か物理を選択した人を対象としています。センター試験に対応できる実力を養成するのがねらい。

2 授業の内容と進め方

< 講義 > 第 1, 2 学年で学習した項目を復習しつつ、実験考察に関する内容を重点的に取り扱います。

< 問題演習 > 問題集やセンター試験過去問題等を使って生物 I の内容の定着を図ります。

3 学習する上での留意点

生物選択者は、計算問題に弱い傾向にあります。入試では計算が必要な問題も数多く出題されているので、意識して計算問題の練習に取り組んでほしいです。また、生物は暗記科目という印象を持つ人がいますが、ここ数年のセンター試験の問題ではデータや情報から考察させる問題が大きな割合を占めています。普段から、すじみちを考えながら問題を解く習慣をつけてください。

4 副教材・参考書

問題集「センサー 新編 生物 I」(啓林館)

図説「スクエア最新図説生物」(第一学習社)

5 課題・補習について

夏季休業中等に希望者を対象に補習を行う予定です。

6 評価の視点・考査について

評価は定期試験(年 4 回実施)を中心に行います。

授業計画：生物 I【演習】 文理共通自由選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	細胞と個体の成り立ち	<講義と問題演習> ①細胞の働きと構造 ②細胞の増殖 ③動物の生殖と発生 ④植物の生殖と発生 ⑤遺伝の法則 ⑥遺伝子の本体 ⑦内部環境と恒常性の維持 ⑧刺激の受容と行動 ⑨植物の生活と環境 ⑩植物の反応と調節 総合演習	細胞膜に関連した半透性、浸透圧等の概念の理解 体細胞分裂に関連した思考学習 細胞周期に関連した実験考察
	5	生殖と発生 定期考査		減数分裂の際の染色体の動き・核相変化・DNA量変化の理解 陥入、神経管形成等の現象の理解 誘導に関する思考学習
	6			植物の配偶子形成と重複受精
	7	遺伝 定期考査		メンデルの法則の理解 連鎖と組換えの理解
	8	夏季休業		
	9			センター遺伝 過去問の解法
後 期	10	刺激の受容と反応 内部環境の恒常性 定期考査	自律神経、ホルモン、生体防御 体液の恒常性、体液の組成と循環 興奮の伝導と伝達に関する実験考察	
	11	植物の反応と調節 定期考査	植物の成長、花芽形成－実験の理解 光の強さと光合成 光－光合成曲線に関する考察問題	
	12	冬季休業	センター試験実戦形式演習	
	1		センター試験実戦形式演習	
	2			
	3	卒業式		

生物 I 【演習】

理系の必修生物選択者対象 自由選択

単位数	2
担当者	山田 茂博 辻村 保弘
教科書	改訂版 高等学校 生物 I (数研出版)

1 講座のねらい

この講座の選択者は、主に、理学部生物系、水産学部、農学部、獣医学部、看護医療系、栄養系などへの進学希望者です。基本問題、応用問題、センター入試レベルの問題、大学入試の過去問題などの問題演習を行い、生物の入試問題を解く実力を養成するのがねらいです。

2 授業の内容と進め方

前期…主に「生物 I」の問題演習を行います。

後期…主に「生物 II」の問題演習を行います。

3 学習する上での留意点

生物選択者は、計算問題に弱い傾向にありますが、入試では計算が必要な問題も数多く出題されており、個人的にも意識して計算問題の練習に取り組んでほしいです。また、記述式の問題を面倒くさがって解かない人もいますが、字数内で記述するには、練習が必要です。これも積極的にこなしてほしいです。さらに、小論文対策などのために、新聞記事や科学雑誌に掲載されている自然科学に関する時事問題にも、注目する習慣をつけてください。

4 副教材・参考書

問題集「ニューグローバル生物 I + II」(東京書籍)「センサー 新編 生物 I」
図説「スクエア最新図説生物」(第一学習社)

5 課題・補習について

夏季休業中等に希望者を対象に補習を行う予定です。

6 評価の視点・考査について

評価は定期試験を中心に行います。試験は年 4 回実施予定。

授業計画：生物 I 【演習】 理系の必修生物選択者対象 自由選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	生命の連続性	細胞と個体の成り立ち	*次に重点を置いて演習します 半透性、浸透圧の計算 体細胞分裂の過程とDNA量
	5	定期考査	生殖と発生	減数分裂の過程とDNA量 配偶子形成の特徴 動物発生の過程、誘導・形成体
	6		遺伝	各種遺伝の計算 組換えに関する計算 染色体地図（3点交雑）
	7	生物の生活と環境 定期考査	刺激の受容と反応	興奮の発生と伝導・伝達メカニズム、 伝導速度の計算
	8	夏季休業		
	9		内部環境の恒常性 植物の反応と調節	血糖量調節のしくみ、植物の成長 花芽形成に関する実験考察 光合成速度と環境条件
後 期	10	生命現象と物質 定期考査	生物体の機能とタンパク質	タンパク質の構造 酵素の反応速度と条件
	11			同化・異化の反応過程と量的計算 免疫の実験考察
	12	生物の集団 定期考査 冬季休業	遺伝情報とその発現 個体群 生物群集と生態系	DNAに関する計算、タンパク合成 成長曲線、生存曲線、相互作用 遷移、群系の分布図、物質収支 物質の循環
	1	生物の進化と分類	生物の起源と進化 生物の多様性と系統	進化論（進化説） ダーウィンフィンチー進化の証拠 ハーディワインバルクの法則、系統の解析
	2			
	3	卒業式		

6 芸術

美術Ⅱ (自由選択)

単位数	2
担当者	仲間 孝樹
教科書	美術2 (光村図書)

1 講座のねらい

制作(表現)を通して絵画・彫刻の理解を深め、表現する喜びを体験する事を目的とします。

2 授業の内容と進め方

第1学年で学習した表現方法を掘り下げ、他にテラコッタによる表現を加えたカリキュラム。また、各自のテーマに沿った表現方法を選び年間を通して自由に制作します。

3 学習する上での留意点

人生の中で美術を実際に制作(表現)することは、ほとんどの皆さんがこの一年間で終わりになります。授業を貴重な体験の時間と考えてください。時間がある限りは「もう少し先、もう少し深い所へ」と導きます。

4 副教材・参考書

ありません。

5 課題・補習について

授業がすべてです。

6 評価の視点・考査について

考査はありません。

平常点(よく手が動いているか)と作品の独創性(深く考え、楽しんでいるか)、質(丁寧か)を加えて評価します。

授業計画：美術Ⅱ（自由選択）

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4	木炭デッサン	木炭紙 木炭練り消し	より深い空間表現の理解
	5	指輪	銀材料	指輪の美しいフォルムを見つけ出す。 ロストワックス法・打ち延べ、ろう付け技法の習得。
	6			
期	7	テラコッタ テーマ別制作	テラコッタ用粘土 テーマ別教材	彫刻表現による造形 「張り」のある形を造る。 テラコッタ技法の習得。
	8	夏季休業		テーマ別表現の追求。
	9			
後	10	油絵 テーマ別制作	油絵の具 キャンバス テーマ別教材	自由なテーマで表現する。 油絵の質感をつかむ。 テーマ別表現の追求。
	11			
	12	冬季休業		
期	1			
	2			
	3	卒業式		

7 外国語

リーディング【英R】

文理共通必修

単位数	2 / 4
担当者	
教科書	MAINSTREAM Reading Course

1 講座のねらい

第2学年で学習した英語Ⅱの基礎の上に、「リーディング」を履修します。リーディングは、主に英文の読解力の養成を目標にしています。英文を読むには、速読・精読・拾い読み等様々な読み方があります。これらの各種技能（リーディング・スキルズ）にも注意を払いながら、最終的には「直読直解力」を身に付けるようにします。なお、英文の背後にある英米文化についても触れ、文章の背後にある知識の理解を深めるようにします。

2 授業の内容と進め方

語彙(単語)は、「英語Ⅱ」の土台の上に更に、400～500語増えるため、1頁中の新出単語数が英語Ⅱに比べて多くなります。また、英文は修飾語句が長くなり複雑になるため、修飾語句を整理して、文構造を素早く把握して読む必要があります。自主的に家庭学習を通して予習、復習をしていく必要があります。また、音読活動は、授業では十分にできませんので、家庭学習で音読をすることを習慣にしてください。

3 学習する上での留意点

- ①第2学年までと同様に、授業前には予習をしっかりとしておくことが大前提です。まずは辞書なしで読み進め、わからない単語の意味を推測しながら内容をおおまかにとらえます。次にわからなかった単語の意味を辞書で確認しながら、各文の意味を考えてくることで読解力が養われます。授業は自分の解釈が合っていたのかを確認する時間ととらえてください。
- ②授業では単語の発音、意味、派生語、構文、内容把握、指示語の内容等様々な観点から説明がされます。集中して聞き、できるだけたくさんをその場で理解することが大切です。教科書の英文を用意し、そこに書き入れながら理解を進めると復習の時にも役に立ちます。
- ③復習では、授業中に理解した内容を確認し、繰り返し音読します。また、扱われた単語・熟語は必ず覚えるようにします。

4 副教材・参考書

「MAINSTREAM Reading Course Workbook」増進堂

5 課題・補習について

課題・宿題は平常の授業時に適宜課されますが、Workbookを使って自主的に家庭学習を進めていくようにしてください。補習は、大学受験対策を中心に、主として夏季休業中に実施します。

6 評価の視点・考查について

- ①定期考查は50点満点で、サイドリーダーと合算して100点満点となります。
 - ②課題の提出状況や小テストも評価の対象とします。
- 以上①②及び授業態度などを総合的にみて、サイドリーダーと統合し「リーディング」の評価とします。

授業計画：リーディング【英R】 文理共通必修

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	Lesson 1	センターリスニング Part 1、第1問～第3問 A	米国の87歳の女性が大学で学びながら周りの人たちにどのように影響を与えていったかを理解する。
	5	Lesson 2 定期考査	センターリスニング Part 1 第3問B～第4 問B	大人であることの長所、子供であることの長所などを筆者がどのような述べているか理解する。
	6	Lesson 3	センターリスニング Part 2、第1回～3回	全米をパニックに陥れたラジオ放送について読み、状況を理解する。 坂本達さんの「自転車世界一周」の夢について読み、理解する。
	7	Lesson 4 定期考査 Lesson 5	センターリスニング Part 2、第4回～6回	女性と男性では物事の考え方が異なる傾向にあるようです。その違いはどこから生じるのか読み、理解する。
	8	夏季休業		
	9	Lesson 6	センターリスニング Part 2、第7回～9回	接続語句に注目し、記憶に関する実験の目的・手順・結果を整理しながら読み、理解する。
	10	Lesson 7 定期考査	センターリスニング Part 2、第10回～12回	沖縄の人の寿命が長く、健康である秘密とは何なのか読み、理解する。
	11	Lesson 8 Lesson 9	センターリスニング Part 2、第13回～15回	建築家・安藤忠雄さんの建築哲学とは何かを読み、理解する。 死刑制度に関して意見の根拠を読み取る。
	12	Lesson 10 定期考査 冬季休業	センターリスニング Part 2、第16回～18回	キング牧師の活動と彼の有名なスピーチに関して読み、理解する。
後 期	1	Lesson 11	センターリスニング Part 2、第19回～20回	1917年にドイツ俘虜たちが日本でなした活動について読み、理解する。
	2	Lesson 12	センターリスニング Part 2、第21回～24回	英国公営放送BBCのジャーナリストのレポートを読み、理解する。
	3			

リーディング【英SR】

文理共通必修

単位数	2 / 4
担当者	
教科書	MAINSTREAM Reading Course

1 講座のねらい

第2学年で学習した英語Ⅱの基礎の上に、「リーディング」（英文の読解力）を養成することが本講座の目標です。本講座では、「リーディング」の教科書の内容を発展させて、「リーディング」の中でも主に速読の技能の修得に中心をおいて授業を進めます。そして、「直読直解力」を身に付けさせるように指導します。大学受験を意識して、過去の入試問題など、素速く要旨を読む取る技能の育成に力点をおいて指導します。

2 授業の内容と進め方

右の授業計画の通り、教科書を最初の課から読んでいきますので、最低限、予習として、知らない単語を調べ、大まかな内容の把握をし、設問に自分なりの答えを考えてくることが大前提です。入試問題に慣れることを主眼とします。

3 学習する上での留意点

- ①英語の語彙（単語）は、4000語レベルを越えるため、1頁中の新出単語数が「英語Ⅱ」に比べてかなり多いのです。従って、各自、単語整理のためのノートや単語帳を作り、積極的に新出語彙の記憶に努めることが必要です。
- ②英文は修飾語句が長くなり複雑になります。よって、修飾語句を整理して、主語・動詞・目的語・補語といった文構造を素早く把握して読む必要があります。修飾語句の整理の仕方、文の構造についての知識等は、副教材で計画的に学習することが望まれます。

4 副教材・参考書

- 「センター英語読解トレーニング」エミル出版
- 「Skill Builder 入試基本編」数研出版
- 「improve Your English in Reading」数研出版

5 課題・補習について

課題・宿題は平常の授業時に適宜課されます。また、補習は、大学受験対策を中心に、主として夏期休業中に実施します。

6 評価の視点・考査について

- ①定期考査：リーディングと合算して100点満点とし、「リーディング」として評価を出します。
- ②小テストを適宜行います。

授業計画：リーディング【英SR】文理共通必修

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4 5	Skill Builder 1～4 定期考査	センター英語読解トレーニング 1～2	速読、精読
	6	Skill Builder 5～9	センター英語読解トレーニング 3～5	速読、精読
	7	定期考査 Skill Builder 10～14	センター英語読解トレーニング 6～8	速読、精読
期	8	夏季休業	【夏季休業課題】 Skill Builder 15～20	速読、精読 文明・歴史、科学、現代社会、
	9	Improve Your English in Reading 1～5	センター英語読解トレーニング 9～11	エッセイ、フィクション、文化
後	10	定期考査		
	11	Improve Your English in Reading 6～10	センター英語読解トレーニング 12～14	現代社会、言語・コミュニケーション、教育・家庭
	12	定期考査 冬季休業	【冬季休業課題】 Improve Your English in Reading 11～15	言語・コミュニケーション、教育・家庭
	1	Improve Your English in Reading 16～20	センター英語読解トレーニング 15～17	文明・歴史、科学、現代社会
期	2	Improve Your English in Reading 21～23	センター英語読解トレーニング 18～20	伝記、テクノロジー
	3	卒業式		

ライティング【英W】

文理共通必修

単位数	2
担当者	
教科書	PRACTICAL ENGLISH WRITING

1 講座のねらい

第2学年で学んだ英文法の知識を更に深めるとともに、英語での作文力をつけます。自分の伝えたい内容を比較的短い文で表現できる力を身につけます。文法の知識を復習しつつ基礎固めをし、英語での表現力を磨きます。

2 授業の内容と進め方

基本的な文法の知識を確認し、定着させ、その知識を活かして作文力をつけます。短い文を書く練習を数多く行います。各課の左側のページで基本構文を確認し、右側のページで問題演習をします。左側のページの例文は何回も音読して暗記すること。「パターン・ビルダー 100 総合英語演習」(前・後期)と「Next Stage 実力養成トレーニング」(後期)と並行して進めます。

3 学習する上での留意点

第2学年で積みあげた文法的知識を基礎とし、さらに表現力を磨くために、既習事項の復習と発展的学習を繰り返して行ないます。副教材「Next Stage」や「チャート式新総合英語」を何度も参照し、覚えるという態度で臨むこと。また、予習・復習を通して、例文を覚え、手で書きながら、文法の知識を確実に身につけることが大切です。副教材「Next Stage」は、定期考査や授業時の小テストでも出題されるので計画的に学習を進めていくこと。

4 副教材・参考書

「チャート式新総合英語」数研出版
「パターン・ビルダー英語構文 100」美誠社
「パターン・ビルダー 100 総合英語演習」美誠社
「Next Stage 英文法・語法問題」桐原書店
「Next Stage 実力養成トレーニング」桐原書店

5 課題・補習について

副教材「Next Stage」について、定期的に課題を出し、小テストを行ないます。文法の基礎・基本を定着するためには、繰り返し問題を解き、知識の再確認を図ることが重要です。課題は必ず提出すること。

6 評価の視点・考査について

- ①定期考査と提出物の状況を見て評価します。定期考査は複数の教材から出題し、100点満点となります。
- ②本講座は、英語の科目「ライティング」として評価を出します。

授業計画：ライティング【文法】

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	L.20 L.18. L.19 L.20	PRACTICAL (PART1) パターン・ビルダー	不定詞 否定
	5	L.21. L.22 定期考査	PRACTICAL (PART1)	分詞
	6	L.23 L.24 L.25 L.21. L.22 L.23	PRACTICAL (PART1) パターン・ビルダー	動名詞、仮定法、時制の一致、話法 譲歩、時
	7	定期考査		
	8	夏季休業		
	9	L.24 L.25 L.26 L.1 L.2 L.3 L.4	パターン・ビルダー PRACTICAL (PART2)	条件・仮定、
	10	L.27 L.28. L.29. L.30 定期考査 L.5 L.6 L.7 L.8	パターン・ビルダー PRACTICAL (PART2)	目的・結果、特殊構文
	11	L.9 L.10 L.11 L.12 定期考査	Next Stage 実力養成トレーニング PRACTICAL (PART2)	
後 期	12	冬季休業		
1	L.13 ~ L.14	Next Stage 実力養成トレーニング PRACTICAL (PART2)		
2				
3				

リーディング【英語中級】

文理共通自由選択

単位数	2
担当者	小松 由貴子
教科書	MAINSTREAM Reading Course

1 講座のねらい

第2学年で学習した「英語Ⅱ」の基礎の上に、主に英文の読解力の養成を目標にします。(教科書 MAINSTREAM Reading Course)で身につけた技能を副教材を学習していく中で発展させていき、最終的には「直読直解力」を身につけるようにします。また英文を読むことを通じて様々な背景知識の理解を深めます。

2 授業の内容と進め方

予習の段階でテーマ毎の問題を解くようにします。その後、わからない単語を調べ本文の内容を把握します。授業では主に解答に辿り着くための着眼点や英文の内容を解説します。その後復習として自分なりに再度英文を確認し音読します。

3 学習する上での留意点

英語の語彙が4500語を越えるため、わからない単語、熟語を自分なりに整理し、単語帳などを作り、積極的に語彙力向上に努めます。また、英文は長くなり複雑になるので、英文の文構造を素早く把握できるように自主的に調べ、音読練習をしていくことが大切です。

4 副教材・参考書

「Cutting Edge 1」 エミル出版

5 課題・補習について

適宜実施します。

6 評価の視点・考査について

定期考査「リーディング」として、必修 のリーディングと合算で評価を出します。また、小テストを適宜実施します。

授業計画：リーディング【英語中級】 文理共通自由選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	Chapter 1～3	Cutting Edge 1 大学入試長文読解問題集	リーディングで学習している「読解力」の技能の向上
	5	Chapter 4～6 定期考査	Cutting Edge 1 大学入試長文読解問題集	同上
	6	Chapter 7～10 定期考査	Cutting Edge 1 大学入試長文読解問題集	
	7	定期考査		
	8	夏季休業		
	9	Chapter 11～13	Cutting Edge 1 大学入試長文読解問題集	同上
後 期	10	Chapter 14～15 定期考査	Cutting Edge 1 大学入試長文読解問題集	同上
	11	Chapter 16～18 定期考査	Cutting Edge 1 大学入試長文読解問題集	同上
	12	冬季休業		
	1	Chapter 19～20	Cutting Edge 1 大学入試長文読解問題集	同上
	2	復習		同上
	3			

リーディング【英語上級】

文理共通自由選択

単位数	2
担当者	鶴岡洋宣
教科書	Mainstream English Reading

1 講座のねらい

第2学年で学習した英語Ⅱの学習をさらに発展させ、様々なテーマの英文を読み、段階的により高度な読解力を身につける事を目標にします。読解に必要な語彙力・文法力の強化のみならず、「展開を推測する」、「話の流れをつかむ」、「情報を整理しながら読む」、「情報を素早く検索する」といった本質的な速読スキルを身につけることを目指します。

2 授業の内容と進め方

文の構造、文章の展開に注意を払いながら、内容を把握していきます。また、英文を読む上で、その英文の中で扱われている内容についての知識があることは大きな武器になります。背景情報→内容理解→問題解答で理解深めていきます。重要語句、構文の確認、英問英答形式での内容確認も行ないます。

内容が高度なので、予習は必須です。

3 学習する上での留意点

NAVI BOOKの重要語句を予習で調べ、右ページの本文解説を使って意味を考え、英文を読んでいきます。

背景理解も読んでおくと理解の助けになります。その課に出てきた単語・熟語はその文章の中で覚えていくと、語彙も増えていきます。復習段階では、何度も英文を音読し、日本語に頼らずに英語で理解できるようにしましょう。

4 副教材・参考書

Cutting Edge 3 エミル出版

5 課題・補習について

適宜実施します。

6 評価の視点・考査について

成績は、必修の「リーディング（4単位）」と合算して評価します。

授業計画：リーディング【英語上級】 文理共通自由選択

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前 期	4	Chapter 1 Chapter 2 Chapter 3	Cutting Edge 3	1 「タイタニック号沈没の真実」 歴史・社会 2 「経済成長の要因」 時事・経済 3 「熊の生態」 自然
	5	Chapter 4 定期考査		4 「創造とは何か」 文化
	6	Chapter 5 Chapter 6 Chapter 7		5 「駅の落書き」 小説 6 「デジタル・デバイド」 時事・IT 7 「文化と衝突」 文化
	7	定期考査 Chapter 8 Chapter 9		8 「スローフード」 時事・文化 9 「固定観念と記憶」 心理
	8	夏季休業		
	9	Chapter 10 Chapter 11 Chapter 12		10 「ああ、私のクッキーが・・・」 小説 11 「ジャーナリズムと真実」 社会 12 「幸福な惑星」 宇宙
後 期	10	Chapter 13 定期考査		13 「がんを宣告されて」 人生
	11	Chapter 14 Chapter 15 Chapter 16		14 「医学への期待」 時事・医学 15 「言語の消滅」 時事・言語 16 「水中の CO ₂ 濃度」 科学・自然
	12	定期考査 Chapter 17 Chapter 18 冬季休業		17 「産業革命」 歴史・経済 18 「ナノテクノロジー」 時事・科学
	1	Chapter 19 Chapter 20		19 「世界語としての英語」 言語 20 「虚と実」 メディア
	2			
	3	卒業式		

8 情報 文理共通必修

情報 B

単位数	2
担当者	丸山 富士男
教科書	最新情報B (実教出版)

1 講座のねらい

- ・ 情報の考え方の基礎となる科学や技術を学び、問題を解決する能力を育成します。
- ・ コンピュータの仕組みや特徴、コンピュータを効率的に活用して処理するための方法や工夫、デジタル技術の基礎となる情報の表し方、音や画像などの表現方法などを活用する能力を養成します。
- ・ 実際の社会で使われるデータベースやシミュレーションの考え方について学ぶと共に、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解し、情報社会に参加する上での望ましい態度を育成します。

2 授業の内容と進め方

- ・ 「情報」では、基本的な事柄を理解するだけではなく、実習を通して情報を主体的に活用する事を学びます。また、実習は体験するだけではなく、各自が自主的に考えた作品の制作も行います。
- ・ 実習で作業を行い、知識を確認することにより、情報に関するスキルが自分のものになります。作業を繰り返し十分に行って、使いこなせるようにします。

3 学習する上での留意点

- ・ 情報に関する知識は、授業中で確実に理解し、他の教科等でも活用できるようにします。
- ・ 実習に先立っての説明を確実に理解し、実習を円滑に行えるようにします。
- ・ 実習に用いるコンピュータは、自分だけのものではない。他のクラスで使うことに十分に配慮して使用します。
- ・ 提出物は期限までに、確実に提出します。

4 副教材・参考書

特にありません。

5 課題・補習について

- ・ 定期考査において、概念や用語等に関する内容の試験を行います。
- ・ 実習時にレポートや作品提出の課題があります。また、実習の試験も行います。

6 評価の視点・考査について

評価は、定期考査や実習の試験を主とし、日頃の授業態度及び実習等の作品やレポートなどで総合的に行います。

授業計画：情報 B 文理共通必修

期	月	単元・考査等	教 材	授業内容と着眼点
前	4	問題解決とコンピュータ	生活と情報技術	情報機器の変化
	5	情報の表現とコンピュータの仕組み 定期考査	アナログとデジタル	コンピュータにおける情報の表し方 アナログとデジタルの変換 デジタル化の利点
	6		情報のデジタル化	デジタル情報の表現：数の情報の表現 文字のデジタル表現：音声情報のデジタル表現：画像情報のデジタル表現
期	7	情報の処理 定期考査	アルゴリズム	コンピュータ利用における処理の工夫 表計算ソフト利用における処理の工夫
	8	夏季休業		
	9			コンピュータの基本構成と操作/文章をつくる 表の作成や演算・プログラミング
後	10	定期考査 モデル化とシミュレーション	モデル化 コンピュータによるシミュレーション	モデル化の方法 時間的に変化する現象のシミュレーション 確率的な現象のシミュレーション 待ち行列のシミュレーション
	11	データベース	データベースと情報検索	リレーショナルデータベース
	12	定期考査 冬季休業	情報化が社会に及ぼす影響	社会のシステムと情報技術
期	1		情報社会の問題点	コンピュータ犯罪/ 知的財産権と著作権 コンピュータウイルスとチェーンメール 安全性/情報格差とユニバーサルデザイン
	2			
	3	卒業式		